

授業科目名(英文名) /Course Title	材料加工学 II		
担当教員(所属)/Instructor	戸田 富士夫(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S601006
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>機械加工総論を学ぶことによって、「機械製品ができるまで」と題し創造・独創、概念設計、製図、材料・加工、部品の組立・検査過程を知ることによっての技術教育機械領域の位置づけが理解できるように講義する。またFe-C線図を学ぶことによって鉄鋼材料の基礎を知ることができ、他元素との合金化することによって生活に有用なステンレス鋼、合金工具鋼などに变化することについて学ぶ。鋳鉄については身近な例を取り上げわかりやすく講義する。低融金属は100~60℃程度のお湯で溶ける金属でありその基本合金はハンダである。この合金にある種の元素を加え合金化することによって簡単な低融金属を製作する実験を行う。切削加工については、理論が優先するが簡単な火花試験法やバイト、エンドミル、WA砥石、GC砥石を見て、触りながら講義する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>地球上に存在する最も多い金属は鉄である。鉄は身近によく使われ、親しみやすい金属であり、鉄なしでは技術の発展はなかったと言っても過言ではない。本講義では鉄鋼材料を基本とした授業を展開するが、鉄は1種類だけでなくさまざまな合金に変化すること、またその硬さや靱性がさまざまに変化すること等、鉄にはまだまだ隠された機能があることを講義と簡単な実験を行い鉄鋼材料のすばらしさを学ぶ。本講義が終わる頃には、鉄を純鉄、炭素鋼(SS材、SC材)、鋳鉄と呼び分けるであろう。これが本講義の目的の一つである。切削加工については座学となるが、その切削理論について学んで欲しい。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	講義中心ではなく簡単な実験を行い、講義の理解度を高める。		
前提とする知識/Prerequisites	もの創りが好きな学生であれば十分である。		
関連科目/Related Courses	もの創りが好きな学生であれば十分である。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	鉄鋼材料、合金工具鋼、高分子材料等、学生にはなじみのない材料であるので、授業の後半20分程度簡単な実験や製作を行ったり、見本品についてその機能、材料等について考える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1週 ガイダンス 第2週 金属材料の基礎 第3週 機械材料の種類 第4週 鉄鋼材料の性質 第5週 合金の種類 第6週 工具鋼の種類 第7週 鋳鉄の種類 第8週 非鉄金属 第9週 表面硬化法 第10週 低融金属 第11週 工作機械 第12週 砥石 第13週 切削加工作業 第14週 高分子材料 第15週 レアメタルとレアアース</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	特に教科書は指定しないが、授業中に説明しきれない分野は資料を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	出席が2/3以上の学生を対象に学期末試験を行い、成績を評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	身の回りにある金属について調べておく		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	イギリス文学史		
担当教員(所属)／Instructor	市川 裕見子(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S674003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	古代、中世から現代にわたるイギリス文学史を概観します。		
授業の達成目標／Course Goals	イギリス文学の生成、発展、消長をイギリスの文化、歴史、社会的背景のなかに位置づけ、理解し、把握した上で、なおそれらを味わう素養を養います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	文化についての知識と理解に該当。		
前提とする知識／Prerequisites	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
関連科目／Related Courses	特にはありませんが、一定の英語力と、文学に対する深い関心があることを望みます。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	I. 導入部イギリス人はどこから来たか II. 古英語(Old English)の文学『ベオウルフ Beowulf』 III. 中英語(Middle English)の文学『カンタベリー物語』チョーサー著 IV. 『アーサー王伝説』 V. トーマス・モア Thomas More 『ユートピア Utopia』 VI. ルネサンス詩・ソネット形式 VII. 演劇・シェイクスピア VIII. ジョナサン・スウィフト Jonathan Swift 『ガリヴァー旅行記 Gulliver's Travels』 ダニエル・デフォー Daniel Defoe 『ロビンソン・クルーソー Robinson Crusoe』 IX. ジェイン・オースチン Jane Austen 『高慢と偏見 Pride and Prejudice』 X. シャーロット・ブロンテ Charlotte Brontë? 『ジェイン・エア Jane Eyre』 エミリー・ブロンテ Emily Brontë? 『嵐が丘 Wuthering Heights』 ?. サッカレー Thackeray 『虚栄の市 Vanity Fair』 ディケンズ Dickens 『オリヴァー・ツイスト The Adventure of Oliver Twist』 ?. 19世紀ロマン主義詩 X III. 20世紀の小説		
教科書・参考書等／Textbooks	参考文献 川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂 Ronald Carter他『The Penguin Guide to Literature in English』		
成績評価の方法／Evaluation	出席と中間レポート(内容は追って指示します)、期末試験(ノートのみ持ち込み可)により評価します。 なお、出席率が三分の二に満たない場合は、単位を取得できません。		
学習上の助言／Learning Advice	是非、作品を実際に読んで、味わってください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	知的障害児心理・生理・病理		
担当教員(所属)/Instructor	司城 紀代美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S702110
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	知的障害児に関して、心理的特性とその支援方法、生理・病理の基本的知識を扱う。		
授業の達成目標/Course Goals	特別支援学校の教員として必要な知的障害児の基本的特性について理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	知的障害児教育に関する基礎的な知識を身につけ、教職への意識を高める。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的知識に関する講義のほかに、ビデオ視聴や受講生のレポートをもとにしたグループワークや全体討論なども併せて行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 人間の発達に関する基礎理論 3. 知的障害とは何か 4. 知的障害のアセスメント 5. 知的障害における心理機能の特徴：知覚・学習・記憶 6. 知的障害における心理機能の特徴：言語(1) 7. 知的障害における心理機能の特徴：言語(2) 8. 知的障害における心理機能の特徴：数概念・問題解決 9. 知的障害における心理機能の特徴：注意・動機づけ 10. 中間レポートによるグループワーク 11. てんかん, ダウン症 12. 自閉症, LD, ADHD 13. 知的障害をめぐる最近のトピック(1) 14. 知的障害をめぐる最近のトピック(2) 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	以下の文献を用いたグループワークを行う ダニエル・キイス(小尾美佐訳)『アルジャーノンに花束を』早川書房		
成績評価の方法/Evaluation	小テスト(20%), レポート等の提出物(20%), 試験(60%)により総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	知識を身につけるだけでなく、それを使ってどのように考えるかが重要です。自分自身の考えを持ちながら、授業に参加してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	社会福祉学概論		
担当教員(所属)/Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S802508
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	社会福祉を援助するために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがあります。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史を考えていく。		
授業の達成目標/Course Goals	社会福祉の現代的意義を歴史、理論、対象分野、法・制度、担い手等の各領域からとらえ、体系的に理解することを目的とする		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	地域公共領域の専門科目として、社会福祉に関する基礎的な知識を身につける科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	現代福祉事情を履修していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	現代福祉事情を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義を中心にビデオなど視聴覚教材も活用していきます。新しく施行された法律や特に新しく社会問題化してきたことを扱うために、内容が変更になることがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業説明、福祉とは 第2回 社会福祉の援助活動 第3回 個別援助 第4回 集団援助 第5回 地域援助 第6回 社会福祉の政策 第7回 福祉国家の形成(1)イギリスにおける福祉国家の形成 第8回 福祉国家の形成(2)北欧諸国の歩み 第9回 日本の社会福祉のあゆみ(1)第二次世界大戦まで 第10回 日本の社会福祉のあゆみ(2)戦後から現在まで 第11回 社会福祉の運営(1)ニーズとアセスメント 第12回 社会福祉の運営(2)行財政 第13回 社会福祉の理念(1)QOL、ノーマライゼーション 第14回 社会福祉の理念(2)エンパワメント 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書 『社会福祉をつかむ』有斐閣		
成績評価の方法/Evaluation	中間レポート40%期末試験60%		
学習上の助言/Learning Advice	社会福祉をさまざまな視点から分析して一緒に考えていきましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	論理的思考演習		
担当教員(所属)/Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950035
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアポを取ってください))		
授業の内容/Course Description	社会問題を主たるテーマとし、異なる立場のチーム(A・B)に分かれて議論を行う。また審判チーム(C・D)は、A・Bどちらのチームの主張がより説得的であったかを判断する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・俯瞰的にものごとを捉えられる力を修得すること ・自己の主張を支える根拠を徹底的に調査し、検討を深める態度を修得すること ・自己の主張を筋道を立てて説得的に表明できる技術を修得すること 		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	総合人間形成課程の自己開発科目中の基礎力養成科目のひとつに位置づけられる。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は、特にない。ただし、演習科目という性質上、(1)主体的・能動的態度で取り組むこと及び(2)受講者全員が、この授業の運営責任を担うことを認識することが要求される。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	演習方式で行う。 各テーマについて、受講者全員が事前に準備して授業に臨む。異なる立場のチーム(A・B)に分かれて議論を行う。審判チーム(C・D)は、どちらの主張が説得的であったかの判定を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回 ガイダンス(1) 第2回 ガイダンス(2) 第3回 政治問題(1) 第4回 政治問題(2) 第5回 外交・国際問題(1) 第6回 外交・国際問題(2) 第7回 財政金融・経済問題(1) 第8回 財政金融・経済問題(2) 第9回 教育・家庭問題(1) 第10回 教育・家庭問題(2) 第11回 社会問題(1) 第12回 社会問題(2) 第13回 自由課題(1) 第14回 自由課題(2) 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書として、西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブッカーディベートで鍛える論理的思考力』(法律文化社、2012年)を指定する。受講前に購入し、必ず目を通しておくこと。 参考書として、瀧本哲史『武器としての決断思考』(星海社新書、2011年)、望月和彦『ディベートのすすめ』(有斐閣選書、2003年)、松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(玉川大学出版部、2007年)をあげておく。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度(事前課題に対する取組みや授業中の発言等)で評価する。原則として、全回出席者を単位認定対象とする。無断遅刻・欠席は認めない。事前課題を怠る者の出席は認めない。		
学習上の助言/Learning Advice	受講者には、周到な事前準備および授業中の積極的な発言を期待する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	音楽 A		
担当教員(所属)/Instructor	新井 恵美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S101605
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	新井 恵美(arai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	新井 恵美(前期)金13:00~14:00 (後期)金14:30~15:30 これ以外はEメール等で予約をしてください。)		
授業の内容/Course Description	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な、音楽の基礎、簡単な楽典、楽器(リコーダー、打楽器など)の奏法などを扱います。また、楽譜を読む練習をしたり歌を歌ったりなどの実技や鑑賞も全体で行います。		
授業の達成目標/Course Goals	実技等の実践を通して、小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育教員養成課程の必修科目です。 小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざす授業です。		
前提とする知識/Prerequisites	小・中学校での音楽経験(＃b1つまでの調号を持つ楽譜を読むことができるなど)		
関連科目/Related Courses	小・中学校での音楽経験(＃b1つまでの調号を持つ楽譜を読むことができるなど)		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	楽典では、内容の説明の後、問題演習を行います。 打楽器、ソプラノリコーダーの実習は、奏法の確認の後、実技を行います。 歌唱(楽譜を読む練習も含む)やリズム打ちなどは、クラス全員で実習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1回オリエンテーション 第2回鑑賞(1)、楽典(1) 楽譜とは 第3回鑑賞(2)、楽典(2) 音符と休符 第4回鑑賞(3)、楽典(3) 五線と音名 第5回鑑賞(4)、楽典(4) 拍子の表し方(指揮法) 第6回鑑賞(5)、楽典(5) 反復記号、強弱記号など 第7回鑑賞(6)、打楽器(1) 概説 第8回鑑賞(7)、打楽器(2) タンブリン、トライアングル、カスタネット、すず 第9回鑑賞(8)、打楽器(3) ウッドブロック、クラベス、マラカス、シェイカー 第10回鑑賞(9)、打楽器(4) ギロ、カバサ、カウベル、アゴゴ、ヴィブラスラップ、ウィンド・チャイム 第11回鑑賞(10) 打楽器(5) ポンゴ、コンガ、シンバル、大太鼓、小太鼓、ティンパニ、木琴、鉄琴 第12回鑑賞(11)、打楽器(6) トーンチャイム、ベル、リコーダー(1) リコーダーの種類、持ち方、構え方など 第13回鑑賞(12)、リコーダー(2) 左手の練習、右手の練習 第14回鑑賞(13) リコーダー(3) サミング 第15回鑑賞(14) リコーダー(4) 派生音</p> <p>実技のため、進捗状況によって内容が前後することがあります。 また、適宜、歌唱(合唱を含む)や合奏なども行います。その際、楽譜を音名(ドレミ)で歌う演習やリズム打ちなども行います。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>教科書 改訂版楽譜が読めると音楽がおもしろいメトロポリタンプレス</p> <p>参考書 知っておきたいおとなのための音楽知識カワイ出版 五線譜の約束明星大学出版部 初等音楽科教育法ハートフルメッセージ明星大学出版部 ミッキーといっしょ楽譜のやくそくヤマハ 高校生のための新・楽典ワークドレミ楽譜出版社 問題・解答付きでわかる!楽譜の読み方デプロMP よくわかるやくにたつザ・楽典ヤマハ きれいにうたいましょうソルフェージュ1~3ヤマハ リズムに強くなるソルフェージュショパン リズム練習とソルフェージュ1~3全音楽譜出版社 器楽合奏にチャレンジ1~3汐文社</p>		
成績評価の方法/Evaluation	リアクションペーパーの記入状況(30%)ペーパーテスト(70%)で評価します。		

学習上の助言／Learning Advice	ソプラノリコーダーを使用します。小学生の時に使用していたもので構いませんが、新たに購入する場合には、いくつかの注意事項がありますので、初回の説明を聞いてから購入してください。 各教員のクラスの学生数は、実技授業の関係上、原則として50名程度とします。 実技能力の向上のために、予習・復習をしっかりと行ってください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	図画工作 A		
担当教員(所属)/Instructor	山口 喜雄(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 美術教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S101763
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	小学校でよりよい図画工作指導を行うために必要な表現と鑑賞の実技を体験します。楽しく充実した授業づくりに不可欠な各学年児童の発達の理解および見通をもった具体的で多様な指導法、学習指導案作成の基礎となる図画工作の沿革・時代認識・学習指導要領・学力観・評価なども実技と関係的に解説します。		
授業の達成目標/Course Goals	多様な状況に対応し図画工作の授業実践を創造的に行える教師としての態度と能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	各授業の開始時に当日の学習課題を焦点化させ、終了時に自分の到達点を自覚できるように授業を展開します。また、毎回の学習内容が興味深い活動の連続的な展開となり、受講者が自分の「よさ」に気づき、自他の可能性を自覚できるように設定し、その過程で児童期に形成された受講者の不得意識の解消を図り、同様の悩みをもつ児童への共感的な態度を養います。さらに、図画工作の理念や理論、多様な題材・教材の実践事例、多様な状況に応じた児童への接し方、評価・評定などに関係的に理解できるように授業を進めます。		
前提とする知識/Prerequisites	上記を理解し、やる気と必要な用具の持参、準備をして受講すれば、特に必要なことはありません。		
関連科目/Related Courses	美術教育専攻生は、「美術科指導法Ⅱ」で現代文化状況下での中学校美術の多様な学習指導法を学べます。また「美術科指導論」では、実資料に基づき明治・大正期、昭和前期・後期、平成期の美術教育の沿革や学習指導法を多様な観点から学ぶことができます。美術教育専攻生でなくとも、興味がある他専攻生が多数受講した実績があります。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1)【学生の視点】毎授業開始時に前記の「学習課題」に関する理解状況を記入します。 2)【児童の視点】小学生にできる「表現」「鑑賞」の実習に取り組みます。 3)【教師の視点】表現や鑑賞の指導に求められる理念や具体的な指導法等々を学びます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	[a 基礎編：理念・理論実践の全体像の形成]……以下は各回の「学習課題」例 1. 進学熱の高い小学校に赴任、6年生の初授業で学習方針をどのように語るか 2. 《自分を伝える》絵の導入時、6年生のやる気が高まるようにどう語るか 3. ひとり一人のよさを引き出す《自分を伝える》絵の鑑賞活動をどう展開するか 4. 自分の作品を「児童作品」としてとらえ、そのよさを教師としてどう語るか 5. 6年生からの「図画工作という個性って何ですか」との質問にどう応えるか 6. ハサミを使う2年生の《より高く美しいタワー》の安全指導をどう語るか 7. 5年生の問い「”芸術”と子どもの表現とどうちがうの」にどう応えるか 8. 筆を使わずに描く5年生の《グチャグチャ君の芸術》をどう評価するか 9. 図画工作で使う画材の特性(基礎知識)を実習を通して6年生にどう伝えるか 10. 高学年生への美術館での鑑賞学習の事前指導・レポート作成をどう指導するか 11. 1年生の問い「図画工作ってどうしたらできるようになるの」にどう語るか 12. 「日本文化」を図画工作学習にどう具体的に反映させた授業をつくるか 13. つくり・描き・鑑賞時の発表の際にどのような言葉かけが励ましとなるか 14. 低・中・高学年の図画工作を見通して、子どもの「想い」をどう培っていか 15. 新学習指導要領「図画工作」の「新しさ」を学校教育と子どもの視点で考える		
教科書・参考書等/Textbooks	新井・天形・山口編『小学校図画工作科の指導』建帛社(2010年刊)、文部科学省編『小学校学習指導要領解説図画工作編平成20年8月』、色鉛筆12色、パス類16色、はさみ、水彩絵具セット、他の必要な教材授業等は各々前回に連絡します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への積極的な参加や学習課題への主体的な考察・表現意図の発表・授業ノートや表現した作品等々60%、毎回のレポート提出・最終回の小論文40%、両者を総合的に評価します。授業への出席は、教育実習等を除く4/5以上が必須条件です。		
学習上の助言/Learning Advice	本授業(前期水曜日7-8時限)は、学校教育専攻および国語教育専攻の2年生33名(予定)の指定科目です。受講条件の低下に全受講者が同意できれば、総定員40名までの若干名の受講希望者は受け入れられます。 【重要】他に専攻指定がない図画工作Aは、前期木曜3-4時限と同5-6時限があります。その際、座席数を超えない範囲で4年次生・次に3年次生を優先し、2年生以下は初回授業で抽選や相談等を行うので初回出席が必須条件です。空きがない場合は、2回目以降の受講希望は受け入れられません。(今年度から登録用紙事前記入は行いません)		
キーワード/Keywords	図画工作、美術教育、造形の表現と鑑賞、造形遊び、評価・評定		
備考/Notes	2015年度までは宇都宮大学教授、2016年度からは非常勤講師として本授業を担当します。勤務時間帯は前後期共に7-8・9-10時限なので、相談がある場合はその前後に本学8号館1階図画工作室に来てください。		

授業科目名(英文名) /Course Title	国語研究セミナーB I		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 啓子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S226127
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鈴木 啓子(suzukike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鈴木 啓子(金曜日10時~10時半、16時~17時。できれば、事前にメール等で予約しておこしてください。6号館3階、鈴木啓子研究室、芥川龍之介のイラストがウィックしている扉です。)		
授業の内容/Course Description	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品を採りあげて、小説を解釈・鑑賞・評価するためのアプローチ方法を、作品に即して実践的に指導する。開講年度にテーマを設定して作品を選択する。27年度前期は、「子供」「少年」「少女」をテーマに短編小説を取りあげる。		
授業の達成目標/Course Goals	1)文学作品の書誌的事項・作品成立の背景・研究史を調査し、整理できるようになる。 2)文学作品のディテールを注釈的に調査し、作品分析に繋げられるようになる。 3)文学テキストの「解釈」をめぐる、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 4)問題を設定し、自らの仮説を立て、それを論証する論理的考察力と文章力を修得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。中学・高等学校の文学的教材の教材研究に必要な能力の育成にもなる。		
前提とする知識/Prerequisites	「日本文学概説A」「日本文学演習ⅠⅡ」が履修済であること。28年度前期の「日本文学史(近代)」を併せて受講すること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講者に興味のある作家と作品を選んでもらい、担当者の発表を叩き台に、受講者全員で活発な議論を楽しみたい。①参考文献の検索・入手方法、②文献の整理と論点の見つけ方、③作者・作品に関する基礎的情報の整理方法、④注釈的アプローチの方法、⑤分析の方法、⑥試論の立て方、⑦発表レジュメの作り方、⑧質疑の仕方、⑨論述式レポートの書き方などを、個々の作品に即して具体的に指導する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	受講者数が未定のため、詳細な15回の授業計画は現時点では提示できない。日時・担当者・担当作品のスケジュール表を第4回までに作成して配布する。 第1回=ガイダンス。受講希望者は必ず出席すること。 第2回~第3回=担当作品と発表の順番を決定する。演習発表の基本的な作業を説明する。 第4回~第30回=受講人数にもよるが、1人1作品、1作品につき2週を予定している。		
教科書・参考書等/Textbooks	教材はプリントを配布するか、安価な文庫本の購入を指示する。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	口頭発表と年度末に提出するレポート、および平常点(出席状況と担当者の発表に対する質疑応答の態度)で総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	教室の座席数が許せば、卒論制作中の4年生、院生、内地留学生にも参加してもらい、学年を超えて議論する場を設けることを心がけています。他分野での卒論・修論を予定している方も、様々な「小説」を読む場所として利用していただければ幸いです。ただし聴講の場合も、継続的な出席を受講の条件と致します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	倫理学概論		
担当教員(所属)/Instructor	吉村 均(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S255507
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	吉村 均(授業期間中にコンタクトすること)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	吉村 均(授業終了後の休み時間の前半、教室において)		
授業の内容/Course Description	人生にはすでに答えがある問いよりも答えがない問いの方がはるかに多い。倫理学は「いかに生きるか」という後者の問いに取り組む学で、西洋の知識や技術を取り入れるという発想で作られた学校教育制度のなかでいかにあるべきかは、いまだ模索の途上にある。哲学者のヤスパースは、古代のある段階で世界各地に世界宗教といえるものが生まれ、その帰結として現代社会があると考えた。その現代社会は今、様々な問題に直面している。過去の思想を振り返り、それを踏まえううえで、これからの私たちがいかにあるべきかを考えていく。		
授業の達成目標/Course Goals	思想家の名前や著作の内容の単なる暗記ではない、いかに生きるかという、あらかじめ正解が用意されていない問いを考えるという、倫理学の発想法になじむ。同時に、それを考える手がかりとなる東西の思想について、発想の違いや特色について実際に触れてみる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	様々な思想に触れることによって視野を広げ、それらを単なる知識としてではなく、それらを手がかりに思索を深めること学び、教員にふさわしい資質を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	高校で倫理を履修しなかった学生は、あらかじめ高校教科書ないし学習参考書に目を通しておくことが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式だが、質問を歓迎する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>(学生の理解の度合い等によって、進み具合、構成など一部変更する場合があります)</p> <p>第1回 宗教の誕生：死と人間の文化 (参考『神と仏〔改〕』一章1)</p> <p>第2回 世界宗教の誕生(1)：ヘブライズム、ヘレニズム、諸子百家 (参考『神と仏〔改〕』その後の展開)</p> <p>第3回 世界宗教の誕生(2)：インド思想と仏教 (参考『神と仏〔改〕』二章1)</p> <p>第4回 日本における展開：仏教伝来と神仏習合 (参考『神と仏〔改〕』一章1、三章1)</p> <p>第5回 現代社会の発展とその問題点：マルクスの予測、南北・環境問題、原発の夢</p> <p>第6回 日本にとっての近代化：西洋諸国によるアジアの植民地化と明治維新、「大東亜共栄圏」の夢 (参考『神と仏〔改〕』補論)</p> <p>第7回 和辻哲郎の「人間の学」と反哲学(ニーチェ・ハイデガー) (参考『神と仏〔改〕』一章2)</p> <p>第8回 和辻哲郎の「人間の学」とカント・ヘーゲル (参考『神と仏〔改〕』補論)</p> <p>第9回 和辻哲郎の「人間の学」と仏教 (参考『神と仏〔改〕』一章2、補論)</p> <p>第10回 和辻哲郎の「人間の学」と日本の思想文化 (参考『神と仏〔改〕』補論)</p> <p>第11回 柳田国男の「常民」の学(1) (参考『神と仏〔改〕』一章3)</p> <p>第12回 柳田国男の「常民」の学(2) (参考『神と仏〔改〕』一章3)</p> <p>第13回 折口信夫の「古代学」(1) (参考『神と仏〔改〕』一章3、三章2)</p> <p>第14回 折口信夫の「古代学」(2) (参考『神と仏〔改〕』一章3、三章2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書(に準じる参考書)：吉村均『神と仏の倫理想〔改訂版〕』。補足プリントを配布する予定。 参考書：見田宗介『社会学入門』岩波新書。同『現代社会の理論』。『現代思想』2016年1月臨時増刊号。木田元『反哲学入門』新潮文庫。苅部直ほか『日本思想史ハンドブック』新書館。佐藤正英『日本の思想とは何か』筑摩書房。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(持込可)。レポートに替える場合がある)70%。平常点30%(授業中に感想を書くなどの課題をだすことがあり、成績評価に反映される)		
学習上の助言/Learning Advice	すでに用意されている答えをわかりやすくまとめて頭に入れるという、学生の皆さんが慣れているやり方とは異なるので、人によっては、不親切だ、全くわからないと感じるかもしれない。しかし、(倫理学、哲学など)思想というのは、自分で考えたその分しか身につかない。先人は答えではなく、考え方の例を提示してくれるにすぎない。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地理学特講 B		
担当教員(所属)／Instructor	奥井 正俊(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S261108
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	数理計量地理学の基礎的事項を講義する。フィールドワークとデータ処理、それにもとづく地理学理論の構築、という一連の研究過程に不可欠な方法論を平易に説き明かす。		
授業の達成目標／Course Goals	卒業論文作成につながる地理学的研究力を身につけるとともに、統計分析の基礎的能力や実践力と科学的な思考力をもつようになる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	高校地歴の免許取得聴講科目(選択)。文系コースに属する社会科教育専攻の専門科目であるが、自然環境をも含む複合体としての地域の数量的把握について関心を喚起する。		
前提とする知識／Prerequisites	地理学分野の概論において履修した地理学の基礎的知識。		
関連科目／Related Courses	地理学概論 A、地理学概論 B、地誌学概論 A、地誌学概論 B		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を主とするが電算機実習を併用する。授業時間外の学習(1回の授業につき30分)では専門用語をよく調べてもらいたい。ExcelとR環境を用いた統計分析の実習を数回予定している。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	まず主要分野(分布パターン、ネットワーク、地域傾向面、地域区分、空間的相互作用、空間的拡散)を概観してから、次いで数理計量地理学のツールである統計分析の基礎(数値データの種類、1変量統計分析、2変量統計分析、多変量解析)を扱う。初回の授業中に講義目次を板書する。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しない。プリントを随時配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	考査は平素の履修状況・レポート(100%)により行う。		
学習上の助言／Learning Advice	授業内容を中学社会地理分野や高校地歴での教育にどうリンクさせるか自発的に考えてもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	平面構成 II		
担当教員(所属)/ Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	S453019
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 前期/ First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/ Credits	1単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/ Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/ Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容/ Course Description	平面構成Iで修得した色彩に関する基礎理論の成果を基に、平面空間について、色彩と形態の関係から構成していく実技課題を行う。平面表現の基礎的技法について、さらに指導する。		
授業の達成目標/ Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩基礎理論について、課題を通じてさらに理解を深め、自己の平面表現に生かせるようにする。 ・絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について習熟する。 ・平面空間の構成法について、色彩と形態の関係から理解し、与えられた条件の中で適切な平面表現をできるようにする。 		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	「美術」中学校一種二種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。		
前提とする知識/ Prerequisites	平面構成Iとあわせての受講が原則。		
関連科目/ Related Courses	平面構成Iとあわせての受講が原則。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	実技が中心となります。与えられた課題に対して、エスキースで案を練り、本制作に入るのが一般的な流れです。各段階で個人指導をおこない次の段階に進みます。課題最後にプレゼンテーション・講評を行いません。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション(授業の進め方、用具・材料・教科書について) 第2週 色彩基礎演習課題1 第3週 色彩基礎演習課題2 第4週 色彩基礎演習課題3 第5週 色彩基礎演習課題4 第6週 色彩基礎演習課題5 第7週 色彩基礎演習課題6 第8週 色彩基礎演習課題講評 第9週 色彩構成課題1(課題説明、エスキース) 第10週 色彩構成課題1(エスキース、制作) 第11週 色彩構成課題1(制作) 第12週 色彩構成課題2(課題説明、エスキース) 第13週 色彩構成課題2(エスキース、制作) 第14週 色彩構成課題2(制作) 第15週 色彩構成課題プレゼンテーション講評		
教科書・参考書等/ Textbooks	教材：用具一式(平面構成Iと同じ)		
成績評価の方法/ Evaluation	課題への取り組み(50)、提出作品とプレゼンテーション(50)で総合的に評価します。遅刻・欠席は減点となります。		
学習上の助言/ Learning Advice	1. 実技の進行に関わるので、欠席・遅刻のないように。2. 授業に必要な用具・材料等は、事前に準備しておくこと。		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	工芸理論		
担当教員(所属)/Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S477003
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容/Course Description	工芸作品に用いられる材料には、繊維・木・金属・ガラス・土・石・樹脂等、様々な素材が用いられている。この講義では、各種工芸素材が、具体的にどのように用いられ、どのような工芸作品が生み出されてきたか、またどのような役割があったかを概観し、それらの工芸の多彩な表現を知ることにより、これからの工芸の可能性を探っていきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	各種工芸作品・文献に見る工芸素材・各種工芸素材の使い方やプロセス等を映像や作例にて学習し、工芸デザイン課題を通しこれからの工芸素材の展望・表現の提案をおこなう。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	工芸理論は、学校教育教員養成課程の専門教育科目として、総合人間形成課程では芸術文化領域専門科目として芸術の領域の専門性を深める授業である。また、高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	工芸美術に興味をもち、積極的に授業に取り組むことができること。		
関連科目/Related Courses	工芸I, 工芸II, 工芸III, 工芸III, 立体構成I, 立体構成II, 美術表現基礎, 工芸科教育法I, 工芸科教育法II, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	漆芸・金工・陶芸・ガラス・染織・木工などの過去から現代までの工芸作品・文献に見る工芸素材・各種工芸素材の使い方やプロセス等を映像や作例にて紹介し、時代・地域・素材による比較考察や、これからの工芸素材の展望・提案をおこなっていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	10週目までは講義形式でおこない、12-15週は各自が工芸作品を提案する演習方式でおこなう他、3回のワークショップを予定している。 第1回 ガイダンス 各種工芸材料の概要ー工芸材料と呼ばれるものには、どのようなものがあるのか 第2回 漆に関する工芸 第3回 繊維に関する工芸 第4回 染色に関する工芸 第5回 陶に関する工芸 第6回 金属に関する工芸 第7回 金属工芸に関するワークショップ(鍛金) 第8回 ガラスに関する工芸 第9回 ガラス工芸に関するワークショップ(パート・ド・ヴェール) 第10回 アジア各国の工芸素材の利用・表現法ー刺繍・染織・装身具等を中心として 第11回 表現の可能性を探るー現代の工芸作品にみる表現、及び材料の使い方を紹介。 第12回 各種工芸材料を取り入れた工芸デザイン課題 第13回 具体案の提示 第14回 染色に関するワークショップ(藍染) 第15回 工芸デザイン課題の発表 (材料や道具の準備状況により、授業内容やワークショップの予定が前後する可能性がある)		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中に配布する資料を参考に進める。その他必要に応じて指示する。3回のワークショップにて、1000円程度の材料費がかかる。		
成績評価の方法/Evaluation	作品計画レポート(70%)と、授業への取り組み(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	工芸は私たちの生活する環境の中で、最も身近で不可欠であり長い歴史をもつ美術の分野であると考えている。普段何気なく接している工芸を、今一度見直す機会になればよいと思う。工芸を知る上で参考になる展覧会があれば、可能な限り紹介し参観するようにすすめる。工芸理論の授業を通し、工芸の多彩な表現を理解し、教育現場での指導に応用できるよう期待する。		
キーワード/Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中等家庭科教育法Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	良 香織(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S564106
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業は、中等教育における現代家庭科の教科論及びカリキュラムについて、戦後の変遷を踏まえながら、目標・内容、指導方法、評価等について概説するものである。また、家庭生活を取り巻く諸課題と家庭科教育との関係性を考察することにより、その意義や役割について検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中等教育における現代家庭科の教科としての特質を理解する。 2. 中学校家庭科学習指導要領の内容を把握する。 3. 中学校における家庭科学習の現状を知り、学習指導にいかそうとする。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中等教育における家庭科の位置づけと対応。		
前提とする知識/Prerequisites	自らの小中高の家庭科の学習経験をふりかえる、生活における多様な経験		
関連科目/Related Courses	自らの小中高の家庭科の学習経験をふりかえる、生活における多様な経験		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式。適宜、ビデオ視聴や演習、討議などを取り入れる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび中学生の生活実態について 2. 中学校家庭科の歴史 3. 中学校家庭科の目標・内容 4. 小学校家庭科、高等学校家庭科との連携 5. 中学校家庭科学習指導要領の解説 6. 家庭科学習指導の特質 7. 家庭科の教材研究 8. 家庭科の評価方法 9. 中学校家庭科学習指導計画について 10. 家庭科学習指導案の書き方と分析 <ol style="list-style-type: none"> 11. 模擬授業を見る視点 12. 授業記録の活用 13. 授業をどう評価するか 14. 模擬授業を終えての議論 15. 中等家庭科教育法Ⅱに向けての課題検討 		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>◆教科書： 佐藤文子・川上雅子共著『家庭科教育法(改訂版)』、高陵社書店</p> <p>『技術・家庭科：家庭分野』(中学校教科書)、開隆堂</p> <p>『家庭総合』(高校教科書)、開隆堂</p> <p>『家庭科ACCESS資料集(食品成分表付き)』、開隆堂</p> <p>◆参考書： 鶴田敦子・伊藤葉子編著、『授業力UP家庭科の授業(第2版)』、日本標準</p> <p>『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』</p> <p>『中学校学習指導要領解説編』、『高等学校学習指導要領解説編』</p> <p>◆教材： 資料を適宜配布する。</p>		
成績評価の方法/Evaluation	出席・授業考察文(40%、但し出席2/3以上)、製作や教材研究発表(40%)、期末テスト(20%)。60%以上合格。		

<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「講義を受ける」と考えるのではなく、積極的に参加し、自分で考えること。そのプロセスを評価します。 ・家庭科は、生活をする上での諸問題についての学びを通して、社会と自らの生活のつながりを考え、多様な生き方があることを知り、どう生きるかということ子どもたち自身が考える教科です。学生の皆さんは、今後、教育に関わる者として、1つの物事を多面的に見ることができるようになってほしいです。「当たり前」「自然」と思ってきたことを改めて社会科学的に考えてみる。生きること全般に関する事象を様々な視点から考える&様々な情報を集める。それによって本当の意味での「想像力」が身に付くのではないのでしょうか。学生時代、そして社会人になってからも継続してそういう経験を積み重ねることは、子どもたちに向かい合う時にとっても重要になるのではないかと思います。焦らずに、積み重ねていきましょう。
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	技術学実験実習 II		
担当教員(所属)/Instructor	苫米地 義郎(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S608000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 7, 水/Wed 8, 水/Wed 9	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	苫米地 義郎(金曜日12:30~12:50(苫米地研究室) 非常勤ゆえ未定)		
授業の内容/Course Description	今日の科学技術の基盤となる電気電子工学における基礎的分野に関するテーマ(8つ程度)について実験を行うことにより、すでに学習済みの電気工学I, IIの内容をより確実なものにする。同時に電圧計、電流計、発振器、オシロスコープ等の汎用測定器の取り扱い方法を完全に習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ毎に用いる各種測定器を間違いなく使用できる。 ・オシロスコープを用いて、各種交流電圧波形を観測できる(振幅、周波数等が読み取れる)。その際、プローブの取り扱いも説明できる。 ・チームワークの大切さを知るとともに、科学技術論文の書き方を修得している。 ・レポートを書くことにより、すでに学習済みの電気工学I, IIの内容をより確実なものとなることができる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校一種(技術)の教員免許状を取得するための必修科目です。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実験は3から4人の班に分かれて行う。班分けは第1週目のガイダンスの時に行う。実験は実験書に書かれた手順に従い、測定機器を破損しないように丁寧にを行う。また、実験データをグラフ等にプロットしながら実験を進める。従って、本実験実習にはグラフ用紙(対数グラフも含む)を持参して臨むように。また本実験実習は、大学院生のTAも加わることになるので、理解できない点があったら、TAにも積極的に質問をするように。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週ホイートストーンブリッジ 第3週電気抵抗の温度係数の測定 第4週オシロスコープによる交流回路の測定 第5週サーミスタの静特性 第6週R-L-C直列共振回路 第7週ダイオード 第8~11週整流平滑回路 第12~14週ゲルマニウムラジオの作製 第15~第16週予備実験日		
教科書・参考書等/Textbooks	指導書：本学技術教育教室で編集したものをガイダンス時に配布する。(無料) 参考書：本実験実習で扱う基本的なテーマに関しては多くの実験書が販売されているが、本学図書館にも多くの蔵書があるので、図書館の利用を勧める。		
成績評価の方法/Evaluation	実験態度(20%)、レポート(60%)、出席状況(20%)等を総合評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	電気現象は一般に目に見えないため、電気工学を理解するには厄介な面がある。そのため本実験実習ではオシロスコープを頻繁に使用する。この測定機器の使用法を完全に修得して欲しい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	肢体不自由児教育概論		
担当教員(所属)/Instructor	池本 喜代正(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S702140
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	肢体不自由教育の歴史、教育制度、そして肢体不自由を中心とする児童生徒の特性や肢体不自由教育の特色・教育内容について学習する。		
授業の達成目標/Course Goals	肢体不自由児の理解を深め、特別支援学校教員としての基礎的な知識を習得することを目的とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	特別支援教育(肢体不自由)に関する基礎的な知識を獲得させ、教職への志向を高める。		
前提とする知識/Prerequisites	障害児教育に関する基礎的な知識を必要とする。特別支援教育概論を受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	障害児教育に関する基礎的な知識を必要とする。特別支援教育概論を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義が中心となるが、ビデオや文献購読など具体的な経験をもとにその内容についての討論も行う。調べ学習として、レポートの報告も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週肢体不自由教育の歴史 第3週肢体不自由教育の制度 第4週特別支援教育制度における肢体不自由教育 第5週肢体不自由教育の教育内容・方法 第6週肢体不自由についての理解と対応 第7週肢体不自由児に応じた教育課程編成 第8週各教科の指導の工夫 第9週自立活動のねらいと内容 第10週肢体不自由特別支援学校における教育の実際(実地指導講師、ビデオ) 第11週自立活動の指導の実際(実地指導講師) 第12週個別の指導計画の作成、情報機器等の活用 第13週「障害者の経済学」から考える 第14週肢体不自由児の進路指導 第15週まとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書：全国肢体不自由養護学校長会、特別支援教育に向けた新たな肢体不自由教育実践講座、ジアース教育新社		
成績評価の方法/Evaluation	レポート30%、期末テスト70%、		
学習上の助言/Learning Advice	調べ学習においては、グループでの討議、発表等を行う場合がある。受講生の主体的、積極的な参加を期待している。		
キーワード/Keywords	特別支援教育、肢体不自由児、特別支援学校		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	書道教育法Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S911005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30~18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容/Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、平成27年度以前の入学生を対象とする。 ・高等学校芸術科「書道Ⅱ・Ⅲ」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、臨書と創作などの基礎的な技法の習得を目指す半期講座。 ・教員に求められる資質能力、生徒や教育の在り方についての適切な理解。教職への愛着実践力を身につけてゆく。 		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科「書道」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・芸術科指導の意義と目的を理解し、効果的な指導法の考案と実践の力を養う。 ・深い教養、豊かな専門性、高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、主として学習・教育目標の項目記号(A)に関連する。 		
前提とする知識/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・「書道教育法Ⅰ」を履修した者に限る。 		
関連科目/Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・書道教育法Ⅰ ・書道史 ・書藝美学(書論, 鑑賞) ・書法演習 ・書藝制作 		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・文字史から書道史の内容を確認し、書の効用(生活と書・篆刻・刻字・染色などによる書表現)を実習する。 ・また、教科書を使って古典・古筆などの追体験(臨書)とその制作を模擬授業形式で行い、各指導法及び教材研究を進める。 ・以下の授業計画「教材研究」は個別テーマとなる。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術教育の歴史 2. 書道教育の歴史 3. “教えることなかれ”の真実 4. 教材研究 その1 研究計画 5. 教材研究 その2 研究① 1/3 6. 教材研究 その3 研究② 2/3 7. 教材研究 その4 研究③ 3/3 8. 教材研究 その5 研究計画 9. 教材研究 その6 研究① 1/3 10. 教材研究 その7 研究② 2/3 11. 教材研究 その8 研究③ 3/3 12. 模擬授業 その1 リポート 研究① 13. 模擬授業 その2 リポート 研究② 14. 模擬授業 その3 リポート 研究③ 15. 総括「藝術の役割」 		
教科書・参考書等/Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な課題のみレジュメを配布する。 ・参考書、資料については個別に指示する。 		
成績評価の方法/Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での到達目標が達成され、特に模擬授業などから指導性ある実践力や判断力を60%、各課題(レポートによる認識40%の結果に出欠点を含めて総合的に評価する。 		
学習上の助言/Learning Advice	一通り書ける者(演習科目・書道史を履修)が条件。つまり、創造者の眼を必要とする。		
キーワード/Keywords	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科 ・芸術教育 ・書道 ・工芸 		
備考/Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・書道教育法は【Ⅰ】と【Ⅱ】を隔年で開講している。 ・書道教育法Ⅱは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。 ・講義を通して書の伝統への理解を深め、指導法のみならず理論、臨書力、鑑賞力などを養う。 ・各単元目標における教材研究の必要から、各自の計画的な自学自習の態度が求められる。 		

授業科目名(英文名) /Course Title	合奏 I		
担当教員(所属)/Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S410090
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容/Course Description	吹奏楽の形態を用いた合奏授業。合奏の基礎を実技を通して学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。 ・オーケストラ、吹奏楽の基礎知識、楽器の演奏技術、合奏上の音色の調和、響きの作り方、さらにその指導法を、楽器学的見地、演奏学的観点から学ぶ 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。 ・芸術文化領域の音楽に係わる選択専門科目である。 		
前提とする知識/Prerequisites	音楽教育専攻の入試程度のソルフェージュを要する		
関連科目/Related Courses	まず、楽器のメンテナンス、ハーモニーディレクター使い方を学び、より正確な音程を身につけるために合奏の基本であるチューニングを中心とした基本奏法を身につけ、楽曲を通じて各楽器の役割とその重要性を検証する。さらにそれらの過程を重視しながら、実際に指揮台に立ち、指揮者と奏者の関係を体感し、指導法を学ぶ。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	まず、楽器のメンテナンス、ハーモニーディレクター使い方を学び、より正確な音程を身につけるために合奏の基本であるチューニングを中心とした基本奏法を身につけ、楽曲を通じて各楽器の役割とその重要性を検証する。さらにそれらの過程を重視しながら、実際に指揮台に立ち、指揮者と奏者の関係を体感し、指導法を学ぶ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 呼吸法 第3週 楽器の基本奏法(1) 第4週 楽器の基本奏法(2) 第5週 合奏の基礎知識(1) 第6週 合奏の基礎知識(2)及び合奏演習(1) 第7週 合奏の基礎知識(3)及び合奏演習(2) 第8週 合奏演習(3)及び楽曲演習(1) 第9週 合奏演習(4)及び楽曲演習(2) 第10週 合奏演習(5)及び楽曲演習(3) 第11週 合奏演習(6)及び合奏指導法(1) 第12週 合奏演習(7)及び合奏指導法(2) 第13週 楽曲演習(4)及び合奏指導法(3) 第14週 楽曲演習(5)及び合奏指導法(4) 第15週 楽曲発表及びまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	その都度指示 楽器を個人で持っている人は持参するのが望ましい 参考書:スコア及び楽譜(何版でも可) ジェリー=ウィリアムズ フリースピリット序曲 ヴァン=デル=ロースト アントワープ讃歌 デビッド=シェーファー フライングタイガー スウェアリンゲン ロマネスク ジョニー=ヴィンソン編曲 ディズニーマジカルマーチ 尚美ウィンドスタディ基礎編 JBCバンドスタディ		
成績評価の方法/Evaluation	授業の理解度(50%)、貢献度(50%)を通じて総合的に評価		
学習上の助言/Learning Advice	自発性、感受性を常に心がけること。 授業だけに限らず普段の練習を怠らないこと。		
キーワード/Keywords	合奏、吹奏楽、楽器		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	合奏 II		
担当教員(所属)/Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S410095
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容/Course Description	あらゆる形態を用いた合奏授業。合奏の基礎を実技を通して学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	・合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。・合奏の基礎知識、合奏上の音色の調和、響きの作り方、さらにその指導法を、楽器学的見地、演奏学的観点から学ぶ		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	・中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。 ・芸術文化領域の音楽に係わる選択専門科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	音楽教育専攻の入試程度のソルフェージュを要する		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	まず、楽器のメンテナンス、ハーモニーディレクター使い方を学び、より正確な音程を身につけるために合奏の基本であるチューニングを中心とした基本奏法を身につけ、楽曲を通じて各楽器の役割とその重要性を検証する。さらにそれらの過程を重視しながら、実際に指揮台に立ち、指揮者と奏者の関係を体感し、指導法を学ぶ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 平均律と純正調(1)、チューニング(1) 第2週 平均律と純正調(2)、チューニング(2) 第3週 平均律と純正調(3)、チューニング(3) 第4週 コラール(1) サウンドトレーニング 第5週 コラール(2) サウンドトレーニング 第6週 コラール(3)、アンサンブル演習(1) 第7週 コラール(4)、アンサンブル演習(2) 第8週 コラール(5)、アンサンブル演習(3) 第9週 アンサンブル演習(4)、楽曲分析(1) 第10週 アンサンブル演習(5)、楽曲分析(2) 第11週 アンサンブル演習(6)、楽曲分析(3) 第12週 アンサンブル演習(7)、楽曲分析(4) 第13週 アンサンブル演習(8)、楽曲分析(5) 第14週 アンサンブル演習(9)、楽曲分析(6) 第15週 楽曲発表		
教科書・参考書等/Textbooks	その都度指示 楽器を個人で持っている人は持参するのが望ましい 尚美ウィンドスタディ基礎編 JBCバンドスタディ		
成績評価の方法/Evaluation	授業の理解度(50%)、貢献度(50%)を通じて総合的に評価		
学習上の助言/Learning Advice	自発性、感受性を常に心がけること。 授業だけに限らず普段の練習を怠らないこと。		
キーワード/Keywords	平均律、純正調、コラール、アンサンブル		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	美術科指導論		
担当教員(所属)/Instructor	山口 喜雄(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 美術教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S465005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	美術科教育のあり方や方法を歴史的な観点からとらえ、その教科書や制度・教育運動などの諸資料の調査・研究レポート発表・講義などを通じて、各々の時期における美術教育の理念や指導法からその本質を考察し、21世紀の美術教育や美術科指導のあり方を展望します。		
授業の達成目標/Course Goals	複雑・多様な社会状況下でも美術教育実践を創造的に行える教師としての態度と能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校教科美術に関わる科目であり、美術教育の制度や思潮などの歴史的変遷を認識し、現代の社会状況に対応した豊かな授業内容を提供できる教員としての素養を育むことに対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	上記を理解し、造形・美術教育への関心や学習への熱意や授業課題への準備が必要です。		
関連科目/Related Courses	本授業担当の山口喜雄が開講している「図画工作A」の受講をすると、中学校美術学習の前提となる小学校図画工作学習の全容が理解できる。また、「美術科教育法II」の受講も行うと小学校図画工作と中学校美術の関係や発展的な学習指導内容を理解できるように授業を行っている。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎授業開始時に前記の「学習課題」に関する理解状況の記入で自己確認をして、明治初年から現代に至る各時期における複雑・多様な社会状況に対応した造形美術教育の理念や具体的な指導法等々を調べ、考察し、発表し合います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>A: 1875年～1943年の美術教育の歴史的文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「開港文化」: 近代美術教育形成の要件、『西画指南』: 近代美術教育の黎明 2. 『新定画帖』: 明治末期における児童発達の理解と美術教育 3. 『少年少女自習画帖』: 自由画教育による「表現」への問題意識の萌芽 4. 『エノホン』『初等科工作』: 国家主義下の美術教育 <p>B: 1946年～1956年の美術教育の歴史的文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 『米国教育使節団報告書』: 戦後美術教育の起点 6. 「学習指導要領昭和22・26年版」: 新しい美術教育の制度化 7. 「民間美術教育運動」: 美術教育実践と研究への主体的な情熱 8. 「人間形成としての美術教育」: 昭和30年代前半の美術教育の危機と理想 9. 『芸術による教育』: 技能重視でなく人間形成へ/H・リードの影響 10. 『絵を描く子ども達』: 映画に描かれた新しい美術教育のあり方 <p>C: 1981年～1998年の美術教育の歴史的文献 (『小学校学習指導要領解説-図画工作編』も各資料と対比して考察)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 『少年の美術』: 子どもに語りかける図画工作・美術教科書の登場 12. 「美術館教育普及国際シンポジウム」: 雁行する美術教育の時代への移行 13. 『アートエデュケーション』: 美術教育の学的研究の展開 14. 「造形教育事典」: 20世紀美術教育の到達点および展望 15. 『中学校学習指導要領(平成20年9月)解説-美術編』: 美術文化の創造 		
教科書・参考書等/Textbooks	福田・福本・茂木編『美術科教育の基礎知識』(2010年四訂版:建帛社)、担当課題に関して各自が収集する資料、他は各々の授業前時に連絡します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への出席は教育実習等を除く4/5以上、積極的な参加や学習課題への主体的な考察・授業ノート等々60%、2～3回の課題研究発表、毎回のレポート提出・最終回小論文40%、それらを総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	卒業論文を専攻必修とする場合は、本講義を必ず受講してください。奇数年度開講です。平成26(2014)年度は開講しません。自身の学習遅滞につながり、授業進行の障害となるので発表担当授業時の遅刻・欠席は特に慎み、健康に留意して授業に臨んで下さい。		
キーワード/Keywords	美術、図画工作、美術教育、美術館教育、美術教育史、人間形成、学習指導要領美術。		
備考/Notes	2015年度までは宇都宮大学教授、2016年度は非常勤講師として本授業を担当するため、水曜の7・8・9-10時限のみ授業会場の8号館1階図画工作室にて相談に応じられます。		

授業科目名(英文名) /Course Title	藝術表現演習		
担当教員(所属)/Instructor	守安 敏久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 国語教育専攻)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S802205
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守安 敏久(木) 12:00~12:30(守安研究室)		
授業の内容/Course Description	その創生から百年以上の歴史を積み重ねてきた映画は、大衆的な娯楽であるとともに、思想とその表現において、見るものに深く思索を促す芸術表現にほかならない。ここでは「古典」と呼ばれる映画史上のさまざまな名作を考察しながら、映画の歴史と映像表現の可能性を学んでいく。なお本授業は鑑賞・研究を主軸とした授業である。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・映画の歴史と社会的・文化的な背景について理解する。 ・「古典」と呼ばれる名作映画を深く考察する。 ・映画芸術を通して、その思想と表現の可能性を学ぶ。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	映画が生み出された時代の社会的・文化的な背景を理解するとともに、さらにその映画が時代を超えて訴えかける、思想と表現の力について、多角的に考察する。それは古典のなかに、現代に生きる可能性を学ぶことでもある。		
前提とする知識/Prerequisites	知識は必要ないが、古典から学ぶ姿勢は必要。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「古典」と呼ばれる映画史上のさまざまな名作を実際に鑑賞し、受講者間で考察・討議する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス 第2回 チャールズ・チャップリン「キッド」 第3回 バスター・キートン「探偵学入門」 第4回 バスター・キートン「セブン・チャンス」 第5回 セルゲイ・エイゼンシュテイン「戦艦ポチョムキン」 第6回 ルイス・ブニュエル「アンダルシアの犬」「黄金時代」 第7回 ジガ・ヴェルトフ「カメラを持った男」 第8回 マルクス兄弟「我輩はカモである」 第9回 溝口健二「雨月物語」 第10回 小津安二郎「東京物語」(前) 第11回 小津安二郎「東京物語」(後) 第12回 亀井文夫「生きていてよかった」 第13回 黒澤明「椿三十郎」 第14回 三島由紀夫「憂国」 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：プリントを配布 参考書：「日本映画史100年」四方田犬彦、集英社新書(図書館所蔵) 「映画映像史—ムーヴィング・イメージの軌跡」出口丈人、小学館(図書館所蔵) 「世界映画大事典」岩本憲児・高林倉太郎監修、日本図書センター(図書館所蔵)		
成績評価の方法/Evaluation	論述試験を評価の基本とする(60%)。出席は重視され、また授業中討論に積極的に参加しているか否かも、評価基準に加わる(40%)。教員をも啓発するような創意ある受講者にのみ「秀」を与える。		
学習上の助言/Learning Advice	映像表現に関心を持つ受講者を歓迎する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	保育内容の指導法(環境)		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 和也(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S900040
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 和也(sasakika@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 和也(火曜日10:00-12:00)		
授業の内容/Course Description	人間の発達における土台を形成する幼児期の育ち環境のあり方について、保育現場の実際を知ると共に、乳幼児期の環境教育の立場から学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	地域の風土や伝統を生かして、乳幼児が様々な体験ができるようにし、共感・驚き・感動を大切にして、身近な環境に関心を持つようにするために、どのような支援をおこなうべきか、基本的な知識と態度を養うことを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幼稚園教諭並びに保育士資格の必修専門科目である。乳幼児期の発達と環境の関わり方の理論と実践について習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には講義形式で行うが、実地指導講師として保育園長から現場の現状と課題を通して、保育の質の保障について議論する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 保育の基本と領域「環境」の位置づけ 3. 実地指導講師による 保育現場の実際(1) 4. 実地指導講師による 保育現場の実際(2) 5. 実地指導講師による 保育現場の実際(3) 6. 実地指導講師による 保育現場の実際(4) 7. 実地指導講師による 保育現場の実際(5) 8. 環境保育の理論(1): 領域環境の保育的意義 9. 環境保育の理論(2): 環境と関わる力 10. 環境保育の理論(3): 共に生きる感覚を育む 11. 乳幼児期における環境教育の実際(1): 環境教育と環境保育 12. 乳幼児期における環境教育の実際(2): 生物多様性と保育 13. 乳幼児期における環境教育の実際(3): 伝統文化と保育 14. 全体ワークショップ 15. プレゼンテーションとまとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教材: 適宜資料を配布する。 参考図書: 岡部翠編「幼児のための環境教育」新評論 参考図書: 斎藤道子著「里山っ子が行く!」農文教 参考図書: 有賀克明編著「いつでもどこでも環境保育」フレーベル館		
成績評価の方法/Evaluation	授業中の態度(40%), 企画立案レポート(60%)の結果の合計が、60%以上を可、70%以上を良、80%以上を優、95%以上を秀と評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	幼稚園教諭・保育士を「熱意」を持って取得する学生の受講を望む。また、幼児期の環境教育について興味関心がある学生を歓迎する。		
キーワード/Keywords	教育学部		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	初等理科教育法		
担当教員(所属)/Instructor	人見 久城(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S102305
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	人見 久城(hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	人見 久城(月 13:00~14:20)		
授業の内容/Course Description	小学校理科に関わる目的・内容・方法等についての講義、及び実習形式の観察・実験を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	小学校理科を対象として、理科教育の内容と方法についての理解を深める。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学部専門科目の小学校教科教育法に関する必修科目である。小学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識や経験は特に問いません。		
関連科目/Related Courses	理科, アドバンスド小学校理科実験		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	理科教育法に関わる講義、及び理科に関わる実験(実習形式)を行う。なお、学習指導案の書き方等の実践的な内容について、附属小学校教員による講義(1時間)を行う。 ※ 重要(受講時限の割り振りについて) ①学校教育教員養成課程2年次生は、専攻によって指定された時限を受講してください。 ②学校教育教員養成課程2年次生以外の受講希望者(3年次生以上、教員免許状取得プログラムを受けている大学院生等)は、第1回授業で、受講希望の旨を担当教員へ申告してください。実験室の収容人数等から、希望する時限での受講にならない場合がありますから、第2希望の時限についてもあらかじめ検討しておいてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業は概ね以下の内容に基づいて進める。実験の実施時期等については、授業の中で別途連絡する。 第1回受講ガイダンス 第2回小学校理科の目標 第3回小学校理科の教育課程 第4回小学校理科の教材 第5回理科授業のビデオ視聴、実験受講に関する説明 (第6~9週は、以下の4題目をローテーションして受講する) 第6回実験(題目1: オームの法則とジュール熱) 第7回実験(題目2: 熱の伝導) 第8回実験(題目3: でんぶん) 第9回実験(題目4: 動植物の表皮細胞) 第10回小学校理科の指導法(第3学年の内容) 第11回小学校理科の指導法(第4学年の内容) 第12回小学校理科の指導法(第5学年の内容) 第13回小学校理科の指導法(第6学年の内容) 第14回小学校理科授業の実際(附属小学校教員による) 第15回学習指導案の書き方		
教科書・参考書等/Textbooks	○教科書: 文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」(2008), 大日本図書。 ○テキスト: 教材プリントを適宜配布する。実験では、「理科教育法A実験指導書」を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	試験, 実験レポート, 出席状況等の総合評価とする。		
学習上の助言/Learning Advice	○自然を対象とする理科では観察・観察が不可欠です。本科目での実験・観察を通して、小学校教師として必要な実験操作に関するスキルが身につきます。 ○教員養成の観点から、教員として最低限必要な資質能力を確実に身に付くように取り組んでください。		
キーワード/Keywords	小学校理科, 指導法, 観察・実験		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本文学演習 I		
担当教員(所属)/Instructor	守安 敏久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 国語教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S204504
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守安 敏久(木) 12:00~12:30(守安研究室)		
授業の内容/Course Description	二葉亭四迷、森鷗外、樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、夏目漱石、谷崎潤一郎、有島武郎、芥川龍之介、横光利一、葉山嘉樹などの短編小説を、受講者に割り当て、担当発表してもらう。		
授業の達成目標/Course Goals	文学作品を題材として、創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の免許教科「国語」を取得する場合は選択必修科目となる。日本文学を通して、教員として必要な知識と思考を身につける。 あるいは総合人間形成課程の言語文化領域の専門科目として、「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。		
前提とする知識/Prerequisites	課題に対して文献を調べる力と、それを踏まえて自分なりに考察していく力。自宅にインターネット接続環境があることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	発表はテキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する形となる(担当発表は受講者全員に課す)。他の受講者の議論を喚起するような創意ある独自の発表を望む。なお演習という性格上、受講者の人数を制限することがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週図書館利用案内(文献探索法) 第3週文学史概説 第4週「あいびき」(二葉亭四迷訳) 第5週「舞姫」(森鷗外) 第6週「にこりえ」(樋口一葉) 第7週「高野聖」(泉鏡花) 第8週「旧主人」(島崎藤村) 第9週「夢十夜」(夏目漱石) 第10週「刺青」(谷崎潤一郎) 第11週「小さき者へ」(有島武郎) 第12週「藪の中」(芥川龍之介) 第13週「蠅」(横光利一) 第14週「セメント樽の中の手紙」(葉山嘉樹) 第15週補説		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 青空文庫ホームページ http://www.aozora.gr.jp/ 参考書: 「日本近代文学大系」全60巻、角川書店(図書館所蔵) 「日本文学研究資料叢書」全100巻、有精堂(図書館所蔵) 「日本文学研究資料新集」全30巻、有精堂(図書館所蔵) 「日本文芸鑑賞事典」全20巻、ぎょうせい(図書館蔵) 「新潮日本文学アルバム」新潮社(図書館蔵) 教材: 特になし。		
成績評価の方法/Evaluation	担当発表(70%)、および毎回出席をとり、授業態度も参照材料とする(30%)。わかりやすく、かつ問題提起の豊かな口頭発表が評価される。出席は重視され、また授業中討論に積極的に参加しているか否かも、評価基準に加わる。教員をも啓発するような創意ある受講者にのみ「秀」を与える。		
学習上の助言/Learning Advice	【学習上の助言】 先行研究での議論と、発表者本人の立論との区別を明確にしつつ、発表すること。つまり先行研究を咀嚼することは重要だが、その上で発表者独自の立論がどう展開できたか、が問題となる。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	経済学概論		
担当教員(所属)/Instructor	塚本 純(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S254004
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	家計の選好、効用最大化、利潤最大化、需要、供給、完全競争市場などのミクロ経済学、及びGDP等の経済統計や景気変動の理論などのマクロ経済学、それぞれの分野での基礎的知識と分析手法を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	経済学の視座と経済学的分析力を獲得することにより、多面的な社会認識の能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	総合人間形成課程 地域社会の様々な問題に関する考察の基礎的能力を養成するための科目である。 学校教育教員養成課程 社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	経済学の予備的知識がないことを前提に講義する。高校卒業程度の学力があれば十分である。		
関連科目/Related Courses	経済政策論、経済学特講A、経済学特講B		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業形態は、レジメにより授業の展開を提示した講義を基本とする。学修を導くため、定評ある教科書を参考文献として指定する。必要に応じて資料等を配布して、実社会との関連について討論を行う。第1部(2~8回)がミクロ経済理論の初歩的解説である。概念の説明と図解を中心とした演習問題を行う。第2部(9から15回)はマクロ経済学について取り上げ、マクロの統計の解説とマクロ経済理論の解説となる。その部分では、現実の資料を配付やでてくるので必要に応じて、演習をおこなう。AL20:提出レポートに対する添削、授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(経済学の対象と方法) 2. 需要、供給、市場均衡 <ミクロ経済学第2章1・3節> 3. 比較静学、需要曲線と供給曲線の傾き(価格弾力性) <ミクロ第2章2・4節> 4. 家計の選好と効用関数<ミクロ第3章> 5. 効用最大化と需要関数<ミクロ第3・4章> 6. 企業の選択と費用曲線<ミクロ第6章> 7. 利潤最大化と供給曲線<ミクロ第7章> 8. 需要と供給、完全競争と市場均衡(まとめと振り返り) 9. GDPの概念 <マクロ第1章p. 1-8> 10. GDPに関わる統計 <マクロ第1章p. 8-26> 11. 他の経済統計・制度(資産、国際貿易、国際収支、為替制度など) <マクロ第1章27-32、第7章p. 125-133> 12. 景気の変動(直感的理解)、有効需要の原理 <第2章p. 33-40> 13. 消費関数とGDPの決定(均衡) <第2章p. 41-48> 14. 乗数理論(需要の変化) <第2章p. 52-55> 15. 政府・外国貿易を含んだモデル <第2章p. 55-62> 		
教科書・参考書等/Textbooks	参考文献:『ミクロ経済学』第3版、西村和男(岩波書店、2011年)、『マクロ経済学』第3版、吉川洋著(岩波書店、2009年) プリント:講義の進捗のガイドとなるプリントを配布する		
成績評価の方法/Evaluation	2/3以上の出席で評価対象とし、課題レポート(20%)、授業中の活動(10%)、中間まとめ(30%)、期末テスト(40%)の総合点を判断基準にして、成績を評価する。総合点が60点以上の場合「可」(合格)、70点以上の場合「良」、80点以上の場合「優」、90点以上の場合を「秀」とする		
学習上の助言/Learning Advice	どのような学生でも履修できる授業です。経済学は、高校までで本格的に取り上げられない科目です。これまで何を学んだかということよりも、新たなことに取り組む姿勢が大切になります。ただし、経済学の学習は積み重ねが大事です。仕方なく欠席する場合は、友人のノートを見せてもらったりテキストを読むなりして、次回の講義までに自分で補っておくことが、講義を理解するためには必要です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中等社会科教育法Ⅲ (地理歴史分野)		
担当教員(所属)/Instructor	溜池 善裕(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S256503
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	溜池 善裕(tameike @cc.utsunomiya-u.ac.jp (送信する際には, tameikeの後ろのスペースを取って下さい))		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	溜池 善裕(水3・4)		
授業の内容/Course Description	中学校社会一種及び高等学校地歴一種の教員免許状を取得希望の学生に対し、中学校社会科地理的分野・歴史的分野および高等学校地歴の教育課程について、その内容や方法を理解するための科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	中学校社会科(地理的分野、公民的分野)および高等学校地理歴史科の内容と方法について理解している。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会科教育の方法論が、思いつきや、「～を教えるため」の方法論に終始せず、授業論に関する哲学と密接不離であるという視座からの授業である。		
前提とする知識/Prerequisites	中等社会科教育法I, II。 高等学校免許状のみを取得する学生は地理歴史科教育法。		
関連科目/Related Courses	中等社会科教育法I, IIを受講しておくこと。 高等学校免許状のみを取得する学生は、地理歴史科教育法を受講しておくこと。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	具体的な社会科授業の実践例や社会科に関する諸問題を検討するとともに、教材研究にもとづく指導計画・指導案の作成を通して、社会科や授業に関する問題を考えていく。(講義・グループ討論・全体での討論・発表)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 オリエンテーション 2 中等社会科における教授・学習過程(1) 知識・思考 3 中等社会科における教授・学習過程(2) 教える・学習する 4 社会科授業(事例1)を検討する(1) 目標 5 社会科授業(事例1)を検討する(2) 展開・発問 6 社会科授業(事例1)を検討する(3) 集团的思考 7 社会科授業はどうあるべきか(中間まとめ) 8 社会科授業を構想する(1) 学習指導要領・教科書 9 社会科授業を構想する(2) 教材研究 10 社会科授業を構想する(3) 関連する専門領域と授業 11 社会科授業を構想する(4) 学級集団と授業 12 社会科授業を検討する(1) 道徳的実践性(1) 13 社会科授業を検討する(2) 道徳的実践性(2) 14 私はどんな社会科授業をしたいのか 15 社会科授業はどうあるべきか(まとめ)		
教科書・参考書等/Textbooks	第1回目に指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業についての振り返りカードの提出状況20%、授業における発表・討論への参加状況40%、学期末レポート(学習指導案)40%の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	何よりも生徒に興味をもってもらいたい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	住生活論		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S553001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	住教育の基礎である住生活全般について広く学習するとともに、特に住まいの歴史的発展について取り上げます。また、家庭科での住教育の現状と課題、家庭と住まいの関係、高齢社会と住まい、環境共生と住まい等についても学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	住居はわたしたちの日常生活にとってなくてはならないものです。2000年4月の介護保険制度施行後は、介護の場としての住居の重要性がさらに増しています。この授業では、住居の基礎を学ぶことで、自らの住環境に積極的に関わっていく基本的知識と態度を養うことを目指します。また、これらの題材を基にどのように授業を展開するかなども学習します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	住居学では、住まいと生活を関連づけて考えることが基本となります。本授業はそのようなニーズと関連しています。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業は講義を中心として進めます。ただし視覚教材(ビデオなど)などを利用して、具体的ケースの紹介に努めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回住教育について 第3回日本の住宅と住生活(1) 古代 第4回日本の住宅と住生活(2) 寝殿造 第5回日本の住宅と住生活(3) 書院造 第6回日本の住宅と住生活(4) 明治～大正 第7回日本の住宅と住生活(5) 昭和(戦後) 第8回日本の住宅と住生活(6) 近代～現在へ 第9回住居観について 第10回家族のカタチと住生活 第11回住生活の経営 第12回栃木県の住まいの特徴 第13回少子超高齢社会と住まい 第14回環境共生と住まい 第15回住まいとまちづくり学習		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特にありません 教材：適宜、参考資料などを配付します。 参考書：特にありません。		
成績評価の方法／Evaluation	出席(40%)、理解度テスト①(30%)、理解度テスト②(30%)として採点します。(※ただし、受講者の関心領域により、課題レポートなどを課す場合があります。)2/3以上の出席がない場合は評価の対象となりません。		
学習上の助言／Learning Advice	学習環境を維持するため、遅刻、退席、私語、携帯電話のマナー違反等には、厳しく対処します。		
キーワード／Keywords	住教育の基礎、住まいの歴史的発展、家庭科での住教育の現状と課題、家庭と住まいの関係、高齢社会と住まい、環境共生と住まい		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	工芸 I		
担当教員(所属)/Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S458005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 2, 木/Thu 3, 木 /Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容/Course Description	工芸Iでは、彫金の基本的な表現方法を学習し、機能性を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る。		
授業の達成目標/Course Goals	鑿・糸鋸・金槌・鑪などの彫金工具の使用方法を学習し、素材に銀・銅・真鍮・を使用して透かし彫り・毛彫り・口ウ付け等、彫金の基本的な表現技法と七宝を体験し、どのような表現の可能性が見いだせるのか探りながら、テーマに沿った機能を満たした作品を制作する。 テーマ：身につけるかたち		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	工芸Iは、学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業ある。また総合人間形成課程では、芸術文化領域専門科目として芸術の領域の専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	美術の基礎的な実技授業(デッサン・平面構成・立体構成・彫塑等)を受講しているか、同等の実技経験をもっていること。		
関連科目/Related Courses	工芸I, 工芸II, 工芸III, 工芸III, 立体構成I, 立体構成II, 美術表現基礎, 工芸科教育法I, 工芸科教育法II, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項(材料について・道具の取り扱い・技術・技法等)を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。授業で進めた課題の制作工程を記録しまとめていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回課題説明材料と道具の説明・体に身につける形体とは? 第2回デザイン・機能性を考えたアイデアスケッチ 第3回糸鋸による透かし彫り表現?透かし彫りに使用する道具の説明 第4回銅板によるテストピース作成 第5回透かし彫り実践-1 細部の透かし彫り表現 第6回透かし彫り実践-2 アウトラインの透かし彫りと仕上げ 第7回鑪がけと磨き 第8回鑿による彫り表現?鑿の焼き鈍し・加工・焼き入れ・研ぎ 第9回鑿による彫り表現のテストピース作成 第10回彫り実践 銅板に鑿を使用した彫り表現 第11回銀ロウによる金属の接合表現?ロウ付けに関する素材・技法説明。銅板によるテストピース作成 第12回七宝制作-材料と道具の説明 第13回七宝制作-七宝の基礎 第14回七宝制作-七宝の応用 第15回講評		
教科書・参考書等/Textbooks	銀・銅・真鍮・ロウ材・糸鋸・糸鋸の刃・鑪・七宝釉薬などの材料・道具は一括して購入する。(5000円前後) スケッチブック(エスキース用)、筆記用具、その他必要に応じて指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	提出作品と制作レポート(70%)と、授業への取り組み(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業初回到課題説明の他、道具・材料の手配をするので、必ず出席すること。 毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項(材料や素材の取り扱い事項・技術・技法等)を説明するので遅刻しないよう 様々な工芸素材にふれ、その加工や表現を知ることにより、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。工芸を知る上で参考になる展覧会・資料があれば、可能な限り紹介し参観するようにすすめる。		
キーワード/Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	デザインB I		
担当教員(所属)/Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S473004
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 2, 木/Thu 3, 木 /Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容/Course Description	グラフィック・デザイン分野を主とする(映像メディア表現を含む)。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行なう。また、コンピュータ(グラフィック・ソフト)を使用して、コンピュータならではの表現技法について指導する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のテーマについて、対象のありかたに見合ったデザインプロセスを身に付けて取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマをその社会的な存在として総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を創造的に展開していくための能力を身につける実技科目としての意義を持つ。また、卒業制作でデザイン分野を専攻する上で表現上技法上の前段階の意義を持つ。		
前提とする知識/Prerequisites	デザインAI, IIの履修が必須です。 図法Iを履修していることが望ましい。 表現方法の修得に主眼をおいているので、コンピュータやグラフィック・ソフトの基本操作を自習しておくこと。		
関連科目/Related Courses	デザインAI, IIの履修が必須です。 図法Iを履修していることが望ましい。 表現方法の修得に主眼をおいているので、コンピュータやグラフィック・ソフトの基本操作を自習しておくこと。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実技が中心となります。与えられた課題に対して、デザイン・プロセスの各段階をポートフォリオにまとめながら制作をすすめて行きます。各段階で個人指導をおこない次の段階に進みます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション(授業の進め方、用具・材料などについて) 第2週 グラフィックデザイン課題1(課題説明、エスキース) 第3週 グラフィックデザイン課題1(エスキース、制作) 第4週 グラフィックデザイン課題1(制作) 第5週 グラフィックデザイン課題1(プレゼンテーション講評) 第6週 グラフィックデザイン課題2(課題説明、エスキース) 第7週 グラフィックデザイン課題2(エスキース) 第8週 グラフィックデザイン課題2(制作) 第9週 グラフィックデザイン課題2(制作) 第10週 グラフィックデザイン課題2(プレゼンテーション講評) 第11週 グラフィックデザイン課題3(課題説明、エスキース) 第12週 グラフィックデザイン課題3(エスキース) 第13週 グラフィックデザイン課題3(制作) 第14週 グラフィックデザイン課題3(制作) 第15週 グラフィックデザイン課題3(プレゼンテーション講評)		
教科書・参考書等/Textbooks	その他必要な用具・材料はその都度指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	課題への取り組み(50)、提出作品とプレゼンテーション(50)で総合的に評価します。遅刻・欠席は減点となります。		
学習上の助言/Learning Advice	内容的にも高度になりますので、とくに意欲的な課題への取り組みを期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	技術学実験実習Ⅲ		
担当教員(所属)/Instructor	松原 真理(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S609007
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 2, 木/Thu 3, 木 /Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	電気工学Ⅰやアナログ電子回路の講義で学んだ理論について実際に測定、観察する。この実験ではハンダ付け等製作にも時間をかける。		
授業の達成目標/Course Goals	本実験実習は、電気工学Ⅰやアナログ電子回路の講義で学んだ理論について実際に測定、観察することにより、より深い理解を得ることを目的としている。将来技術科の教員として相応しい、電気・ものづくり分野の技術を習得させる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校'技術'の免許を取得するための必須科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	'電気工学Ⅰ、Ⅱ'を履修済みであることが前提である。技術学実験実習Ⅱの単位を修得済みが望ましい。		
関連科目/Related Courses	'電気工学Ⅰ、Ⅱ'を履修済みであることが前提である。技術学実験実習Ⅱの単位を修得済みが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下のおり行う。第1週のガイダンス時に本実験で使う実験書を配布する。第4週、第9週は教育総合実践センター1階スタジオで行うが、基本的には技術学実験室で行う。第7週は一部技術科機械工場で行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回電圧増幅回路 第3、4回 プログラミング 第5回無安定マルチバイブレータ回路 第6回波形整形回路 第7、8回報知器の製作 第9、10回フーリエ級数 第11回オペアンプ 第12回 組み合わせ論理回路 第13～15回教材開発		
教科書・参考書等/Textbooks	電子部品に関する参考書は、図書館に用意されている。最初の授業の際、配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート、出席状況等を総合評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	1. 一週でも欠席すれば、不可となる。 2. 毎週レポートを提出すること。 3. あらかじめ実験指導書を良く読み、実験の目的、原理、注意事項等を理解した上で実験に望むこと。 4. 互いに協力しあい、時間内に終了するよう努めること。実験中の事故、怪我に注意すること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	初等理科教育法		
担当教員(所属)/Instructor	伊東 明彦(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S102329
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	伊東 明彦(028-649-5324/ito@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	伊東 明彦(火曜日10:30~12:00)		
授業の内容/Course Description	小学校理科に関わる目的・内容・方法等についての講義、及び実習形式の観察・実験を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	小学校理科を対象として、理科教育の内容と方法についての理解を深めることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学部専門科目の小学校教科教育法に関する必修科目です。小学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とします。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識や経験は特に問いません。		
関連科目/Related Courses	理科, アドバンスト小学校理科実験		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	理科教育法に関わる講義、及び理科に関わる実験(実習形式)を行います。なお、学習指導案の書き方等の実践的な内容について、附属小学校教員による講義(1時間)を行います。 ※ 重要(受講時限の割り振りについて) ①学校教育教員養成課程2年次生は、専攻によって指定された時限を受講してください。 ②学校教育教員養成課程2年次生以外の受講希望者(3年次生以上、教員免許状取得プログラムを受けている大学院生等)は、第1回授業で、受講希望の旨を担当教員へ申告してください。実験室の収容人数等から、希望する時限での受講にならない場合がありますから、第2希望の時限についてもあらかじめ検討しておいてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業は概ね以下のように進めます。実験の実施時期等については、授業の中で別途連絡します。 第1回 受講ガイダンス 第2回 小学校理科の目標 第3回 小学校理科の教育課程 第4回 小学校理科の教材 第5回 理科授業のビデオ視聴、実験受講に関する説明 (第6~9週は、以下の4題目をローテーションして受講する) 第6回 実験(題目1: オームの法則とジュール熱) 第7回 実験(題目2: 熱の伝導) 第8回 実験(題目3: でんぶん) 第9回 実験(題目4: 動植物の表皮細胞) 第10回 小学校理科の指導法 (第3学年の内容) 第11回 小学校理科の指導法 (第4学年の内容) 第12回 小学校理科の指導法 (第5学年の内容) 第13回 小学校理科の指導法 (第6学年の内容) 第14回 小学校理科授業の実際(附属小学校教員による) 第15回 学習指導案の書き方		
教科書・参考書等/Textbooks	○教科書: 文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」(2008), 大日本図書。 ○テキスト: 教材プリントを適宜配布します。実験では、「理科教育法A 実験指導書」を配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	試験, 実験レポート, 出席状況等の総合評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	○自然を対象とする理科では観察・観察が不可欠です。本科目での実験・観察を通して、小学校教師として必要な実験操作に関するスキルが身につきます。 ○教員養成の観点から、教員として最低限必要な資質能力を確実に身に付くように取り組んでください。		
キーワード/Keywords	小学校理科, 指導法, 観察・実験		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	道徳授業論		
担当教員(所属)/Instructor	和井内 良樹(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S154410
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	和井内 良樹(【和井内良樹】Mail:wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL:028-649-5335)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業では、学校における道徳教育の理論と実際を学ぶと共に、小中学校での「道徳の時間」における授業理論及び指導方法について理解を深め、「道徳の時間」を指導する授業者としての基本的な技能を習得することを目指す。今日、道徳性を養う道徳教育の重要性が叫ばれる一方で、実際に行われる道徳授業の形骸化などの問題が指摘されている。このことも踏まえ、豊かな心を育み、生徒にとって魅力ある「道徳の時間」の在り方について考えていきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	学習指導要領における道徳教育の目標及び「道徳の時間」の特質について理解できる。「道徳の時間」の理論と指導方法について理解できる。 学習指導案を作成し道徳授業を構想することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育教員養成課程における小中学校の教員免許を取得するための必修科目である。総合人間形成課程の「人間発達領域専門科目」の選択科目であり、人間の発達成長のあり方について学ぶための科目である		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行われる。なお、授業では、毎回受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週: ガイダンス(講義の目的及び進め方) 第2週: 社会の変化と道徳教育の意義 第3週: 道徳教育の思想と歴史 第4週: 学校における道徳教育と道徳の時間 第5週: 道徳性の多面的理解 第6週: 「道徳の時間」の指導(1)目標と特質 第7週: 「道徳の時間」の指導(2)学習指導の構想 第8週: 「道徳の時間」の指導(3)指導方法の工夫と資料 第9週: 学習指導案の作成(1)手順と方法 第10週: 学習指導案の作成(2)演習Ⅰ 第11週: 学習指導案の作成(3)演習Ⅱ 第12週: 授業観察(1) 第13週: 授業観察(2) 第14週: 道徳教育における評価 第15週: 教育課題と道徳教育 主として講義形式で行うが、演習・グループ討議形式で行う場合もある。授業観察では授業DVDなどを用いる。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 文部科学省編『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版(2008年) 文部科学省編『中学校学習指導要領解説道徳編』日本文教出版(2008年)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回のコメントペーパー(30%)、学期末試験(70%)をもとに総合的に評価する。		

学習上の助言／Learning Advice	コメントペーパーなどを通して授業に積極的に参加し、その都度のテーマについて考察を深めてもらいたい。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) / Course Title	人格心理学		
担当教員(所属)/Instructor	川原 誠司(教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース 学校教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S160500
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	川原 誠司(メールアドレス: kawahara★cc.utsumiya-u.ac.jp (★を@に変えてください) 電話: 028-649-5340 ※迷惑電話が多いので、できるだけメールでの予約・質問をお願いいたします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	川原 誠司(月曜日12:10~12:40 / 木曜日14:30~16:00 (相談等はできるだけ予約願います。急用で対応できない場合もあります。上記以外でも、短い時間で終わるもの等は、在室中は極力対応します))		
授業の内容/Course Description	●心理学の中でも人格・性格(パーソナリティ)に関する内容を概説する。性格の類型区分についての研究者の考えや性格検査の概要といった教員採用試験にも必須の事項を学び、また精神分析の視点から見た人格発達のある方を丁寧に読み取り、また、現代の精神医学で援用される人格障害(パーソナリティ障害)についても触れる。		
授業の達成目標/Course Goals	●基礎的な用語や知識、見方や考え方を習得すること。 ●実際の人のあり方において、人格心理学的な見方が適用可能なことを実感すること。 ●自分自身の人格のあり方に関して、しっかりしたまなざしを向けるようになること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	●本授業は、教育学部学校教育教員養成課程学校教育専攻の専門科目である。また、教育学部総合人間形成課程人間発達領域の領域専門科目である。領域における専門性を高めるという目標に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	●教育基礎科目(学部共通科目)の「教育心理学」を受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	●主に講義形態をとります。授業では小テストなどを実施し、知識の整理・定着も行います。また主要な評価に関する試験やレポートを大テーマごとに分割して行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 ガイダンス・人格の類型論と特性論(1) 2 人格の類型論と特性論(2) 3 性格検査の概観(1) 4 性格検査の概観(2) 5 フロイト(Freud, S)の人格発達について 6 エリクソン(Erikson, E.H.)の人格発達について(1) 7 エリクソンの人格発達について(2) 8 エリクソンの人格発達について(3) 9 エリクソンの人格発達について(4) 10 エリクソンの人格発達について(5) 11 人格障害(Personality Disorder)について(1) 12 人格障害について(2) 13 人格障害について(3) 14 人格障害について(4) 15 人格障害について(5)		
教科書・参考書等/Textbooks	●特に指定しませんが、性格心理学に関する概論書を1冊(以上)精読することを望みます。		
成績評価の方法/Evaluation	●「受講の様子」「大テーマごとの試験・レポートの出来」を合わせて評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	●人格・性格については、教育や実生活の場において重要な問題と思いますが、それについてしっかり考える機会は案外少ないものです。この授業を受講する方は、この機会に周囲を見つめ、(今までのそして今の)自分のことをしっかり見つめてみましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育学演習 I		
担当教員(所属)/Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S177000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	受講者が各自の問題意識(テーマ)に則して発表をおこない、全体で検討する		
授業の達成目標/Course Goals	教育に関する諸問題について自ら課題を設定し、原理的に、また複眼的に考えることができること。また、他者と対話しながら思考を深化させていくことができること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育専攻の専門科目であるが、他の科目とは異なり、受講者が自らの研究テーマについて探求し、発表、対話していく。卒業論文作成のための準備段階の学習として位置づけられる。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	一回に一人の発表者を決めおこなう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1回:オリエンテーション 2~15回:発表及び検討		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	出席及びレポート内容による		
学習上の助言/Learning Advice	よい教師になるためには、何をすべきかを考えながら授業を進めます。文献調査だけでなく学校現場での調査もする予定です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	公共政策論		
担当教員(所属)/Instructor	三田 妃路佳(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S254200
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>公共政策にはどのような形式があり、どのような分野に及び、どのように作られ、どのような過程で決定され、決定には誰が関わるのだろうか。また、決定内容は市民や企業にどのような影響をもたらすのかだろうか。</p> <p>この授業では、学生にとって、比較的身近な様々な題材を毎回提供し、学生の題材に関する議論やその後の解説を通じて、法律、予算といった公共政策の形式、中央省庁や自治体における政策の担当部局、決定過程での政治家・官僚・利益団体・市民の関係や、国と地方の関係、さらに、規制などによる企業への影響について学ぶ。加えて、行政や政治と政策との関係、政策による経済への影響、政策と財政の関係についても説明し、学生が今後4年間学修する各科目のつながりを理解することも目指す。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>学生にとって身近なテーマを通じて、公共政策の特徴、決定過程、市民や利益団体などのかかわりについて学ぶ。さらに、公共政策と経済、政治、行政と関係を学ぶ。さらに様々な政策への賛否を学生が授業で議論することを通じて、社会の仕組みに対する意見を持ち、客観的な視点を身につけることを目指す。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。公共の概念をとらえることにより、公民的資質のあり方を解説する科目として位置づけられる。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	国内、国外を問わず、政治、経済、社会に関する仕組みに関心を持っていること。		
関連科目/Related Courses	政治学概論、政策過程論、現代日本の政治と行政		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	AL:40 事前に示す題材は賛否が分かれるものとなっているため、学生は賛否、その理由、制度等について明確にしたうえで授業に望む。授業では題材への賛否、決定の背景などについて議論する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1回ガイダンス、公共政策とは何か。 第2回公共政策と法律(1):選挙年齢の引き下げと成人 第3回公共政策と法律(2):一票の格差と議員の取り組み 第4回公共政策と予算:教育の無償化か、医療費の引き下げ 第5回公共政策と政党:消費税増税と選挙 第6回公共政策と利益団体:酒の販売価格と酒屋 第7回公共政策と市民:道路交通法の改正 第8回公共政策と中央・地方関係:大坂都構想が示した課題 第9回公共政策と地域:新幹線と在来線 第10回公共政策と経済(1):環境政策における市民団体と企業との関係 第11回公共政策と経済(2)公共交通への新規参入 第12回公共政策と行政組織:幼稚園と保育所 第13回公共政策と経済交渉:コメと自動車 第14回公共政策と国内政治・国外政治:大規模店舗法改正と日米交渉 第15回:まとめ:公共政策と政治・経済・行政の関係 定期試験</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>教科書:草野厚『政策過程分析入門』(第二版)東京大学出版会、2012年。</p> <p>参考書・参考資料等 以下の参考文献以外は授業時に指示する。 秋吉貴雄・伊藤修一郎、北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣、2010年。 真淵勝『行政学』有斐閣、2009年。 縣公一郎・藤井浩司『コレク政策研究』成文堂、2007年。</p>		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験70%、授業時の質問に対する発言などの授業への参加状況30%で評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	<p>公共政策は、身近な生活に関することから、対外的なことまで様々な事柄の方針となり、人々の生活に影響する。より多くの人々が納得できる公共政策にするには何が重要なのかを授業で議論することになる。事前に教科書、資料等を読み、問題意識をもって授業に参加すること。</p>		
キーワード/Keywords	政策過程、利害関係者、中央・地方関係、対外交渉		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中等社会科教育法 I		
担当教員(所属)/Instructor	松本 敏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S256112
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松本 敏(月曜日12時~12時30分, 火曜日10時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	中学校社会科の教員免許状取得希望者を対象に、中学校社会科教育の概要と、その基礎的な教育方法の習得を目指して行われる科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	中学校社会科教育の概要に関する知識と、その基礎的な教育方法を習得する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教員としての実践的指導力を育成する。中学校社会科の教員免許のために必修。		
前提とする知識/Prerequisites	2年次前期に履修することを前提とする。		
関連科目/Related Courses	2年次前期に履修することを前提とする。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義と演習を組み合わせる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回中学校社会科の特質と自身の体験の振り返り 第2回中学校社会科の授業観察(ビデオ視聴による練習) 第3回中学校社会科における「導入」「学習問題(課題)づくり」のあり方 第4回教材研究の在り方 第5~6回マイクロティーチング(5分間授業)を計画に従い一人一人行う。 第7回マイクロティーチングの振り返り 第8回中学校社会科の教科書の構成と内容(地理・歴史) 第9回中学校社会科の教科書の構成と内容(公民) 第10回社会科の基礎となる学問と社会科授業との関係 第11回社会科で用いられる統計資料の読み方と作り方 第12回単元構成のしかた 第13回単元構成の実際 第14回学習指導案の作成方法について 第15週学習指導案の作成の実際		
教科書・参考書等/Textbooks	適宜プリントを使用する。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回のワークシート・カードの提出20%、マイクロティーチングの実施及び振り返りの状況40%、学習指導案の提出40%の結果を総合して評価する。特に優秀な者で全体の上位10%以内を秀とする。		
学習上の助言/Learning Advice	講義以外にマイクロティーチングなど実習的な内容を入れてあります。ハードですが、教育実習の準備や教員になるために有益だと思います。		
キーワード/Keywords	社会科, 中学校, 教育内容, 教育方法, マイクロティーチング		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	幾何学 I		
担当教員(所属)/Instructor	北川 義久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 数学教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S318002
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	平面曲線と空間曲線に関する微分幾何学について講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>平面曲線については</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 長さや曲率などの基本概念について理解する。 (2) 曲線論の基本定理を理解する。 (3) 閉曲線の回転数や全曲率について理解する。 <p>空間曲線については</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 長さ, 曲率, 振率などの基本概念について理解する。 (2) Frenet-Serre の公式を理解する。 (3) 曲線論の基本定理を理解する。 (4) 常微分方程式の解の存在と一意性について理解する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	数学教育専攻の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある幾何学の理論について学習する。		
前提とする知識/Prerequisites	幾何学基礎, 代数学基礎, 解析学基礎		
関連科目/Related Courses	幾何学基礎, 代数学基礎, 解析学基礎		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義と演習を中心に授業を進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第01回 オリエンテーション 第02回 曲線のパラメータ表示 第03回 曲線の長さ 第04回 曲率, 曲率円 第05回 弧長パラメータ, Frenet の公式 第06回 平面曲線の基本定理 第07回 正則閉曲線の回転数と全曲率 第08回 Whitneyの定理 第09回 中間試験 第10回 空間曲線の曲率と振率, Frenet-Serre の公式 第11回 空間曲線の鏡像 第12回 空間曲線の基本定理 第13回 補足: 常微分方程式の解の存在定理 第14回 補足: 定数係数線形常微分方程式の解法(1) 第15回 補足: 定数係数線形常微分方程式の解法(2)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書: 「曲線と曲面の微分幾何」小林昭七著(裳華房)		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(10%), 中間試験(30%), 期末試験(60%)を総合評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	演習問題をたくさん用意しています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	基礎の物理学		
担当教員(所属)/Instructor	堀田 直巳(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S350003
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	堀田 直巳(028-649-5311 hotta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	堀田 直巳(月, 金: 12:10~12:40 8号館C棟5階堀田研究室)		
授業の内容/Course Description	この授業科目は、教員免許中学校教科「理科」に係る科目である。物理学の基礎であるニュートン力学について講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	物理学の基礎であるニュートン力学について理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の「理科」免許を取得するための必修科目であり、理科教育専攻の1分野である「物理学」の基礎科目であるニュートン力学について基礎的知識を学ぶ。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校で学ぶ微分と積分の知識があればよい。初歩の数学的な準備は必要に応じて講義の中で行う。		
関連科目/Related Courses	「物理学」, 「基礎物理学実験」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は教科書に沿って進める。教科書には自学自習できるよう丁寧に説明されている。適時、課題を課す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回物理学と測定 第2回 ベクトル 第3回一次元の運動 第4回二次元の運動 第5回等速円運動 第6回運動の法則 第7回摩擦力 第8回ニュートンの法則の適用例円運動 第9回ニュートンの法則の適用例抵抗力のある場合 第10回仕事 第11回仕事と運動エネルギー 第12回仕事率 第13回保存力と非保存力 第14回ポテンシャルエネルギー 第15回運動量と衝突		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 「科学者と技術者のための物理学 I a」 R.A. サーウェイ著 松村博之訳, 学術図書出版社 参考書: 「初歩の物理」小野文久著, 裳華房		
成績評価の方法/Evaluation	小テストおよび期末テストにより評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	物理学の理解は、化学や地学、ときによっては生物学や工学、農学の理解を助ける基礎となる場合がある。物理教材についての実践的理解を深め、教材に対する資質能力を確実に身につけるように取り組んで下さい。		
キーワード/Keywords	学校教育教員養成課程, 理科教育, 物理学		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	声楽Ⅲ		
担当教員(所属)/Instructor	石野 健二(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S410060
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石野 健二(ishino-k@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石野 健二(〔火曜日〕10時30分~12時)		
授業の内容/Course Description	発声練習やさまざまな歌曲の演奏を通して、発声の基本的な技術を豊かな歌唱表現に生かします。また、テキスト(歌詞)を読解し音楽的な要素と結び付けて考え理解することや、音楽の様式と声との関わりについて考える機会を持つなど、様々な視点から演奏研究を行います。声楽Ⅲでは、発声・歌唱の基礎的技術を将来教師としての指導に生かせるよう、発声・歌唱の指導実践も実際に行います。また、その中で他の学生の歌唱を理解し、それぞれの学生に対して具体的な指導ができるようにしてゆきます。		
授業の達成目標/Course Goals	声楽Ⅰ・Ⅱで学んだ歌唱法の基礎をもとに、歌唱表現をさらに広げてゆきます。日本歌曲、ドイツ歌曲を通して、言葉と音楽のつながりという観点からディクッション等の様々な技術や表現の多様性を身につけます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、声楽Ⅰ・Ⅱの学習を基礎にして、さらに声楽を多面的に、実践的に深める科目です。芸術文化領域専門科目の中の音楽に関する実技科目であり、芸術における演奏表現の一つ、声楽の表現技能を高めます。		
前提とする知識/Prerequisites	声楽Ⅰ・Ⅱの履修		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	発声理論等においては集団指導を基本とし、歌曲等の歌唱表現については個人指導を中心に授業を行います。また、授業の中ではただ教わるだけでなく、他の学生の歌唱を教師の立場から聴くということも重視します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週呼吸法 第2週発声法 第3週 発声指導法の基礎 第4週日本歌曲1(歌唱基礎) 第5週日本歌曲1(指導基礎) 第6週日本歌曲1の発表 第7週日本歌曲2(歌唱基礎) 第8週日本歌曲2(指導基礎) 第9週日本歌曲2の発表 第10週ドイツ歌曲1(歌唱基礎) 第11週ドイツ歌曲1(指導基礎) 第12週ドイツ歌曲1の発表 第13週ドイツ歌曲2(歌唱基礎) 第14週ドイツ歌曲2(指導基礎) 第15週ドイツ歌曲2の発表		
教科書・参考書等/Textbooks	特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への姿勢(30パーセント)、内容の理解度(30パーセント)、課題演奏(40パーセント)の結果を通じて判断します。		
学習上の助言/Learning Advice	声楽Ⅲでは、「半年で自分の発声や歌唱能力がどこまで伸びたか」という自己評価ができるよう、一人一人が目標を持って取り組んでほしい。また、視野を広げ、多くの人が歌唱の様々な問題に対してどのように取り組んで、どのように克服しているかを見ることも重要です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽研究セミナーB I		
担当教員(所属)／Instructor	木下 大輔(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S440010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
授業の内容／Course Description	作曲・音楽学研究指導(3年次前期)。		
授業の達成目標／Course Goals	実技・知識・方法論を駆使したオリジナルな研究(作品・論文)を成就させるための3年次前期段階の学修。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	上記到達目標に達するための実務を行う。		
前提とする知識／Prerequisites	「作曲I」、「音楽史A」を修得済みであること。		
関連科目／Related Courses	「作曲I」、「音楽史A」を修得済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	個人指導中心とし、相互批判的なゼミナールを設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回構想 第3回計画 第4回仕事開始 第5回途上 第6回推敲 第7回第1期まとめ 第8回第1期中間発表 第9回第1期総括 第10回第2期開始 第11回途上 第12回推敲 第13回第2期まとめ 第14回第2期中間発表 第15回第2期総括 受講生の状況により上記計画内容は変動しうる。		
教科書・参考書等／Textbooks	個別に指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	仕事内容が優れているかどうか(100%)。ただし、本学部規定の出席日数に達しない者には、単位を与えられない。授業中の迷惑行為者(私語など)は、上記に関わらず、大幅減点ないし単位不授与。		
学習上の助言／Learning Advice	日々の努力を怠らないこと。		
キーワード／Keywords	作曲、音楽学		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	陸上競技		
担当教員(所属)/Instructor	加藤 謙一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 保健体育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S501001
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	中学校および高等学校における保健体育の実技「陸上競技」の授業について理論と実践を通してその指導方法を理解します。		
授業の達成目標/Course Goals	短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びの指導法を習得することや陸上競技における安全管理及び安全指導を習得します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための科目であり、体育実技の専門的指導力を高める科目としての意義を持ちます。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校保健体育の教科書の内容		
関連科目/Related Courses	高等学校保健体育の教科書の内容		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	既往症など実技を行うにあたって心配のある学生は事前に申し出ること。天候によって内容の変更などがあるので常に屋内、屋外での実技が出来る準備をしておくこと。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週短距離走①(スタンディングスタートと加速疾走練習) 第2週短距離走②(クラウチングスタートと加速疾走練習) 第3週短距離走③(全力疾走練習とリレーのバトンパス) 第4週短距離走④(全力疾走練習とリレー) 第5週ハードル走①(インターバルについて) 第6週ハードル走②(ハードリング技術) 第7週ハードル走③(ハードリング技術) 第8週ハードル走④(まとめ) 第9週走り幅跳び①(助走距離と跳躍距離の関係) 第10週走り幅跳び②(助走距離と跳躍距離の関係) 第11週走り幅跳び③(まとめ) 第12週走り高跳び①(はさみ跳び) 第13週走り高跳び②(ペリーロール) 第14週走り高跳び③(背面跳び) 第15週予備日		
教科書・参考書等/Textbooks	資料はこちらで用意します。レポートの作成に役立つ書籍を以下に示します。 1. (参考書)「これは簡単!陸上運動走る・跳ぶ・投げる」尾縣貢編著学事出版 2. (参考書)「陸上競技のコーチングI」金原勇編著大修館書店 3. (参考書)「陸上競技のコーチングII」金原勇編著大修館書店 4. (参考書)「世界一流陸上競技者の技術」日本陸上競技連盟強化本部バイオメカニクス研究班編ベースボールマガジン社 5. (参考書)「疾走能力の発達」宮丸凱史編著杏林書院 6. 中学校・高等学校学習指導要領保健体育解説編		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況(授業への取り組み方:20%)とレポート(80%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	保健体育教員になるイメージを描きながら、教員としての使命感や責任感、専門性および教育的愛情なども念頭におきながら積極的に受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中等保健体育科教育法 (保健2)		
担当教員(所属)/Instructor	久保 元芳(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S519008
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	久保 元芳(kubo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	久保 元芳(水曜12:10~12:40、金曜12:10~12:40 教育学部B508)		
授業の内容/Course Description	保健の学習内容に関わる児童・生徒の科学的理解や思考力を高めるような保健授業のあり方について講義、議論する。 また、保健の授業における「指導と評価の一体化」の考え方について解説した上で、保健授業の指導案づくりや教材づくり、模擬授業を実践し、相互検討を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・教科保健で指導する内容に関わる専門的知識、指導方法等について身につけている。 ・保健の授業における評価の考え方や方法について理解できている。 ・保健の授業の指導案づくりや教材づくりを適切に行うことができる。 ・教育実習等で保健の授業を担当する上での実践的な指導力を身につけている。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校教員免許一種「保健体育」取得に必修の科目である。 「中等保健体育科教育法(保健1)」において学習した、保健の授業づくりに関わる基本的な内容を踏まえ、実践的な指導力の育成を目指した内容となる。		
前提とする知識/Prerequisites	中等保健体育科教育法(保健1)で単位を取得した学生のみ受講可とします。		
関連科目/Related Courses	中等保健体育科教育法(保健1) 中等保健体育科教育法(体育1) 中等保健体育科教育法(体育2) 学校保健 衛生学及び公衆衛生学 など		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	第1~4週は、教科書、パワーポイント、配布資料等を用いた講義を中心に、第5週以降は、保健の授業づくりに関わる実践的な内容を扱います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週保健学習の位置づけ、教育内容、授業づくりの方法等についての復習 第2週保健学習の評価①(教育的機能、観点別評価) 第3週保健学習の評価②(多様な評価方法、評価から評定への流れ) 第4週思考力・判断力・表現力を育む保健学習とは？ 第5週保健の授業実践の観察①(教育実習生) 第6週保健の授業実践の観察②(ティームティーチング) 第7週保健授業の指導計画の立案と指導案の作り方 第8週保健の授業づくり①(担当箇所決定、指導案作成) 第9週保健の授業づくり②(指導案の相互検討と修正) 第10週保健の模擬授業の実践と省察①「心身の機能の発達と心の健康」 第11週保健の模擬授業の実践と省察②「環境と健康」「障害の防止」 第12週保健の模擬授業の実践と省察③「健康な生活と疾病の予防」 第13週保健の模擬授業の実践と省察④「現代社会と健康」 第14週保健の模擬授業の実践と省察⑤「生涯を通じる健康」 第15週保健の模擬授業の実践と省察⑥「社会生活と健康」、まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	・教科書 「学校保健ハンドブック」(第6次改訂版)、教員養成系大学保健協議会 編、ぎょうせい 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」、文部科学省、東山書房 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」、文部科学省、東山書房 ・参考書 「新学習指導要領に基づくこれからの中学校保健学習」、財団法人日本学校保健会 「思考力の育成を重視したこれからの高等学校保健学習」、財団法人日本学校保健会 「中学校保健学習の指導と評価」、財団法人日本学校保健会 「高等学校保健学習の指導と評価」、財団法人日本学校保健会		
成績評価の方法/Evaluation	①指導案と教材の完成度(40%)、②模擬授業への取り組み(40%)、③レポート(20%)を合計して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	保健授業の実践的指導力を高める上で必要な要素を考えながら受講するとよいでしょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	被服構成実習 I		
担当教員(所属)/ Instructor	谷 祥子(教育学部)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	S556000
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 前期/ First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/ Credits	1単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/ Contact	谷 祥子(090-8347-3592/ tanis@fc.jwu.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/ Office Hours	谷 祥子(質問はメールで受けます。)		
授業の内容/ Course Description	日本の伝統的な衣服として、大裁単長着の中から浴衣を取り上げ、平面構成の衣服について学習し、製作の方法を実習を通じて学びます。		
授業の達成目標/ Course Goals	中学・高校家庭科の「被服の構成と製作」に関連して、平面構成の衣服に対する理解を深め、採寸、着付け、畳み方などを学びます。手縫いあるいはミシンによる直線縫いは、家庭科(小学校を含む)の基礎的な課題ですので、浴衣の製作を通じて技能を身につけます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	小学校、中学校および高等学校の家庭科の教員として必要とされる被服構成に関する理解を深め、製作にあたっての技能を習得します。		
前提とする知識/ Prerequisites	高等学校までの家庭科で学習した被服製作に関する知識と技術		
関連科目/ Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業の開始時に実習内容について説明し、その後は各自で製作を進めます。製作に際しては、進捗状況に応じて個別に対応します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション・採寸・サイズの計算 第2週 手縫いの基本実習 第3週 反物の柄合わせ、裁断 第4週 身頃の製作①印付け、背縫い 第5週 身頃の製作②脇縫い 第6週 身頃の製作③脇かくしじつけ、耳ぐけ 第7週 おくみの製作①柄合わせ、裁断、衿下三つ折りぐけ 第8週 おくみの製作②身頃への取り付け、耳ぐけ、裾三つ折りぐけ、つま先仕上げ 第9週 袖の製作①柄合わせ、印じつけ、袖下丸み 第10週 袖の製作②袖口三つ折りぐけ、袖付け、振り耳ぐけ 第11週 衿の製作①柄合わせ、印つけ、衿付け 第12週 衿の製作②三つ衿芯、中とじ、衿先の始末 第13週 衿の製作③衿本ぐけ、仕上げ、門止め 第14週 和装用小物作品の製作 第15週 着装(着付けと帯結び)作品とレポートの提出		
教科書・参考書等/ Textbooks	初回の授業時にプリントを配付します。 浴衣を製作するための反物を用意してもらいます。(初回の授業時に説明します)		
成績評価の方法/ Evaluation	授業への取り組みを20%、作品の評価を60%、レポートを20%として、総合的に評価します。		
学習上の助言/ Learning Advice	実習科目なので遅刻・欠席をせず、授業の進捗に遅れないようにしてください。授業内に決められた作業が終わらなかった場合には、その作業を終わらせて次の授業に臨んで下さい。		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	住環境論		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S574009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	住まいを取り巻く環境について、住まい単体及び街環境も含めて幅広く学びます。特に、住まいの室内環境(インテリア)、環境共生の住まい、街並み景観等に焦点を当てます。		
授業の達成目標／Course Goals	住居と環境を取り巻く問題は密接な関係があります。例えば、住居を建てる時(様々な材料の使用)、住居に住むという期間(電気・ガス・水などさまざまなエネルギー減などの使用)、住居を壊す時(リサイクルができないものは廃棄物)と、それぞれの段階で環境へ何らかの負荷を与えています。街並み景観という観点からは、住居と周辺環境の関係性が課題となります。この授業では、このような住居を取り巻く多様な環境問題に関する知識と、それらに主体的に取り組む姿勢を得ることとともに、それらを題材とする授業のあり方も学習します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	住居学では、インテリア空間も含めたデザインばかりでなく、環境共生の住まいとまち環境への知識を深めることが重要です。本授業はそのようなニーズと関連しています。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業は講義を中心として進めます。ただし視覚教材(ビデオなど)などを利用して、具体的ケースの紹介に努めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回住空間の形態と構成(1)周辺環境と住まい 第3回住空間の形態と構成(2)プランニング 第4回住宅構造と室内環境 第5回インテリア(1)基本的考え方 第6回インテリア(2)色彩、テクスチャなど 第7回住まいと管理 第8回室内環境評価のプレゼンテーション 第9回住環境教育 第10回街並み景観(1)景観とは何か 第11回街並み景観(2)景観レポートのプレゼンテーション 第12回環境共生住宅(1)環境共生とは何か 第13回環境共生住宅(2)環境共生住宅の事例 第14回エコロジカルタウン 第15回まとめと講評生		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特にありません 教材：適宜、参考資料などを配付します。 参考書：特にありません。		
成績評価の方法／Evaluation	出席(20%)、理解度テスト①(20%)、理解度テスト②(20%)、室内環境評価レポート(20%)、景観評価レポート(20%)として採点します。(ただし、受講者の関心テーマによって、レポートについては変更する場合があります。) 2/3以上の出席がない場合は評価の対象となりません。		
学習上の助言／Learning Advice	学習環境を維持するため、遅刻、退席、私語、携帯電話のマナー違反等には、厳しく対処します。		
キーワード／Keywords	住まいの室内環境、環境共生の住まい、街並み景観		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アメリカ文学史		
担当教員(所属)／Instructor	幡山 秀明(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S673007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	現代アメリカ文学を中心に歴史的背景や作品の意義を探る。		
授業の達成目標／Course Goals	この文学史は、文学や文化に関する様々な情報や知識を体系的に位置付けるものです。さらに、現在の社会や人間の問題を考察する糸口にしていきます。アメリカの植民地時代から第二次世界大戦後、今日までを概観し、特に20世紀文学作品の特徴について紹介していきます。異文化理解のための様々な情報は断片的で無秩序ですが、体系的に理解していく枠組みを形成します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中高の英語の教科書には、断片的ですが、様々な文学的文化的教材が使用されています。それらを体系化して意義を与えることで背景となる知識を深めていきます。		
前提とする知識／Prerequisites	米文学演習の既習者、または、修得予定者が望ましい。なお、履修表改訂のため、旧履修表の3年生用英米文学史II(前期木曜3-4)も兼ねるため、授業内容が変則的になる時があります。		
関連科目／Related Courses	米文学演習の既習者、または、修得予定者が望ましい。なお、履修表改訂のため、旧履修表の3年生用英米文学史II(前期木曜3-4)も兼ねるため、授業内容が変則的になる時があります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心におこないます。原文からの引用や映画の一部などを用いて具体的な理解に役立つようにします。受講者数によりますが、できれば発表も取り入れたいです。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>各々のテーマに応じて1~3回。現代の作品から過去へと遡って説明します。</p> <p>第1週オリエンテーション、導入</p> <p>第2-4週RacismとSexism: Toni MorrisonやAlice Walker等アフリカン・アメリカンの作家たち</p> <p>第5週 Minimalism: Raymond Carver等</p> <p>第6週 Postmodernism: Barth, Pynchon, Kurt Vonnegut等</p> <p>第7-8週Absurdityの世界: Ken KeseyやJerzy Kosinski等</p> <p>第9週The Great Depressionの時代: John Steinbeck</p> <p>第10-12週 Modernism: Hemingway, Faulkner, Fitzgerald等</p> <p>第13週 Naturalism: Theodora Dreiser</p> <p>第14週 Realismの興隆: Mark Twain等</p> <p>第15週 American Renaissance, 植民地時代</p> <p>第16週 レポート提出と指導</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書: 「総説アメリカ文学史」(研究社)、「アメリカ文学思潮史」(中教出版)、「たのしく読めるアメリカ文学」(ミネルヴァ書房)など。必要な教材はこちらで用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席・ワークシートの提出(50%) レポート試験(50%)の結果を総合的に評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDや読書などを通して興味を深めておいてください。 ・外国、特にアメリカに関する様々な情報は断片的で無秩序に氾濫していますが、体系的に理解していく枠組みを形成します。教員養成の観点から、英語教科書に散見する文化的・文学的情報を歴史の枠組みの中で整理し、現代社会や人間の問題を考察していきます。 		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	言語文化領域入門演習		
担当教員(所属)/Instructor	天沼 実(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950010
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>日本語と英語を主な対象とした言語および言語文化について、その隣接分野を含め、横断的に考察する。</p> <p>本授業前半では、「現代日本の文芸におけるシェイクスピア受容」を考察する。明治時代の坪内逍遙による全戯曲翻訳以来、シェイクスピアは様々な形で紹介・上演され、文学・演劇・映画など、日本のあらゆる文芸領域で作家たちを刺激し続けてきた。いくつかの事例を通して、その影響と受容の諸相を考察する。</p> <p>後半では英語を主対象として日本語と比較しつつ、身近な問題を材料として言語の科学的研究の基本的な考え方に触れる。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	言語の仕組みを客観的にとらえ、考える意識や言葉を通して人間と文化を理解するための基礎的な力を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	言語文化領域に関わる普遍的・今日的課題への主体的取り組みに向けて、基本的な専門知識及び技能への導入を図る科目である。総合人間形成課程言語文化領域2年次の必修科目。専門教育学習・教育目標のうち主として、(D)「実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる」及び(A)「社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している」等に関連している。		
前提とする知識/Prerequisites	言語の仕組みや言語表現による文化への幅広い興味や関心。		
関連科目/Related Courses	言語の仕組みや言語表現による文化への幅広い興味や関心。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	(前半)教員による講義を踏まえ、受講者から発表と問題提起を行ってもらう(担当発表は受講者全員に課す)。 (後半)各週、異なるトピックについて資料に基づく報告・発表を行うものと、モデレーター役の学生の基調・進行によりディスカッションを中心とした形式により行う。報告・発表者及びモデレーター役は順次全受講者に課す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 (4/14) ガイダンス 第2週 (4/21) 図書館利用法(文献検索法) 第3週 (4/28) 日本におけるシェイクスピア受容略史 第4週 (5/12) 黒沢明監督の映画『蜘蛛巣城』鑑賞 第5週 (5/19) 黒沢明監督の映画『蜘蛛巣城』考察 第6週 (5/26) 事例研究と担当発表1 太宰治など 第7週 (6/2) 事例研究と担当発表2 志賀直哉など 第8週 (6/9) 事例研究と担当発表3 その他 第9週 (6/16) 言語の科学的研究とは 第10週 (6/23) 言語研究の諸相と思考法(1) 第11週 (6/30) 言語研究の諸相と思考法(2) 第12週 (7/7) 言語研究の諸相と思考法(3) 第13週 (7/14) 事例・課題演習(1) 第14週 (7/21) 事例・課題演習(2) 第15週 (7/28) まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:『ハムレット』『マクベス』シェイクスピア、新潮文庫(宇大生協で販売) 『はじめてみよう言語学』佐久間淳一、研究社(宇大生協で販売) 参考書:『日本におけるシェイクスピア』森谷佐三郎、八潮出版社(図書館蔵) 『日本近代文学とシェイクスピア』水崎野里子、日本図書センター(図書館蔵) 『言語研究入門』大津由紀雄・他(編)、研究社 『なぜ日本人は日本語を話せるのか』今井邦彦、大修館書店 その他、授業中に随時紹介		
成績評価の方法/Evaluation	担当発表(70%)、および毎回出席をとり、授業態度も参照材料とする(30%)。		
学習上の助言/Learning Advice	口頭発表のための準備、手続き、発表技術について学ぶことも眼目のひとつである。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	資源リサイクル論		
担当教員(所属)/Instructor	池口 厚男(農学部農業環境工学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S950420
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	日本の物質フロー、エネルギー事情を概観し、日本の置かれている状況を概観する。バイオマス資源賦存の現状、資源循環を成立させるための「考え方」そして資源循環型社会構築をめざす取り組みについて概説する。資源リサイクルには広範な内容が含まれ、生ごみやプラスチックの回収やリサイクルの実施で事が済む問題ではない。リサイクルとは何かを考えると同時に私たち自身の価値観や生き方が問われていることを実感してほしい。グループ学習を後半に取り入れ今年度は大田原市を対象に農林水産省の畜産クラスター事業と地域戦略プロジェクトを立案する。発表会では当該区域の職員も参加して討論を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義では、 ・資源リサイクルに関わる基礎的知識の修得。 ・社会的要求・課題を理解し、資源リサイクル社会のあるべき姿や社会システムをデザインできる。 ・資源リサイクルに立脚した地域計画手法・環境評価手法の修得。 を目指す。 ・農林水産省の事業の応募申請書を作成する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学習・教育目標の「D」：「田園空間環境に関わる諸課題の解決策を見出す力」の醸成、「E1」：「地域資源を適切に管理する工学的基礎」、「E3」：「食料生産環境システム」の開発に関わる「工学的基礎」の修得に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	常日頃から新聞等を良く読んでおき、バイオマス、リサイクル、資源循環に対する世の中の取組について関心を抱くこと。		
関連科目/Related Courses	常日頃から新聞等を良く読んでおき、バイオマス、リサイクル、資源循環に対する世の中の取組について関心を抱くこと。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	プリントを配付し解説。 授業中に課題を出し、グループ間での討論も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 日本の物質フロー、エネルギー事情 2. 廃棄物処理 3. 社会制度としてのリサイクル：個別リサイクル法 4. 循環基本計画と循環指標 5. ポーター仮説 6. 金属のリサイクル 7. バイオマス利用の現状 8. 循環システムの評価：LCA 9. LCAの農業適用事例 10. グループ学習(地域バイオマス計画の立案) 11. グループ学習(地域バイオマス計画の立案) 12. グループ学習(地域バイオマス計画の立案) 13. 発表会1 14. 発表会2 15. 発表会3		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：特になし参考図書：リサイクルに関する本は数多く出版されております。どんな本でも構いません。読んで納得するだけでなく自分の意見を持つことが大切。		
成績評価の方法/Evaluation	・グループ学習による地域バイオマス計画の発表内容(50%) ・期末試験(50%)		
学習上の助言/Learning Advice	地球環境や環境保全・修復に興味がある学生は多い。貪欲に知識を吸収するとともに自ら考える姿勢を忘れないで欲しい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	森林政策学		
担当教員(所属)/Instructor	山本 美穂(農学部森林科学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S950430
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	森林政策の扱う範囲は、従来対象としてきた森林・林業・山村問題にとどまらず、川下の木材産業、国民の消費活動、さらには地球規模でのCO2対策に関わる諸問題にまで、拡大しつつある。森林・林業に関わる諸制度の生まれた背景、執行体制などについての基礎知識および個別分野の仕組みと課題について講述する。		
授業の達成目標/Course Goals	記について、問題群の位置づけおよび解決へ向けた政策的・社会的動きの基礎知識を修得することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	森林科学科の学習・教育目標の(D)“森林資源の持続的利活用のための必要となる計測技術、管理計画、森林政策に関する知識を習得する。また、森林の社会的な役割、位置づけを理解し、森林に関する管理計画、政策を立案する能力を身につける”に関連している。		
前提とする知識/Prerequisites	「森林基礎経済学」を同時に受講することが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「森林基礎経済学」を同時に受講することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的に講義を行うが、政策立案および林業・林産業の現場で活躍する外部講師を招いてミニ討論会も実施する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森は誰のものか?森林の所有・保有構造……第1週 ・ 国有林野事業……第2週 ・ 森林環境保全のための制度……第3週 ・ 森林政策の実行組織……第4週、第5週 ・ 森林・林業・林産業の基盤整備……第6週 ・ 戦後造林政策と山村問題……第7週 ・ 森林管理への住民参加/アグロフォレストリー……第8週 ・ 日本の木材流通構造……第9週 ・ 木造住宅市場の変化と木材産業の新展開……第10週 ・ 住宅の工法と部材+木取りあれこれ……第11週 ・ 住宅の工法と部材+日本の木材需給構造……第12週 ・ 京都議定書と森林・林業……第13週 ・ 森林環境税……第14週 ・ 森林認証制度……第15週 		
教科書・参考書等/Textbooks	生協にて販売予定(1000円)。その他、毎事業時に資料配布。 参考書として、森林総合研究所編「森林・林業・木材産業の将来予測-データ・理論・シミュレーション-」J-FIC日本林業調査会、2006年(ISBN4-88965-167-5)、3000円		
成績評価の方法/Evaluation	レポートの成績(80%)および毎講義時のコメント・質問(20%)によって判断します。		
学習上の助言/Learning Advice	与えられた課題に取り組むだけでなく、膨大な問題群を的確に整理する処理能力、相手から議題・意見を引き出していく質問力を養っていただきたいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	初等理科教育法		
担当教員(所属)/Instructor	出口 明子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S102340
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	小学校理科に関わる目的・内容・方法等についての講義、及び実習形式の観察・実験を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	小学校理科を対象として、理科教育の内容と方法についての理解を深める。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学部専門科目の小学校教科教育法に関する必修科目である。小学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識や経験は特に問いません。		
関連科目/Related Courses	理科, アドバンスト小学校理科実験		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	理科教育法に関わる講義、及び理科に関わる実験(実習形式)を行う。なお、学習指導案の書き方等の実践的な内容について、附属小学校教員による講義(1時間)を行う。 ※ 重要(受講時限の割り振りについて) ①学校教育教員養成課程2年次生は、専攻によって指定された時限を受講してください。 ②学校教育教員養成課程2年次生以外の受講希望者(3年次生以上、教員免許状取得プログラムを受けている大学院生等)は、第1回授業で、受講希望の旨を担当教員へ申告してください。実験室の収容人数等から、希望する時限での受講にならない場合がありますから、第2希望の時限についてもあらかじめ検討しておいてください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業は概ね以下の内容に基づいて進める。実験の実施時期等については、授業の中で別途連絡する。 第1回 受講ガイダンス 第2回 小学校理科の目標 第3回 小学校理科の教育課程 第4回 小学校理科の教材 第5回 理科授業のビデオ視聴、実験受講に関する説明 (第6~9週は、以下の4題目をローテーションして受講する) 第6回 実験(題目1: オームの法則とジュール熱) 第7回 実験(題目2: 熱の伝導) 第8回 実験(題目3: でんぶん) 第9回 実験(題目4: 動植物の表皮細胞) 第10回 小学校理科の指導法(第3学年の内容) 第11回 小学校理科の指導法(第4学年の内容) 第12回 小学校理科の指導法(第5学年の内容) 第13回 小学校理科の指導法(第6学年の内容) 第14回 小学校理科授業の実際(附属小学校教員による) 第15回 学習指導案の書き方		
教科書・参考書等/Textbooks	○教科書: 文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」(2008), 大日本図書。 ○テキスト: 教材プリントを適宜配布する。実験では、「理科教育法A 実験指導書」を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	試験, 実験レポート, 出席状況等の総合評価とする。		
学習上の助言/Learning Advice	○自然を対象とする理科では観察・観察が不可欠です。本科目での実験・観察を通して、小学校教師として必要な実験操作に関するスキルが身につきます。 ○教員養成の観点から、教員として最低限必要な資質能力を確実に身に付くように取り組んでください。		
キーワード/Keywords	小学校理科, 指導法, 観察・実験		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育学演習Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	和井内 良樹(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S175043
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	和井内 良樹(【和井内良樹】Mail:wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL:028-649-5335)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業では、現代のさまざまな教育問題を視野に入れながら、人間形成としての教育を「人間観」と「形成観」の両面から深く理解していくため、教育思想史上の人物の文献等を受講者と共に読み、それについて全員で議論していく予定である。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業では、単に現代の教育問題を現象的に捉えていくのではなく、その根底にある哲学的、思想的課題を読み解くことをねらいとする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。		
前提とする知識／Prerequisites	教育に関する一般的知識があることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	教育に関する一般的知識があることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	本授業では、授業計画で取り上げる人物(予定)の教育思想や歴史的背景などについて受講者相互に分担レポートし、それを基にして全員で議論していく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス①(授業内容の説明、演習の進め方など) 2. 近代教育思想の誕生とその論理 3. コメニウス 4. ロック 5. ルソー① 6. ルソー② 7. コンドルセ 8. ペスタロッチ 9. ヘルバルト 10. フレーベル 11. 福澤諭吉 12. デューイ 13. モンテッソーリ 14. ピアジェ 15. まとめ(近代教育思想と現代教育の課題) 		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書:村井実編『原典による教育学の歩み』講談社		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(70%)、発言状況(30%)		
学習上の助言／Learning Advice	現代的な教育課題と何かしら関連付けて思想を読み解くことがポイントです。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育学演習Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	川島 芳昭(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S177050
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	学校教育の課題とその改善方法に関する文献調査の練習を通して、卒業研究のための基礎能力を養成する。		
授業の達成目標/Course Goals	自分の関心に応じた卒業論文のテーマを見つける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育教員養成課程の「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目であり、卒業論文の作成のために必要な研究の準備段階として位置づけられる。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	様々なメディアを活用した文献の収集、内容の熟考、資料作成、発表、意見交換を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 研究とは何か 第3週 論文調査(1), 調べ方 第4週 論文調査(2), 発表方法 第5週 論文調査(3), 発表と意見交換 第6週 論文調査(4), 研究課題の検討 第7週 論文調査(5), 研究課題の設定 第8週 論文調査(6), 研究課題の発表と意見交換 第9週 論文調査(7), 研究方法の検討 第10週 論文調査(8), 研究方法の発表と意見交換 第11週 論文調査(9), 教材調査・方法 第12週 論文調査(10), 教材調査 第13週 論文調査(11), 教材調査結果の発表(1) 第14週 論文調査(12), 教材調査結果の発表(2), 意見交換 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない。資料や教材は必要に応じて指定または配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業態度(20%), 発表と意見交換(80%)に基づき成績評価する。発表内容と授業中の発言が極めて優れた者には「秀」を与える。		
学習上の助言/Learning Advice	卒業研究に向けて意欲的に取り組んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語学演習Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	澤崎 文(教育学部), 未設定(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S203508
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	澤崎 文(金曜日 14:30~15:30(できるだけ事前にメールで予約をとっておくこと))		
授業の内容/Course Description	中世に成立した軍記物語である『平家物語』について、日本語学的な分析・考察を演習形式で行う。テキストにはくずし字で書かれた影印本を用い、翻刻・語釈・日本語学の観点に基づく考察、それらを元にした現代語訳を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品を、変体仮名で書かれた影印本で読めるようになる。 ・発表資料を作成することで、日本語学の手法に則った古典作品の語彙・文法等の調査方法を習得する。 ・日本語学における問題点の発見と考察の方法を習得する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の一専門分野である「日本語学」、特に古典に関する基礎的演習科目としての意義を持つ。中学・高校の国語教員に必要な古典文学作品の文法・語彙等の基礎知識を習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	高校卒業レベルの古典文学と古典文法の知識を前提とする。 後期に開講される「日本語学演習Ⅱ」を必ず履修すること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	担当者がまず文献の書誌、日本語学的な特徴を解説し、レジュメの作り方、参考文献の調べ方を含めた発表のモデルを見せる。その後、2回程度出席者全員でくずし字を読む練習をおこない、以降は割り当てられた担当箇所について受講者が順に発表して、内容について出席者全員で議論する。前期の最後にはくずし字を解説する課題などを予定している。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>受講者数が未定のため、詳細な授業計画は提示できない。日時・担当者・担当箇所は第1回のガイダンス時に決定するため、受講者は必ず全員出席すること。</p> <p>第1回 ガイダンス(授業内容の解説、発表順を決める) 第2回 講義(文献の解説、模範発表と発表方法の説明) 第3回~4回 くずし字を読む 第5回~14回 受講者による担当箇所についての発表 第15回 まとめ(課題についての指示)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>教科書：授業内でプリントとして配布する。</p> <p>参考書：『高野本平家物語』笠間書院影印叢刊50~61(笠間書院) 『平家物語』新日本古典文学大系44~45(岩波書店) 『平家物語』新編日本古典文学全集45~46(小学館) 『平家物語覚一本全改訂版』(武蔵野書院) 『平家物語「高野本」語彙用例総索引』(勉誠社) 『日本国語大辞典 第2版』(小学館) 『角川古語大辞典』(角川書店) 『古語大辞典』(小学館)</p>		
成績評価の方法/Evaluation	演習担当時の発表内容・議論への参加状況 50% 学期末の課題 50%		
学習上の助言/Learning Advice	発表や質疑の場では失敗を恐れず、積極的に自分の考えを発言してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国語研究セミナーC I		
担当教員(所属)/Instructor	飯田 和明(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S226123
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯田 和明(028-649-5259/kz-iida@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯田 和明(金曜日 12:10~12:50。飯田研究室。事前にメールで予約を取ることが望ましい。)		
授業の内容/Course Description	国語教育に関する実践の検討や論文の講読を通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、各分野にわたる研究的な視点を獲得する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・国語教育における実践の内容や背景、論文における主要となる論点を捉え、国語教育に存する課題を知る。 ・国語教育に関する各自の研究的観点を持ち、基礎情報を得ると共に、研究に入っていくための手法を学ぶ。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を受講して得た知識・技術を前提とし、教材研究や指導法研究に関する先行文献を読解することで、国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目とする。学校教育教員養成課程の「学習・教育目標」達成のためには、特に(A)、(B)、(C)に強く関係する。		
前提とする知識/Prerequisites	「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の学習内容。		
関連科目/Related Courses	「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を履修し、後期の「国語教育特講」「国語研究セミナーCⅡ」を履修することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	こちらの提示する実践資料や論文をもとに、全員で考察、議論を行う。担当を決めて分担し、記述されている内容をまとめ、それに関する自分の見方を発表する。受講者それぞれの発表を基に、国語教育の課題について議論する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週国語教育の概論1(総論) 第3週国語教育の概論2(歴史) 第4週国語教育の概論3(実践) 第5週読むことの教育・文学的文章1(教材) 第6週読むことの教育・文学的文章2(指導) 第7週読むことの教育・説明的文章1(教材) 第8週読むことの教育・説明的文章2(指導) 第9週古典の教育1(概説) 第10週古典の教育2(教材) 第11週古典の教育3(指導) 第12週国語の特質の教育1(概説) 第13週国語の特質の教育2(教材) 第14週国語の特質の教育3(指導) 第15週総括		
教科書・参考書等/Textbooks	基本的に、こちらで資料を用意する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業での発表成果(100%)によって評価するが、評価基準の境においては出席状況によって判定する。		
学習上の助言/Learning Advice	必修科目ではありませんが、国語教育分野で卒論を書こうとする学生は必ず受講して下さい。(なお、この授業は、かつての「国語科教育演習Ⅰ」にあたります。)		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	歴史学特講A		
担当教員(所属)／Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S260101
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高山 慶子(月曜14:30～16:00)		
授業の内容／Course Description	日本史の特定の時代・テーマについての講義を行い、歴史への理解と関心を深める。本年度は、現在の大都市東京の前身である近世都市江戸の歴史を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	日本史の特定のテーマを掘り下げて学ぶことで、歴史への興味や探求心を養い、歴史・歴史学に対する理解を深める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、学ぶ(教える)歴史を支える歴史・歴史学のあり方を理解する。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業では史料や図表を配布する。それらを読解・解析しながら江戸の歴史を学び、歴史について考える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の都市 2. 近世という時代 3. 江戸の開発 4. 江戸と江戸城 5. 江戸城―儀礼・生活― 6. 江戸城―生活・消費― 7. 大名屋敷 8. 勤番武士の日記を読む 9. 旗本と御家人 10. 町人地の成立 11. 町の制度―町奉行・町年寄・名主・月行事― 12. 町の仕組み―住民階層・町財政― 13. 町の生活基盤―水道・道路・ゴミ処理― 14. 商家の世界 15. 裏長屋の人びと 		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しない。それぞれの内容に関する参考書は、授業の中で紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(70%)、授業への取り組み(30%)		
学習上の助言／Learning Advice	特になし。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	理科教育学実験A		
担当教員(所属)/Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S380123
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6, 木 /Thu 7	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	井口 智文(月)10:30~12:00 AM 井口研究室(左記以外はe-mailで予約してください)		
授業の内容/Course Description	生物分野の応用的実験方法を学ぶ。テーマは、教員が準備したものの他に、学校現場での実験指導を想定し、個人個人で決定したものをを行う。学生が決定したテーマでは、個人個人予備実験を行い、他の学生向けに実験指導を行うという形式をとる。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・生物分野の多様な実験方法を理解する。 ・実際に実験を行いレポートにまとめることを通して、論理的な考察の仕方を身につける。 ・実験を含む授業を行うに当たり予備実験の重要性を理解する。 ・実践的な実験の指導方法を身につける。 		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	理科教育専攻の選択科目の一つである。中高の理科教員として生物分野の実験を行う事ができ、さらに指導するための技能を育成する。		
前提とする知識/Prerequisites	中学校理科および高校生物の内容を理解しておくことを望む。		
関連科目/Related Courses	「基礎の生物科学」、「基礎生物学実験」を受講しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	毎回の実験は、準備した課題について、個人あるいはグループで実験を行い、レポートや観察スケッチを提出する形で進める。ただし、授業計画の「学生による実験」は「受講生の一人が先生役になり、実験課題を選定し他の受講生に実験の授業を行い、提出されたレポートの採点まで行う。」という進め方をする。予習と復習は、各実験の内容に該当する中学校、高等学校の教科書の単元の内容の理解に重点をおいて行うと良い。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回ガイダンス(顕微鏡の整備と取り扱い方) 第2回イモリ卵の発生の観察 第3回細胞の観察 第4回TLCによる光合成色素の分離 第5回細胞分裂と染色体の観察 第6回タンパク濃度の測定 第7回学生による実験の準備1(予備実験) 第8回酸性プロテアーゼの活性測定 第9回皮膚の二点弁別 第10回ポリアクリルアミドゲル電気泳動(PAGE)と活性染色 第11回学生による実験の準備2(配布資料作成) 第12回学生による実験(1)テーマは受講生が決定 第13回学生による実験(2)〃 第14回学生による実験(3)〃 第15回学生による実験(4)〃 なお、上記の計画は、材料が入手困難な場合などにより変更もあり得る。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：特に指定しません。 参考書：ニューステージ 新生物図表(浜島書店編集部、浜島書店) 高校生物教科書、高校生物図表、参考図書など 絵をみてできる生物実験(岩波洋造他、講談社) 教材：必要に応じて、プリント等を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(80%)、授業への参加態度(10%)、課題(10%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	欠席や遅刻をしないように務める。 実験内容に該当する、中学校「理科」、高等学校「生物」の内容を別に学習することを勧める。		
キーワード/Keywords	学校教育教員養成課程、理科教育、生物、実験		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	理科教育学実験A		
担当教員(所属)/Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S380124
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6, 木 /Thu 7	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	井口 智文(月)10:30~12:00 AM 井口研究室(左記以外はe-mailで予約してください)		
授業の内容/Course Description	生物分野の応用的実験方法を学ぶ。テーマは、教員が準備したものの他に、学校現場での実験指導を想定し、個人個人で決定したものを行う。学生が決定したテーマでは、個人個人予備実験を行い、他の学生向けに実験指導を行うという形式をとる。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・生物分野の多様な実験方法を理解する。 ・実際に実験を行いレポートにまとめることを通して、論理的な考察の仕方を身につける。 ・実験を含む授業を行うに当たり予備実験の重要性を理解する。 ・実践的な実験の指導方法を身につける。 		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	理科教育専攻の選択科目の一つである。中高の理科教員として生物分野の実験を行う事ができ、さらに指導するための技能を育成する。		
前提とする知識/Prerequisites	中学校理科および高校生物の内容を理解しておくことを勧める。		
関連科目/Related Courses	「基礎の生物科学」、「基礎生物学実験」を受講しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	毎回の実験は、準備した課題について、個人あるいはグループで実験を行い、レポートや観察スケッチを提出する形で進める。ただし、授業計画の「学生による実験」は「受講生の一人が先生役になり、実験課題を選定し他の受講生に実験の授業を行い、提出されたレポートの採点まで行う。」という進め方をする。予習と復習は、各実験の内容に該当する中学校、高等学校の教科書の単元の内容の理解に重点をおいて行うと良い。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回ガイダンス(顕微鏡の整備と取り扱い方) 第2回イモリ卵の発生の観察 第3回細胞の観察 第4回TLCによる光合成色素の分離 第5回細胞分裂と染色体の観察 第6回タンパク濃度の測定 第7回学生による実験の準備1 第8回酸性プロテアーゼの活性測定 第9回皮膚の二点弁別 第10回ポリアクリルアミドゲル電気泳動(PAGE)と活性染色 第11回学生による実験の準備2 第12回学生による実験(1)テーマは受講生が決定 第13回学生による実験(2)〃 第14回学生による実験(3)〃 第15回学生による実験(4)〃 なお、上記の計画は、材料が入手困難な場合などにより変更もあり得る。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：特に指定しません。 参考書：ニューステージ 新生物図表(浜島書店編集部、浜島書店) 高校生物教科書、高校生物図表、参考図書など 絵をみてできる生物実験(岩波洋造他、講談社) 教材：必要に応じて、プリント等を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(80%)、授業への参加態度(10%)、課題(10%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	欠席や遅刻をしない。 実験内容に該当する、中学校「理科」、高等学校「生物」の内容を別に学習することを勧める。		
キーワード/Keywords	学校教育教員養成課程、理科教育、生物、実験		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	環境分析化学実験		
担当教員(所属)/Instructor	南 伸昌(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S384005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6, 木 /Thu 7	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	水質の調査方法の修得を目的とする。前半は分析基礎として、主に滴定により水溶液中に含まれている物質の定量分析を行う。後半は分析応用として、機器分析などにより水質の調査を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で滴定をできるようになる。 ・平衡定数、標準電極電位と実際の化学変化との関係が理解できる。 ・化学実験の準備から後片付けまでをできるようになる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	理科教育専攻の選択専門科目の一つとして、中学校理科、高等学校化学の教員として必要な化学実験の技術・知識を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	基礎化学実験を受講済みであること。		
関連科目/Related Courses	基礎化学実験		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「分析基礎」と「分析応用」の2部構成とする。「分析基礎」は滴定などによる定量分析及び水溶液中のイオンの定性分析を行う。事前に実験内容をノートに整理することを課す。「分析応用」は河川水や大気を試料とし、主に機器分析を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ul style="list-style-type: none"> ・分析基礎 第1週ガイダンス、データ表・器具取り扱い練習 第2週二クロム酸カリウム標準溶液による Fe(II)の標定 第3週EDTA によるニッケルの定量 第4週ジメチルグリオキシムによるニッケルの定量 第5週水道水中のハロゲンイオンの定量 第6週陰イオン分析 第7、8週陽イオンの系統分離 ・分析応用 第9週天然水の硬度測定 第10週吸光度計実習 第11週C.O.D. (水質調査) 第12、13週大気中のNOxの測定 第14週後片付け、廃液処理 第15週予備日 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書1: 斎藤信房編「大学実習分析化学(改訂版)」裳華房 教科書2: 宇都宮大学教育学部編「化学(基礎化学実験)概要」 教材: データ表、実験手順などのプリントを適宜配布		
成績評価の方法/Evaluation	実験結果報告(70%)、実験ノートの記載内容(30%)により総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	高校や大学の講義で得た教科書的な知識を、実験を通じて実感して欲しい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ヴァイオリン		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 美子(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	S409118
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	ヴァイオリンの奏法を学ぶと同時に、楽器についての知識、扱い、手入れなど弦楽器について学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	音の出し方、基本の奏法を学ぶことで弦楽器の表現に触れ、自分の専門以外の楽器による音楽を広げる。半年の授業でできることは僅かだが、授業で学んだことが以後の練習として各自でできるようにする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	音楽教育専攻専門科目の選択科目		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。基本はヴァイオリンの初心者のための授業とするが、経験者も学ぶことができる。学校の楽器を使用するが、数は十分ではないので自分の楽器があれば授業で使用できることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	特になし。基本はヴァイオリンの初心者のための授業とするが、経験者も学ぶことができる。学校の楽器を使用するが、数は十分ではないので自分の楽器があれば授業で使用できることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	履修者全員によるクラス授業をする。 授業計画に基づいて実技の授業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	前半(第1週~第7週) 1楽器について 2楽器の持ち方 3、4指使い 5調によって変わる指使いを弾いてみる 6ボーイング 7スラーの練習 後半(第8週~第15週) ポジション・ヴィヴラートに触れながら、各自希望するヴァイオリンの名曲に挑戦して基本で学んだことを応用してみる。		
教科書・参考書等/Textbooks	主に、Methode Elementaire (Maurice Haechard 著、Alphonse Leduc 社出版)(楽器店で購入できる)		
成績評価の方法/Evaluation	出席数で判定する		
学習上の助言/Learning Advice	授業以外の時間でも学校の楽器で練習できるので、クラスで学んだことを各自十分練習して授業に臨んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ヴァイオリン		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 美子(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S430015
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	ヴァイオリンの奏法を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ヴァイオリン演奏の実技 クラスで学んだことを、各自が毎日の練習としてできるようにする。また、奏法だけでなく、楽器に対する知識、手入れなどについて学ぶ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals			
前提とする知識/Prerequisites	特になし。ヴァイオリンの初心者でもよい。		
関連科目/Related Courses	特になし。ヴァイオリンの初心者でもよい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	Ⅰ、入学前からヴァイオリンを勉強している専門のクラス、 Ⅱ、前年度からの受講者のクラス、 Ⅲ、初心者基礎のクラス に分かれ、それぞれのテキストを進める。		
教科書・参考書等/Textbooks	主に、Methode Elementaire (Maurice Haechard著、Alphonse Leduc社出版) (楽器店で購入できる)		
成績評価の方法/Evaluation	出席数で判定する。		
学習上の助言/Learning Advice	自分の楽器をもっていなくても、学校の楽器で練習できるので、クラスで学んだことを、各自で十分練習して授業に臨んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学校保健		
担当教員(所属)/Instructor	久保 元芳(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S515002
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	久保 元芳(kubo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	久保 元芳(水曜12:10~12:40、金曜12:10~12:40 教育学部B508)		
授業の内容/Course Description	学校現場において児童・生徒の健康や安全を守っていくための「保健管理」、健康や安全の保持増進に関わる児童・生徒自身の能力を育てていくための「保健教育」の基礎的かつ重要な内容について講義する。 その際、受講生がこれまでの学校生活で体験したことや感じたことを取り上げながら進める。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の子どもにおける発育発達特徴や起こりやすい健康問題について理解できている。 ・学校において児童・生徒の健康や安全を保障するための主要なシステムや活動、担当者の役割等について理解できている。 ・健康や安全に関わる児童・生徒自身の実践力を育成するためのアプローチのあり方について、思考することができる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目である。 また、学校現場での様々な保健活動を養護教諭、栄養教諭、学校医、保護者等と連携しながら企画・運営していくための知識・技能を養成する上で意義を持つ。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校までの保健学習で学んできた知識。 教科書「学校保健ハンドブック」を活用して、予習・復習を行うこと。		
関連科目/Related Courses	中等保健体育科教育法(保健1) 中等保健体育科教育法(保健2) 衛生学及び公衆衛生学 など		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各週に設定したテーマについて、パワーポイント、教科書、映像資料、配布資料等を用いた講義を中心に進めますが、適宜、グループワーク等を取り入れます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 学校保健の目的、領域構造、担当者 第2週 学校保健組織活動 第3週 児童・生徒の現代的健康課題 第4週 児童・生徒の健康・体力と発育発達(小児保健を含む) 第5週 健康診断、保健調査 第6週 健康観察、健康相談 第7週 養護教諭とその役割 第8週 学校における感染症の予防と対応 第9週 児童・生徒の精神的健康の維持と増進 第10週 障害のある児童・生徒への健康上の支援 第11週 学校環境衛生 第12週 学校安全①(学校における事故・災害、応急手当等) 第13週 学校安全②(安全教育、学校の防犯等) 第14週 食育の推進と学校給食 第15週 教職員の健康		
教科書・参考書等/Textbooks	・教科書 「学校保健ハンドブック」(第6次改訂)、教員養成系大学保健協議会 編集、ぎょうせい		
成績評価の方法/Evaluation	①期末試験(70%)、②課題レポート(30%)を合計して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	受講者自身が体験してきた、学校での様々な保健活動において感じたことを思い出し、その意義を問い直しながら受講すると理解が深まります。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	住生活環境実習		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S562000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	住まいの企画、プランニング、設計デザインの基本的な知識とスキルを学ぶとともに、学校教育(家庭の住居)での応用について学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業では、住宅の設計製図に関する基礎的な知識と技能を修得することを目指します。また、設計製図をどのように学校の授業で取り扱うかも学習します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	住居学では、住まいを立体的に捉え、自らの考えを図面として表現できる能力が重要です。本授業はそのようなニーズと関連しています。		
前提とする知識／Prerequisites	必須ではありませんが、住居に関する基礎的知識があることが望まれます。(住居に特関する基礎的知識は「住生活論」「住環境論」にて修得できます。)		
関連科目／Related Courses	必須ではありませんが、住居に関する基礎的知識があることが望まれます。(住居に特関する基礎的知識は「住生活論」「住環境論」にて修得できます。)		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	受講生各人が設計製図に取り組むことが中心となりますが、適宜、講義などによって関連法規などの学習も行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回製図の基礎基本(1)理論 第3回製図の基礎基本(2)事例 第4回製図の基礎基本(3)演習① 第5回製図の基礎基本(4)演習② 第6回設計技法(1)演習① 第7回設計技法(2)演習② 第8回関連法規 第9回住居の授業展開 第10～13回期末プロジェクトに関する調査、製作 期末プロジェクトでは、受講生各人が住居を建てる用地選定、関連法規調査、周辺環境調査、住居の基本設計などをとりまとめることが求められます。 第14回期末プロジェクトのプレゼンテーション 第15回まとめと講評		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特にありません 教材：適宜、参考資料などを配付します。 参考書：陣内雄次、他著『コミュニティ・カフェと市民育ち』(萌文社、2007年)		
成績評価の方法／Evaluation	出席(30%)、レポート(10%)、製図課題(20%)、期末プロジェクト(40%)として採点します。 2/3以上の出席がない場合は評価の対象となりません。		
学習上の助言／Learning Advice	住居の設計は難しくもあり、また、楽しく、喜びも大きい学習と経験のプロセスです。		
キーワード／Keywords	住まいの企画、プランニング、設計デザイン		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	栽培		
担当教員(所属)/Instructor	増淵 夫美康(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S604005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description			
授業の達成目標/Course Goals	作物が他の植物とどの様に違うかを理解し、その生長と環境との関連を知り、扱いが簡単な作物の栽培ができるようにする。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals			
前提とする知識/Prerequisites	植物の基本的な生理に関する講義を受講していることが望ましいが、前提としての知識や経験はもとめない。		
関連科目/Related Courses	植物の基本的な生理に関する講義を受講していることが望ましいが、前提としての知識や経験はもとめない。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	講義時に配布する資料をもとに講義を進める。受講者が自由に発言し、論議できるように配慮する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1週栽培の起源と作物の成立 第2週品種の成立と現在の品種改良法 第3週バイオテクノロジーと栽培への利用 第4週栽培と気象環境 第5週栽培と土壌環境 第6週栽培と生物環境農作物の病害概説 第7週//農作物の害虫概説 第8週基礎的な栽培技術 第9週これからの栽培技術 第10週作物の栽培法 水稻 第11週//麦類、大豆等 第12週//野菜類(果菜類) 第13週//野菜類(葉菜類、根菜類) 第14週//花き類 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	毎回、資料を配付する。 参考資料：学校園の便利帳・学校園の観察実験便利帳、日本農業教育学会編 校庭の作物板木・岩瀬・川名共著全国農村教育協会		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加度と期末試験の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	講義中に積極的に質問などして、理解を深める努力をしてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	人間発達領域入門演習		
担当教員(所属)/Instructor	川原 誠司(教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース 学校教育専攻)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	川原 誠司(メールアドレス: kawahara★cc.utsumiya-u.ac.jp (★を@に変えてください) 電話: 028-649-5340 ※迷惑電話が多いので、できるだけメールでの予約・質問をお願いいたします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	川原 誠司(月曜日12:10~12:40 / 木曜日14:30~16:00 (相談等はできるだけ予約願います。急用で対応できない場合もあります。上記以外でも、短い時間で終わるもの等は、在室中は極力対応します))		
授業の内容/Course Description	●人間発達領域で学んでいくにあたっての基本的情報を提供します。また、必要な情報を自ら収集・活用するためのスキルを養成し、それらを基に自分の進むべき方向性を検討・明確化させていくための授業です。		
授業の達成目標/Course Goals	●自分の研究テーマについて深化させていくこと。 ●テーマならびに時間割の制約に沿った履修計画を精緻化させること。 ●研究分野および研究内容について理解すること。 ●就職・進路について明確化して何らかの行動を起こすこと。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	●本授業は、教育学部総合人間形成課程の人間発達領域を所属領域(主領域)にする学生は必修です。		
前提とする知識/Prerequisites	●総合人間形成課程の「新入生セミナー」「カリキュラム設計演習」を受講していること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	●皆で授業に参加し、相互にやりとりするという形をできるだけとります。皆で専門に関する学びの準備が整うために、具体的な情報収集や知的作業を行っていきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	※部屋の予約状況等によっては、順序を入れ替えたりする場合があります。 1 ガイダンス, 自己紹介, 履修の確認(1) <川原・白石> 2 履修の確認(2), 電子ポートフォリオ作業<川原> 3 スタディ・スキル<白石> 4 学生相互の関係促進(1) <川原> 5 文献検索の仕方(1) -和文献- <白石> 6 文献検索の仕方(2) -英文献- <白石> 7 領域の各学問の検討(教育心理学・教育学), 就職・進路について(卒業生状況) <川原> 8 領域の各学問の検討(特別支援教育学・情報教育学), 就職・進路について(自己設計) <川原> 9 英文講読(1) -第1グループ- <白石> 10 英文講読(2) -第2グループ- <白石> 11 英文講読(3) -第3グループ- <白石> 12 学生相互の関係促進(2) <川原> 13 履修計画等発表(1) -第1グループ- <川原> 14 履修計画等発表(2) -第2グループ- <川原> 15 履修計画等発表(3) -第3グループ-まとめ <川原・白石>		
教科書・参考書等/Textbooks	●必要なものを授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	●「授業中の参加の仕方」「課題・宿題の提出」「作業内容の遂行具合」などを合わせて評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	●人間発達領域で学んでいく第一歩です。よい船出にしましょう。後ろ向きにならずに、とにかく前向きに。専門的なものを学ぶというのは荒波かもしれませんが、針路をしっかりとって進みましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域公共領域入門演習		
担当教員(所属)/Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950015
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	経済、福祉、法律などの観点を中心とした講義・演習や、自らの作業を通じて、地域公共領域を把握するために必要な幅広い知識の導入部分を学ぶとともに、当該分野の学習方法について学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共領域の諸問題について課題を見つける方法を身につける ・自分のキャリア形成に向けて大学でどのように学んでいくかについてより具体的な見通しを持つ 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	カリキュラム設計科目の一つである。地域公共領域で取り上げる社会的諸問題や政府の活動としての政策を学ぶために作成している自らの履修計画をより深いものにするための授業であり、専門教育のための基礎となるものと位置付けられる。		
前提とする知識/Prerequisites	「新生生セミナー(総合人間形成課程)」および「カリキュラム設計演習」の履修を前提とする。その他の知識はとくに前提としない。		
関連科目/Related Courses	「新生生セミナー(総合人間形成課程)」および「カリキュラム設計演習」の履修を前提とする。その他の知識はとくに前提としない。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本書の輪読、グループ討議およびゲストスピーカーの話などを通じ考察を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス、自己紹介、履修計画の再確認および履修登録科目の紹介(ポートフォリオ作成) 第2回 社会や地域を学ぶにあたって1(法学分野) 第3回 社会や地域を学ぶにあたって2(法学分野) 第4回 社会や地域を学ぶにあたって3(法学分野) 第5回 社会や地域を学ぶにあたって4(法学分野) 第6回 地域を考える1(ゲストスピーカー) 第7回 社会や地域を学ぶにあたって5(社会学・福祉学分野) 第8回 社会や地域を学ぶにあたって6(社会学・福祉学分野) 第9回 社会や地域を学ぶにあたって7(社会学・福祉学分野) 第10回 社会や地域を学ぶにあたって8(社会学・福祉学分野) 第11回 社会や地域を学ぶにあたって9(経済学分野) 第12回 社会や地域を学ぶにあたって10(経済学分野) 第13回 社会や地域を学ぶにあたって11(経済学分野) 第14回 社会や地域を学ぶにあたって12(経済学分野) 第15回 振り返り(履修計画の手直し、履修した科目の紹介および今後の学習についての意見交換)		
教科書・参考書等/Textbooks	適宜授業の中で指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	原則として、全回出席者を単位認定対象とする。課題の提出がない場合は、単位認定しない。 授業での取り組み態度20%、中間レポート(3回程度)60%、最終レポート20%を目安に総合的に判断して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業は、正規時間内での活動およびレポートを中心に展開される。休まず、遅刻せずに受講することが評価の前提である(無断欠席および無断遅刻は認めない)。レポートも期限内に必ず提出すること。これらに対応しない場合には、大きな評価減につながる。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	道徳教育		
担当教員(所属)/Instructor	和井内 良樹(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S103421
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	和井内 良樹(【和井内良樹】Mail:wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL:028-649-5335)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業では、学校における道徳教育の理論と実際を学ぶと共に、小中学校での「道徳の時間」における授業理論及び指導方法について理解を深め、「道徳の時間」を指導する授業者としての基本的な技能を習得することを目指す。今日、道徳性を養う道徳教育の重要性が叫ばれる一方で、実際に行われる道徳授業の形骸化などの問題が指摘されている。このことも踏まえ、豊かな心を育み、生徒にとって魅力ある「道徳の時間」の在り方について考えていきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	学習指導要領における道徳教育の目標及び「道徳の時間」の特質について理解できる。「道徳の時間」の理論と指導方法について理解できる。 学習指導案を作成し道徳授業を構想することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育教員養成課程の「課程共通科目Ⅰ」の「C共通教職」の必修科目であり、小中学校の教員免許を取得するための必修科目である。総合人間形成課程の「人間発達領域専門科目」の選択科目であり、人間の発達成長のあり方について学ぶための科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に従い講義を行う。授業内容に応じて話し合いの時間を設けることもあり得る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週: ガイダンス(講義の目的及び進め方) 第2週: 社会の変化と道徳教育の意義 第3週: 道徳教育の思想と歴史 第4週: 学校における道徳教育と道徳の時間 第5週: 道徳性の多面的理解 第6週: 「道徳の時間」の指導(1)目標と特質 第7週: 「道徳の時間」の指導(2)学習指導の構想 第8週: 「道徳の時間」の指導(3)指導方法の工夫と資料 第9週: 学習指導案の作成(1)手順と方法 第10週: 学習指導案の作成(2)演習Ⅰ 第11週: 学習指導案の作成(3)演習Ⅱ 第12週: 授業観察(1) 第13週: 授業観察(2) 第14週: 道徳教育における評価 第15週: 教育課題と道徳教育 主として講義形式で行うが、演習・グループ討議形式で行う場合もある。授業観察では授業DVDなどを用いる。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 文部科学省編『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版(2008年) 文部科学省編『中学校学習指導要領解説道徳編』日本文教出版(2008年)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回のコメントペーパー(30%)、学期末試験(70%)をもとに総合的に評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	大学で学ぶことの意味は何か、教育とは何かという問いを常に意識しながら、道徳教育についても考えてみましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育学演習Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	上原 秀一(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S175041
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	今日の教育問題をさまざまに論じた本を読む練習を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	教育学に関する卒業論文の課題を見つける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程の「学校教育専攻専門科目」の「教育学領域」の選択科目であり、学校教育の基盤となる教育学を学ぶための科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教育について論じた新書を読み、資料作成、発表、意見交換を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週～第4週発表と意見交換 第5週まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しない。参考書は必要に応じて指定する。教材は必要に応じて配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	発表と意見交換に基づき成績評価する。発表内容と授業中の発言が極めて優れた者には「秀」を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	卒業論文の課題を見つけてもらいたと思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語学特講		
担当教員(所属)/Instructor	澤崎 文(教育学部), 未設定(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S212000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	澤崎 文(金曜日 14:30~15:30 (できるだけ事前にメールで予約をとっておくこと))		
授業の内容/Course Description	上代の日本語が反映される文献の性格や読み解き方、そこに表れる日本語学的現象を講義する。その際、必要に応じて上代日本語に関する最新の研究成果を紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・作品それぞれの文献の性格を理解できるようになる。 ・文献に表れた日本語学的現象の解釈ができるようになる。 ・日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。 ・日本語学的な分析の観点を身につける。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、日本語学・日本語史上の最新の研究に触れ、日本語学の研究方法に関する知識を習得する。これは日本語学の分野で卒業論文を執筆するために必要な能力となる。また、中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。		
前提とする知識/Prerequisites	古典作品や古語に関する基礎的な知識があること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的に講義形式で進めていくが、毎回コメントシートを配り、授業に関する意見や感想を書いてもらう。有意義なコメントは次回授業時の初めに紹介することで、教室内の意見交換に役立てたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス 第2回 上代語と中古語のちがい 第3回 最古の日本語文献 第4回 『古事記』①(文献的性格) 第5回 『古事記』②(音韻・表記) 第6回 『古事記』③(語彙・文法) 第7回 『万葉集』①(文献的性格) 第8回 『万葉集』②(音韻・表記) 第9回 『万葉集』③(語彙・文法) 第10回 『日本書紀』①(文献的性格) 第11回 『日本書紀』②(音韻・表記) 第12回 『日本書紀』③(語彙・文法) 第13回 木簡・宣命・その他の文献 第14回 上代日本語研究の課題 第15回 まとめと補足		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：授業中にプリントとして配布する。 参考書：『時代別国語大辞典 上代編』(三省堂) 犬飼隆『漢字を飼い慣らすー日本語の文字の成立史』(人文書館) 森博達『日本書紀の謎を解くー述作者は誰か』(中央公論新社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験に学習への取組み状況(毎回のコメントシート)を加味し、到達目標に照らして採点、評価する。期末試験の比率は70%程度とする。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業では、学校で学ぶ「古典文法」や「古典単語」はおろか、平仮名や片仮名さえも成立していない時代の日本語について扱います。現代のことばとの違いや共通点を見つけ、日本語文献の最古層にふれることを楽しんでみてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地理学特講C		
担当教員(所属)/Instructor	松村 啓子(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S261604
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 啓子(kwmatu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00)		
授業の内容/Course Description	農業立地論とその有効性、および農業地域区分について講義します。授業の後半では日本のコメ作り、肉用牛生産などの地域事例を紹介しつつ、農産物の輸入自由化や食の安全の問題に関する知識を深めます。		
授業の達成目標/Course Goals	経済地理学の研究視角を学びながら、農業立地、農畜産物の生産方式、加工・流通システムなど、食料生産・供給の地域的美態を調査研究する力を養うことを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教員免許取得希望の受講生については、小・中学校社会科における食料の生産と販売に関する授業を行うための、深い教養を身につけます。また消費者としての、食料に対する正しい知識と判断力を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	小学校社会科および中学校社会科地理的分野で学習した内容(特に農業に関する事項)を理解していること。		
関連科目/Related Courses	小学校社会科および中学校社会科地理的分野で学習した内容(特に農業に関する事項)を理解していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業内容に関するプリントを配布し、パワーポイントを使いながら講義を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週: 農業地理学の対象 第2週: 農業立地論(1) 農法の発達段階 第3週: 農業立地論(2) 作物理論 第4週: 農業立地論(3) 集約度理論 第5週: 農業立地論と現実の農業立地(1) 統計地図の作成 第6週: 農業立地論と現実の農業立地(2) 整合性と乖離 第7週: 農業地域区分(1) 世界の農業地域区分 第8週: 農業地域区分(2) アメリカの農業地域 第9週: グローバル・フードシステム 第10週: コメ作りと農政の変化(1) 品種と作付状況 第11週: コメ作りと農政の変化(2) 販売戦略 第12週: 畜産地域の形成と構造(1) 肉用牛飼養 第13週: 畜産地域の形成と構造(2) 牛肉のブランド化 第14週: 農産物供給における安全性確保とリスク管理 第15週: 野外巡検の企画		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しません。 参考書: チューネン著・近藤康男・熊代幸雄訳「孤立国」日本経済評論社 参考書: グリッグ著・山本ほか訳「農業地理学」農林統計協会 参考書: グリッグ著・山本ほか訳「農業変化の歴史地理学」二宮書店 参考書: プライアント&ジョンストン著・山本ほか訳「都市近郊地域における農業」農林統計協会		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(80%)と授業中に行う課題(20%)によって評価します。なお、課題を最低1回提出していることが期末試験の受験資格となります。		
学習上の助言/Learning Advice	自分たちが口にする生鮮品や加工食品がどこから来たものであるか、常日頃から関心を持つようにしてください。教育学部Moodleの掲載資料を自習に役立ててください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	数学科教育法 I		
担当教員(所属)/Instructor	日野 圭子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S312110
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	中学校・高等学校数学科の学習指導に関わる基本的な知識の習得をねらい、数学科の目標、内容、指導方法、評価について、具体的な教材を例に挙げながら講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・数学科の目標、内容、指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する ・生徒の数学の学習指導上の実態についての理解を深める 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校教員免許取得に必須の科目である。中学校・高等学校数学科を指導するに当たっての基本的な知識・技能を修得する。		
前提とする知識/Prerequisites	1年次で受講可能な数学関係科目、並びに教育学・心理学関係の科目を履修済みであることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	1年次で受講可能な数学関係科目、並びに教育学・心理学関係の科目を履修済みであることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義および演習によって進めていく。 授業では、主として中学校学習指導要領解説(数学編)をベースに進めるので、授業内容の予習や復習に活用して欲しい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業の目的と方法について 第2回 数学科学習指導要領について(1) (単元学習、中心概念、数学教育の現代化) 第3回 数学科学習指導要領について(2) (国際調査にみる日本) 第4回 数学科学習指導要領について(3) (数学科学習指導要領について) 第5回 数学科の指導内容(1) (数の拡張) 第6回 数学科の指導内容(2) (数の拡張) 第7回 数学科の指導内容(3) (文字式) 第8回 数学科の指導内容(4) (関数) 第9回 数学的活動について 第10回 授業ビデオの分析 第11回 数学科の指導方法について(1) 第12回 数学科の指導方法について(2) 第13回 課題学習について 第14回 数学科における評価について 第15回 授業の振り返りとまとめ ※授業の進み具合などによって内容を変更することがあります		
教科書・参考書等/Textbooks	資料は適宜プリントで配布をする。また、以下の図書を参考にする。 ・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 ・中原忠男・澤田利夫他編。(1999). 数学科教育: 中学・高校. 学文社. ・杉山吉茂。(2010). 中等科数学科教育学序説. 東洋館.		
成績評価の方法/Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題への取組み等の状況 20% ・試験 50% ・レポート 30% 		
学習上の助言/Learning Advice	自分が受けてきた数学科教育を振り返りながら、教員養成段階での課題意識を持って受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	和声Ⅲ		
担当教員(所属)／Instructor	木下 大輔(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S410010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
授業の内容／Course Description	和声(その3)		
授業の達成目標／Course Goals	〈学校教育教員養成課程〉中学校・高等学校音楽教員(1種免許状教員)たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)の修得。〈総合人間形成課程〉音楽家・音楽教養人たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)の修得。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学生は、上記到達目標に達するために、和声の実技の修練を行う。		
前提とする知識／Prerequisites	「和声Ⅰ」、「和声Ⅱ」を履修・修得済みであること。		
関連科目／Related Courses	「和声Ⅰ」、「和声Ⅱ」を履修・修得済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	課題実施の個別指導、相互批判。必要に応じて理論的事項を概説する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ソプラノ課題8小節程度 第2回ソプラノ課題実施感について 第3回ソプラノ課題12小節程度 第4回ソプラノ課題様式について 第5回Ⅳ7 第6回ドリア 第7回ナポリ 第8回副Ⅴ 第9回借用総括 第10回種々のバス課題・ソプラノ課題(1) 第11回種々のバス課題・ソプラノ課題(2) 第12回種々のバス課題・ソプラノ課題(3) 第13回種々のバス課題・ソプラノ課題(4) 第14回種々のバス課題・ソプラノ課題(5) 第15回総括 なお、実技授業である以上、受講者の進捗状況などにより、各項の所要時数は臨機応変に変動する。		
教科書・参考書等／Textbooks	池内友次郎、島岡譲、ほか『和声—理論と実習』第Ⅱ巻・第Ⅲ巻、音楽之友社		
成績評価の方法／Evaluation	課題実施・試験(100%)。ただし、本学部規定の出席日数に達しない者には、単位を与えられない。なお、授業中の迷惑行為者(私語など)は、大幅減点ないし単位不授与。		
学習上の助言／Learning Advice	和声は音楽実技である。 声楽やピアノの練習と同様、毎日の鍛錬を怠らないこと。		
キーワード／Keywords	和声		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	デザインA I		
担当教員(所属)／Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	S457006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8, 木 /Thu 9	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容／Course Description	平面デザイン(グラフィック、テキスタイル・デザインなどの基礎的内容)を主とする。生活における平面メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 ・課題として与えられたテーマに対して、デザイン的な思考による発想や構想の方法の基礎を身につける。 ・生活の視点で造形をとらえて、妥当性が判断できるようにする。 ・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。		
前提とする知識／Prerequisites	原則として、平面構成I, IIの受講が前提となります。 図法Iの履修をすすめます。		
関連科目／Related Courses	原則として、平面構成I, IIの受講が前提となります。 図法Iの履修をすすめます。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	実技が中心となります。与えられた課題に対して、デザイン・プロセスの各段階ごとをポートフォリオにまとながら制作をすすめて行きます。各段階で個人指導をおこない次の段階に進みます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション(授業の進め方、用具・材料などについて) 第2週 平面デザイン課題1(課題説明、エスキース) 第3週 平面デザイン課題1(エスキース、制作) 第4週 平面デザイン課題1(制作) 第5週 平面デザイン課題1(プレゼンテーション講評) 第6週 平面デザイン課題2(課題説明、エスキース) 第7週 平面デザイン課題2(エスキース) 第8週 平面デザイン課題2(制作1) 第9週 平面デザイン課題2(制作2) 第10週 平面デザイン課題2(プレゼンテーション講評) 第11週 平面デザイン課題3(課題説明、エスキース) 第12週 平面デザイン課題3(エスキース) 第13週 平面デザイン課題3(制作1) 第14週 平面デザイン課題3(制作2) 第15週 平面デザイン課題3(プレゼンテーション講評)		
教科書・参考書等／Textbooks	必要な資料は配付。用具・材料はその都度指示。		
成績評価の方法／Evaluation	課題への取り組み(50)、提出作品とプレゼンテーション(50)で総合的に評価します。遅刻・欠席は減点となります。		
学習上の助言／Learning Advice	1. 実技の進行に関わるので、欠席・遅刻のないように。 2. 授業に必要な用具・材料等は、事前に準備してくる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	工芸III		
担当教員(所属)/Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S476027
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8, 木 /Thu 9	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容/Course Description	漆芸作品に用いられる材料は多様で、必ず異なった素材を併用して表現される。工芸IIIでは、テーマを追求しながら、顔料・箔・粉・貝などの素材を用いて漆芸技法を学習し、イメージが素材を通してどう表現されるのか、どのような表現の可能性が見いだせるかということ考察する。		
授業の達成目標/Course Goals	定められたテーマのもと、色漆による漆絵・変り塗り・蒔絵・卵殻・螺鈿・沈金等による漆芸を学び、作品表現する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	工芸IIIは、学校教育教員養成課程の美術教育の専門教育科目として、また総合人間形成課程の芸術文化領域専門科目として、専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	工芸I、IIを受講していること。かつ美術の基礎的な実技授業(デッサン・平面構成・立体構成・彫塑等)を受講しているか、同等の実技経験をもっていること。		
関連科目/Related Courses	工芸I, 工芸II, 工芸III, 工芸III, 立体構成I, 立体構成II, 美術表現基礎, 工芸科教育法I, 工芸科教育法II, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項(材料について・道具の取り扱い・技術・技法等)を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。授業で進めた課題の制作工程を記録しまとめていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回課題説明 漆とは何か 第2回材料と道具の整備 第3回テーマに沿ったイメージを展開、エスキース 色漆調合 第4回漆絵 置目取り 第5回漆絵 描写 第6回漆絵 描写の展開 蒔絵表現 第7回変り塗り 仕掛け 第8回変り塗り 塗り 第9回 変り塗り 研ぎと磨き 第10回卵殻と螺鈿 置目取り 第11回卵殻と螺鈿 貼付け 第12回卵殻と螺鈿 上塗り 第13回沈金 置目取りと彫り 第14回沈金 仕上げ 第15回仕上げと鑑賞		
教科書・参考書等/Textbooks	スケッチブック(エスキース用)、鉛筆、その他必要に応じて指示する。 漆の教材は一括して購入する(3500円前後)		
成績評価の方法/Evaluation	提出作品と制作レポート(70%)と、授業への取り組み(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業初回到課題説明の他、道具・材料の手配をするので、必ず出席すること。 工芸の作業は毎日の作業の積み重ねにより、技術を習得し表現方法を学んでいく。道具や環境の整備から始まり、材料の管理、作業後の道具の手入れにまで時間を要する。工芸を受講する者は授業の時間内だけでなく積極的に取り組むよう望む。工芸を知る上で参考になる展覧会・資料があれば、可能な限り紹介し参観するようにすすめる。工芸の授業を通し、様々な工芸素材にふれ、その加工や表現を知ることにより、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。		
キーワード/Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工, 漆絵・変り塗り・蒔絵・卵殻・螺鈿・沈金, urushi, lacquer		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	生理学		
担当教員(所属)/Instructor	小宮 秀明(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S513000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	生理学の基礎から運動生理学の応用について全15回で行うものである。まず、身体の神経、呼吸、血液、循環、内分泌などの基本となる生理機能について概説する。このことを踏まえ中学・高等学校の保健体育の授業で必要となる課題について、身体活動の安全性やパフォーマンス向上等を含め講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義では授業計画に示すように身体の機能的メカニズムを十分に理解することが必要となる。さらに運動場面においてどの様に身体の諸機能が変化するかを明らかにし、生理学から運動生理学へ系統的に説明を行い、各臓器や器官と運動を有機的に結びつけることができるようになる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校・高等学校の「体育、保健体育」免許を取得するための必修科目であり、これまでの教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ講義の中でその解説を行う。		
前提とする知識/Prerequisites	高校生時代の保健体育や生物学の授業で学習した学生もいるかもしれないが、その経験は一切関係ない。 授業の復習が極めて重要である。		
関連科目/Related Courses	運動生理学や解剖学の基礎とる授業科目です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストを中心に授業を進める。特に過去の教員採用試験に出題された内容については重点的に授業を行う。事前に教科書を必ず購入しておくこと。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学や運動生理学を修得することの意味について 2. 筋肉の基本的機能(骨格筋の微細構造) 3. 筋肉の基本的機能(骨格筋の収縮) 4. 運動中の筋の働き 5. 神経系の機能(興奮の発生と伝導、脊髄、運動系大脳皮質、脳幹) 6. 運動と神経系の働き(中枢神経系での運動の概念と制御) 7. 運動と神経系の働き(脊髄の高次反射と運動中枢) 8. 内分泌系の機能 9. 運動に伴う内分泌系の調節機能 10. 血液の生理学(運動中の脱水防止について) 11. 循環の生理学(心臓の構造と機能、血行力学) 12. 運動に伴う循環動態の変化(循環調節、骨格筋の微小循環) 13. 呼吸の生理学 14. 運動に伴う呼吸調節 15. 運動中の体温調節 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書として使用するため大学生協で購入のこと。 テキスト: シンプル生理学、真邑富久子、根来英雄共著(南江堂)		
成績評価の方法/Evaluation	試験90%、出席・学習態度・発表を総合的に判定10%で評価を行う。 欠席、遅刻は減点とする。 なお、優の中から特に優れたものを秀とする。 再試に関しては履修規定に記載の通り措置する。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃の部活動で疑問に感じた事を科学的に明らかにする喜びを味わってもらいたい。また、教員養成の観点から、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けるように取り組んでください。 〈その他〉 毎回の講義の後に復習を欠かさないことが大切である。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	プログラミングII		
担当教員(所属)/Instructor	川島 芳昭(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S613010
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	中学校技術・家庭(技術分野)の「情報に関する技術」に関する学習指導に必要な基礎的な知識・技能を、コンピュータプログラミングの演習を通じて修得します。さらに、Web上で利用できる教材の作成やコンピュータ制御について導入します。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>中学校技術・家庭(技術分野)の「情報に関する技術」の学習指導を行うための基礎となる知識・技能を習得し、次の事項を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの情報処理の仕組みを説明できる。 ・コンピュータプログラミングの知識・技能を習得し、発展的なプログラムを作成できる。 ・ソフトウェアとハードウェアとの関係を考慮したプログラミングができる。 ・学習指導に必要な簡単な教材を作成することができる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校「技術」免許取得の為の選択科目であり、技術教育専攻の専攻専門科目の一つとして、中学校の「情報に関する技術」に関する学習指導を行う教員に必要な基礎的な知識・技能や指導方法、教材作成方法を修得します。		
前提とする知識/Prerequisites	プログラミングの経験があること		
関連科目/Related Courses	プログラミング演習Iを履修済みなこと		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に示した手順で授業を進めますが、授業の進行状況に応じて、順序や内容を一部を変更することもあります。授業では、教科書やプリントを用いて応用的なデータ構造やアルゴリズム、Web上で利用できるプログラミング言語の基本構造やWebに対応した教材作成の基礎や制御プログラムの基礎について解説します。演習では、解説した内容に関連したプログラムの作成と実行を行います。演習結果は、レポートとして提出します。授業や演習課題等については、e-Learningシステムを併用して情報提供します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Web型教材の作成(1) Flashの基礎 3. Web型教材の作成(2) Action Scriptの基礎 4. Web型教材の作成(3) Action Scriptによる数値演算の基礎 5. Web型教材の作成(4) シンボル内変数の活用 6. Web型教材の作成(5) attachMovieの活用 7. Web型教材の作成(6) setIntervalの活用 8. Web型教材の作成(7) ファイルI/O 9. Web型教材の作成(8) キーボード制御 10. Web型教材の作成(9) 教材作成演習 11. 制御プログラム1 12. 制御プログラム2 13. 制御プログラム3 14. 教材作成演習 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	オリエンテーション時に案内します。		
成績評価の方法/Evaluation	演習課題(約6回)(90%)と受講態度(10%)を総合して評価する		
学習上の助言/Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業の受講者は、原則としてプログラミングIを受講済みであることを前提とします。 ・この授業は、系統的に学習を進行します。毎回欠かさず出席することを勧めます。 ・設備の都合から受講は30名までとします。技術科以外の学生の受講は事前申し込みが必要です。 		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	英語学演習A I		
担当教員(所属)/Instructor	天沼 実(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S650007
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	英語の伝統文法書の講読演習により伝統的な英文法の研究の成果を概観する。		
授業の達成目標/Course Goals	現代英語の事実把握および伝統文法の方法論と基本概念の理解と併せて、原書・原典を正確に読み取り、多角的に把握・理解する基礎的な力を身に付けることをはかる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	英語の文法面からの理解を専門的に深めてゆく素地を作り、学校教育教員養成課程にあつては教材や教授法の理解や検証・開発などに主体的取り組む力を、総合人間形成課程にあつては、言語研究を軸とした人文的素養を高めるための基盤を形成する。 本学部の専門教育学習・教育目標のうち、主として学校教育教員養成課程の(A)「学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる」及び(C)「教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる」、また、総合人間形成課程の(A)「社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している」に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校までの学習英文法の知識を身につけていること。		
関連科目/Related Courses	高等学校までの学習英文法の知識を身につけていること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的に講読演習の形式により進めるが、テキストの解釈や演習課題などに関する質問を交えた講義(recitation)も適宜まじえる。受講者の予習の一環として、先行して小テストを頻繁に行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	原書からの教材を読み進める。講読演習が主体で、受講者の理解を見つつ進める。 1. 概要説明 2. Introduction: What is grammar? (1) 3. Introduction: What is grammar? (2) 4. Introduction: What is grammar? (3) 5. Introduction: What is grammar? (4) 6. The parts of the simple sentence (1) 7. The parts of the simple sentence (2) 8. The parts of the simple sentence (3) 9. The parts of the simple sentence (4) 10. Sentences and Clauses (1) 11. Sentences and Clauses (2) 12. Sentences and Clauses (3) 13. Sentences and Clauses (4) 14. Review (1) 15. Review (2)		
教科書・参考書等/Textbooks	主要教材は教員が用意する。 参考書: Greenbaum, Sidney, and Gerald Nelson. An Introduction to English Grammar, 3rd ed., Longman, 2009. 参考書: 研究社『英語学要語辞典』 三省堂『現代英文法辞典』その他、随時紹介。		
成績評価の方法/Evaluation	課題の提出状況および内容評価(40%)と学期末試験の結果(40%)に授業への準備や参加の度合い(20%)を加味して評価する。総合的な到達度で100点満点中90点以上を秀, 80点以上を優, 70点以上を良, 60点以上を可とする。		
学習上の助言/Learning Advice	よく準備して、遠慮せずに質問すること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	障害児教育学演習 I		
担当教員(所属)/Instructor	池本 喜代正(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S716008
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	この演習では、障害児教育学のうち障害児教育史・教育制度・教育方法などに関する内容を扱う。		
授業の達成目標/Course Goals	受講生の関心に即してテーマを設定し、障害児教育の著作・文献や先行研究論文を購読し、研究方法論について検討しながら、障害児教育学の専門的知識を深めていくことを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教師に求められる資質・能力について考え、教職に対する関心を深め、教育実践に関する知識を得る。		
前提とする知識/Prerequisites	特別支援教育概論等を履修し、障害児教育に関する基本的知識があること。		
関連科目/Related Courses	特別支援教育概論等を履修し、障害児教育に関する基本的知識があること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この演習は、受講生の問題意識に基づいた障害児教育研究について学び、検討する。各自の課題を整理しながら、報告を中心に進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週文献・論文の読み方について 第3週教育学研究法について 第4週研究テーマについての検討 第5週受講生による報告・討議 第6週受講生による報告・討議 第7週受講生による報告・討議 第8週受講生による報告・討議 第9週論文執筆の手順と執筆の仕方 第10週受講生による報告・討議 第11週受講生による報告・討議 第12週受講生による報告・討議 第13週論文中間発表 第14週研究方法論の検討 第15週まとめ 第16週試験(実施しない予定)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:小笠原喜康、新版 大学生のためのレポート・論文術 参考書:白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度40%、レポート発表60%		
学習上の助言/Learning Advice	主体的・意欲的に参加してください。		
キーワード/Keywords	特別支援教育、先行研究、論文購読		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	環境数学基礎		
担当教員(所属)/Instructor	酒井 一博(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S855709
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	生物の個体数の世代ごとの変化を表現する「ロジスティック方程式」は「環境変数」と呼べるものをもっていて、その方程式から個体数の将来を予測することは一般に困難であることが知られている。この授業では、まずロジスティック方程式を題材に個体数の将来予測を試みるとともに、「環境」が将来の個体数に与える影響について数学的に検証していく。次に、自然界のフラクタル性(フラクタル図形)を学習する。具体的には反復関数系を用いたフラクタル図形の構成法を学習し、それを踏まえ、計算機演習室(Mathematica)においてフラクタル図形を作成する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の物を数学的に表現するための手段である「フラクタル」について理解する。 ・コンピュータを用い、具体的に自然界の物を表現できる。 ・非線形方程式で表される自然現象について理解する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	専門領域の学習を深めていく上で、数学は基本的な知識の1つである。また、社会における普遍的・今日的課題の考察や課題の解決に向けたプロセスには、論理的・科学的な思考力など、数学の学習を通し培われる素養が必要である。本授業では、数学の基本的な知識を習得するとともに、素養を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校の数学I, II, A, B		
関連科目/Related Courses	高等学校の数学I, II, A, B		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	高校で学習した基本的な数学を用いて、自然現象を表すロジスティック方程式を学習し、非線形現象を数学的に考察する能力を養う。授業では抽象的で厳密な議論は避け、関数のグラフ等を利用した演習を多く取り入れていく。具体的には、2次関数からなるロジスティック方程式やテント写像族を例題に取り上げ、パラメータ付き非線形方程式のもつ特有の性質について、コンピュータ支援による体験学習を通し理解を深める。また、反復関数系を用いたフラクタル図形を作成し、自然界の物を数学的に表現するための手段を学ぶ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業計画、講義と演習の方法、成績評価の方法) 2~5. 写像の繰り返し・グラフによる解析 6~7. ロジスティック関数族 8~9. カオスへの転移 10~11. 行列と一次変換 12~14. 反復関数系から作られるフラクタル集合 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書: デニー・ゲーリック著、「カオスとの遭遇(日本語)」, 産業図書, 1995.		
成績評価の方法/Evaluation	レポートによる評価(70%)と、授業中は数多くの演習も行いますので、出席数で評価します(30%)。		
学習上の助言/Learning Advice	この講義では厳密な理論はできるだけ避け、方程式のもつイメージを大切に、議論を進めていく。演習も多く取り入れるので積極的に問題を解いてもらいたい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	幼児教育の方法Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	畠山 大(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S900801
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	畠山 大(hatakeyama@sakushin-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	畠山 大(非常勤教員のため、何かあれば上記E-mailまで予約の連絡を入れること。)		
授業の内容/Course Description	本授業は、次の3つのまとまりを意識しながら進める。 (1) 幼児教育・保育の方法における基礎的な原理を習得すること。 (2) 現在、具体的にどのような幼児教育・保育の方法が存在するのかを理解すること。 (3) 既存の幼児教育・保育の原理及び方法を踏まえ、自らが一人の実践者として幼児教育・保育の方法を構想すること。		
授業の達成目標/Course Goals	以下の3つの点が到達目標である。 (1) 幼児教育・保育の基礎的な原理を習得した上で、現代の理論的課題について考察できるようにすること。 (2) 上記の点を踏まえ、幼児教育・保育のあり方として適切な活動を構想できるようにすること。 (3) 自らが構想した幼児教育・保育の方法を、具体的に指導案の形としてまとめ上げることができるようになること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「保育内容の指導法」に位置づけられる。また同時に、保育士資格取得に必要な「保育の内容・方法の理解に関する科目」に位置づけられる。		
前提とする知識/Prerequisites	広く人が生まれてから亡くなるまでの人間形成の過程の中で、幼児教育・保育がどのような位置・役割を占めているのかを意識しながら、幼児教育・保育のあり方を考察できる視野の広さを求める。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業形態としては基本的に講義形式で進めるが、可能な限り受講者とのコミュニケーションを交えて授業を進めていきたい。そのため、質問・意見・感想等を記入してもらうためのコメント・ペーパーの提出を毎時間求める。また、受講者数にもよるが、グループ・ディスカッションやグループ・ワーク等の活動型の授業形態や、DVD等の視聴覚教材を活用した授業形態も取り入れる予定である。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーションー幼児教育・保育において「方法」を問うとは何か。 第2回 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に記述された幼児教育・保育の基本原則とは何か。 第3回 「遊び」を通じた学びの機会の提供とは何を意味するか。 第4回 「環境を構成する」という行為の意味とは何か。 第5回 「子どもを知る」という行為の意味とは何か。 第6回 幼児教育・保育において「援助する」とは何を意味するか。 第7回 様々な幼児教育・保育の方法を理解しよう(1) フレーベル主義の幼児教育・保育実践 第8回 様々な幼児教育・保育の方法を理解しよう(2) モンテッソーリ教育における幼児教育 第9回 様々な幼児教育・保育の方法を理解しよう(3) シュタイナー教育における幼児教育 第10回 様々な幼児教育・保育の方法を理解しよう(4) レッジョ・エミリアの幼児教育 第11回 幼児教育・保育の活動を構想しよう(1) 原理・原則編 第12回 幼児教育・保育の活動を構想しよう(2) 指導案の作成① 第13回 幼児教育・保育の活動を構想しよう(3) 指導案の作成② 第14回 震災後の幼児教育・保育の方法を考える。 第15回 まとめー再考: 幼児教育・保育において「方法」を問うとは何か。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。授業は毎時間プリントを配布して進める。参考書は授業内の関連する場面で適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への貢献度(コメント・ペーパーの内容等)、授業時に課す小レポート(指導案等)および期末レポートを総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	本授業を履修する上でわからないこと、困ったこと等があれば相談に応じる。遠慮なく申し出て欲しい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	書法演習D		
担当教員(所属)/Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S910408
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30~18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容/Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、平成27年度以前の入学生を対象とする。 ・現代の書のあり方と今後の書の表現形式を模索する半期講座。 ・書法演習Dでは、「調和体、近代詩文の書、漢字かな交じりの書」と呼ばれる現代の表現形式を検証しつつ、さまざまな視点から新しい時代の書表現のあり方、存在方式を実践的に考察する。 		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的表現形式を参照し、その技法や構成法を修得する。 ・また、それらの研究を通して、理論、鑑賞力、指導力を培うと同時に、書の伝統文化への理解を深める。 ・深い教養、豊かな専門性、高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、主として学習・教育目標の項目記号(D)に関連する。 		
前提とする知識/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・平素より各書体の臨書を継続し、書法や表現技術の獲得に努める態度が望まれる。 		
関連科目/Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・書道教育法I ・書道史 ・書藝美学(書論、鑑賞) ・書法演習 ・書藝制作 		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的とは授業の進め方ではなく、この時間に観る「書蹟」こそ具体的といえる。 ・課題は指定日までに、発展課題は自学自習を進めること。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:古典臨書の方法論 2. 書体別テーマ設定 3. テーマ1(選択) 臨書 古典その1 4. テーマ1(選択) 臨書 古典その2 5. テーマ2(選択) 臨書 古典その1 6. テーマ2(選択) 臨書 古典その2 7. テーマ3(選択) 臨書 古典その1 8. テーマ3(選択) 臨書 古典その2 9. テーマ4(選択) 臨書 古典その1 10. テーマ4(選択) 臨書 古典その2 11. テーマ5(選択) 臨書 古典その1 12. テーマ5(選択) 臨書 古典その2 13. 個別テーマ(選択) 臨書 14. 個別テーマ(選択) 発表 15. 「総括」日本の書の歴史と未来 		
教科書・参考書等/Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な課題のみレジュメを配布する。 ・参考書については授業中に指示する。 ・臨書に必要な用具・用材については初回に指示、毛筆と下敷は指定する。(共同購入) 		
成績評価の方法/Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での到達目標が達成され、特に臨書(形臨)による理解60%、課題(作品、レポート)による認識40%を合計し、60%以上を合格とする。 		
学習上の助言/Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・各書体および書風の理解を深める基礎的な内容である。 ・書法演習の授業を通して、すべての技法習得に努力してほしい。 		
キーワード/Keywords	<ul style="list-style-type: none"> ・調和体 ・近代詩文の書 ・漢字かな交じりの書 ・現代書 		
備考/Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・書法演習Dは、高等学校教員免許一種「書道」取得には必修の科目である。 ・演習を通して、書の伝統への理解を深め、技法のみならず理論、鑑賞力、指導力などを養う。 ・現代の書の表現は、さまざまな形式を持ち始めている。それらの方式論の検証と新時代の表現形式は個人の創造性に委ねられる。 		

授業科目名(英文名) /Course Title	途上国経済発展論		
担当教員(所属)/Instructor	阪本 公美子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S950425
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	阪本 公美子(電話:028-649-5180 メール:ksaka@utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	阪本 公美子(木曜日 15:00-16:00(研究室にて))		
授業の内容/Course Description	国連を通じてミレニアム開発目標が合意されましたが、その最大の課題である「貧困」を、世界はどのように捉えているのでしょうか。本講義は、「貧困」が集中していると考えられている「発展途上国」に焦点を当て、「貧困」の定義や関連データ、さまざまな発展・開発に関する理論を学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	「貧困」及び発展途上国の発展・開発に関する理論を理解・応用できるようにすることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	①知識・理解:発展に関するさまざまな理論を学習することによって、多角的な理解を促す ②思考・判断:発展途上国の具体的な現状を、学んだ理論を応用し、考察する。 ③技能・表現:発展に関して、具体的事例を調べ、分析・発表・レポート作成する力を養う ④関心・意欲・態度:発展途上国の人びとの現状を、さまざまな観点から理解しようとする力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	「発展途上国」に対する関心や、そこに住む人々への等身大の共感、理論から現実や自らの生活との関係を考察しようとする積極的な姿勢を前提とします。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業形態は、講義と分類していますが、質疑応答のみならず、討論・議論も含めた受講者の積極的な参加を期待しています。教科書や指定参考書を授業に先立ち読んでくることを前提とし、随時その確認(メールによる宿題)を行います。また、授業の終わりに考察を記述して提出してもらいます。その他、小レポート、レポート、グループ発表、期末試験を課します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p style="text-align: right;"><予習文献>[課題]</p> <p>第1週 オリエンテーション [第2-4週 「貧困」とは? <斎藤2005:1章> 第2週 (1)皆さんのイメージから(集団討論) 第3週 (2)データから(実習) 第4週 (3)人々の価値観から(講義) レポート提出] [小レポート]</p> <p>[第5-14週 貧しさと豊かさをめぐるさまざまな考え方] 第5週 (1)概説(講義) <斎藤2005:2章> 第6週 (2)従属論(理論・講義) <西川2005:5章> 第7週 (3)人間開発理論(講義) <西川2000:12章、斎藤2005:10章> 第8週 (4)内発的発展論(講義) <鶴見1996:2章、西川2000:1,終章> 第9週 理論の応用:ビデオ 第10週 理論の応用:グループ討論 [レポート提出] 第11週 理論の応用 第12週 グループ・ワーク、発表準備 第13-14週 グループ発表、質疑応答、討論、優秀レポート発表、授業評価 第15週 期末試験 上記は受講生の理解度・状況・必要に応じて重点・日程など変わる可能性があります。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:西川潤(2000)『人間のための経済学』岩波書店(各自生協等で購入) 参考書:斎藤文彦(2005)『国際開発論』日本評論社 鶴見和子(1996)『内発的発展論の展開』筑摩書房など		
成績評価の方法/Evaluation	授業参加・記述・予復習等平常点(10%)・宿題(15%)、小レポート(8%)・レポート(17%)、グループ作業・発表(25%)、期末試験(25%)を基に総合的に評価		
学習上の助言/Learning Advice	理論に関する学習は、講義だけで簡単に理解できるものは少ないので、事前に教科書等を必ず読んで来てください。 なお、教員の健康上の理由のため、当日の喫煙・人工香料(香水など)をお控えください。また、授業中の換気を行いますこと、ご了解ください。後期の授業は寒い可能性があるため、暖かい服装にて受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育評価論		
担当教員(所属)/Instructor	丸山 剛史(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S158300
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	授業では、教育評価の意義、歴史的背景、現状、論点について講義を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	教育評価とは、教師にとっては、自らの教育実践をふり返り、自己反省と自己点検を行う活動であり、児童・生徒にとっては、教師の評価活動をとおして、教師から与えられるさまざまな情報を契機に、自らの学習活動を点検する活動のことであることがわかる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教育・教職に関する基礎的な学習を前提とした、教育評価研究を行うための基礎的・基盤的な内容である。		
前提とする知識/Prerequisites	教育基礎科目を受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	教育基礎科目を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画にもとづき、講義を基本として授業を進める。講義の途中で質問や意見発表を求めることがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(1) ガイダンス：授業概要の説明 (2) 教育評価の基本概念①：エバリュエーションとアセスメント (3) 教育評価の基本概念②：診断的評価、形成的評価、総括的評価 (4) 教育評価の基本概念③：カリキュラム評価 (5) 教育評価の立場と構造①：「エバリュエーション」の成立 (6) 教育評価の立場と構造②：「教育評価」の混迷と再生 (7) 教育評価の立場と構造③：到達度評価 (8) 教育評価の立場と構造④：教育評価論の位相と展開 (9) 教育評価の機能と方法①：教育実践と教育評価の役割 (10) 教育評価の機能と方法②：評価方法の原理と新しい評価の方法 (11) 教育評価の機能と方法③：パフォーマンス評価とポートフォリオ評価 (12) 教育評価の機能と方法④：教育評価の制度とその改善 (13) 日本における教育評価の展開①：近代日本の教育評価の歴史 (14) 日本における教育評価の展開②：第二次大戦後の教育評価の歴史 (15) まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書：田中耕治『教育評価』岩波書店(2008年)、田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房(2005年)		
成績評価の方法/Evaluation	成績評価は、定期試験(100%、試験相当のレポートになる可能性もある)の結果にもとづいて行います。試験の採点については、①要点が的確に理解されているか、②授業の内容に関して学習が行われたか、の2点をみます。		
学習上の助言/Learning Advice	疑問、課題意識が大切です。学校教育において当然と考えられていることを疑って考えてください。		
キーワード/Keywords	教育評価、試験、テスト、教育測定、真正の評価		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育学演習Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	小野瀬 善行(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S175042
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教育制度、教育行政、教育政策、学校経営の諸分野に関する国内外の文献を講読し、受講者同士で議論を深めることにより、様々な見方や考え方に触れ、さらに考察を深めていくというプロセスを体験していく。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度、教育行政、教育政策、学校経営の諸分野に関する専門的な文献を読み、自分なりの考察を深めることができる。 ・上記の作業を通じて、主体的な学習方法と論理的・複眼的な思考法を習得する。 ・受講者間の議論を通じて、さらに自分の思考を深める契機とすることができる。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育専攻の卒業論文作成に向けた基礎的知識と方法論を習得するための選択必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	教育学に関する興味・関心と現実の教育問題に関する課題意識があることにより、学習がより深まると思われる。		
関連科目/Related Courses	教育行政学、教育制度、比較教育で取り扱うトピックとの関連が深い。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各人が興味を持った領域やトピックに関する文献を読み、レジュメをまとめて発表し、その内容について受講者同士で討論、検討を行うという形式で進める。取り上げる文献は各人の希望を尊重して決定するが、様々な内容や主張のものを取り上げることができるよう、アドバイスを行う。討論では、他人の意見を聞き、それに対して自分の意見を的確ののべ、それらをもとに議論を展開していくという手法を学ぶことが期待される。また、本演習は、卒業論文に取り組むためのテーマの探求、執筆のための予備的トレーニングを兼ねる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 自己紹介と文献の設定 第2回 先行研究の検索方法について(図書館の利活用を学ぶ) 第3回 先行研究の検討方法について 第4回 共通文献講読① -各人の発表と討論- 第5回 共通文献講読② // 第6回 共通文献講読③ 第7回 共通文献講読④ 第8回 共通文献講読⑤ 第9回 共通文献講読⑥ 第10回 各人の設定した課題に基づく発表とその検討① 第11回 各人の設定した課題に基づく発表とその検討② 第12回 各人の設定した課題に基づく発表とその検討③ 第13回 各人の設定した課題に基づく発表とその検討④ 第14回 各人の設定した課題に基づく発表とその検討⑤ 第15回 学習のまとめとふりかえり		
教科書・参考書等/Textbooks	個人のテーマに応じて選定する。適宜、アドバイスを行う。		
成績評価の方法/Evaluation	各自の課題への取り組み状況(調査・発表)(50%)、討論への参加態度(50%)から総合的に判断する。正当な理由がなく出席が常でない学生の単位は認定しない。		
学習上の助言/Learning Advice	研究テーマや文献の選定については、適宜アドバイスを行うこととするが、一番重要なことは、教育の現状に対して「何かおかしい」「どうにか変えたい」「じっくり考えてみたい」という受講生みなさんの問題意識である。この問題意識をもつためにも日頃から大学での講義や演習、実習に主体的に取り組み、友人との語らいを大切にし、教育に関する問題意識を醸成してほしい。		
キーワード/Keywords	教育制度、教育行政、教育政策、学校経営、教育時事		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育心理学演習 A		
担当教員(所属)/Instructor	橘川 真彦(教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース 学校教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S178111
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	心理学の研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことをねらいとするものである。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文の作成に備えるための選択必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	教育心理学関係の専攻専門科目(講義)について「心理統計学」を含め4単位以上修得していること。		
関連科目/Related Courses	教育心理学関係の専攻専門科目(講義)について「心理統計学」を含め4単位以上修得していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講生が確定する初回の授業で知らせる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	具体的な授業の計画の詳細は、授業の開始時に知らせるので、必ず初回の授業(オリエンテーション)に出席のこと。掲示に注意。		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の中で指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	具体的な成績評価の方法についても、授業の開始時に知らせる。(出席については、全回出席を原則とする。)		
学習上の助言/Learning Advice	本授業科目は、学校教育専攻で教育心理学関係の卒業論文を作成する学生にとっては受講しなければならない科目である。専門的な演習なので、主体的な参加態度が強く期待される。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	力学		
担当教員(所属)/Instructor	堀田 直巳(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S361706
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	堀田 直巳(028-649-5311 hotta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	堀田 直巳(月, 金: 12:10~12:40 8号館C棟5階堀田研究室)		
授業の内容/Course Description	物体と力の相互作用について、理想的な条件のもとで物体の運動を調べて、その相互作用の本質の理解に接近するという力学の常套的な方法を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	質点の運動をあくまでニュートンの運動方程式をたてて力学現象を表現し、その解を求めることによって運動の原因と結果の関係を理解する態度を徹底的に追及する。簡単な微分方程式を解く技術を駆使して落体の運動、放物体の運動、調和振動子、円運動、楕円運動等の中心運動、相対運動等について理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	理科教育専攻の選択科目の一つとして、物理分野の基礎科目である「力学」について理解を深める。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校で学ぶ微分と積分の知識があればよい。		
関連科目/Related Courses	「基礎の物理学」, 「物理学」, 「基礎物理学実験」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は講義を主体に進める。例題を適宜解説する。理解を深めるために、演習を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回授業計画, 講義, 演習, 成績評価, 参考書等の紹介を行う。 第2回質点の運動: 質点, 位置ベクトル, 第3回速度ベクトルと加速度ベクトル, 一般座標による表現 第4回質点の力学: 運動の法則, 重力が働くときの運動, 束縛運動 第5回質点の力学: 単振動, 強制振動と減衰振動, 運動量と力積 第6回仕事とエネルギー: 仕事と仕事率, 保存力とポテンシャル 第7回仕事とエネルギー: 運動の表現, ニュートンの力学 第8回仕事とエネルギー: ケプラーの法則と重力, 運動とエネルギー 第9回万有引力: 万有引力の法則 第10回万有引力: 地球による万有引力 第11回相対運動: 並進座標系における運動方程式 第12回相対運動: ガリレイ変換 第13回相対運動: 回転座標系における運動方程式, コリオリの力 第14回質点系の力学: 質点の運動方程式 第15回質点系の力学: 運動量保存則		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 阿部龍蔵著「力学」(新改訂版)サイエンス社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法/Evaluation	演習(20%), 試験(80%)を原則とする。		
学習上の助言/Learning Advice	力学現象の理解は物理学のみでなく自然や工学的な事象を理解する基礎となる。		
キーワード/Keywords	学校教育教員養成課程, 理科教育, 物理学		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	音楽史B		
担当教員(所属)/Instructor	前原 恵美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S401010
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	音楽通史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽)。		
授業の達成目標/Course Goals	<p><学校教育教員養成課程> 中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史の能力を修得する。</p> <p><総合人間形成課程> 音楽家および音楽教養人たるために必要な、音楽史の能力を修得する。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学生は、上記到達目標に達するための学習活動を行う。		
前提とする知識/Prerequisites	日本や世界の音楽および音楽を取り巻く環境に広く関心を持っていること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	日本や世界の音楽について、視聴覚資料を用い、音楽を取り巻く社会や他文化との関わりにも焦点を当てながら多面的に概説する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1週 ガイダンス、日本の伝統音楽1 雅楽(1) (①雅楽の歴史)</p> <p>第2週 日本の伝統音楽2 雅楽(2) (①舞楽、②管絃、③催馬楽と朗詠)</p> <p>第3週 日本の伝統音楽3 能楽(①能楽の歴史、②能と狂言)</p> <p>第4週 日本の伝統音楽4 琵琶楽(①琵琶楽の歴史、②盲僧琵琶、平曲、薩摩琵琶、筑前琵琶)</p> <p>第5週 日本の伝統音楽5 三曲(1) (①尺八楽の歴史、②地歌箏曲の歴史)</p> <p>第6週 日本の伝統音楽6 三曲(2) (①尺八楽、②地歌、③箏曲、④三曲合奏)</p> <p>第7週 日本の伝統音楽7 文楽と音楽(①文楽の歴史、②文楽と音楽)</p> <p>第8週 日本の伝統音楽8 歌舞伎と音楽①(①歌舞伎の歴史)</p> <p>第9週 日本の伝統音楽9 歌舞伎と音楽②(①歌舞伎と音楽)</p> <p>第10週 日本の民俗芸能 日本の民俗芸能(①四季折々の民俗芸能)</p> <p>第11週 世界の音楽1 アフリカの音楽</p> <p>第12週 世界の音楽2 アジアの音楽1(①西アジアの音楽、南アジアの音楽)</p> <p>第13週 世界の音楽3 アジアの音楽2(①東アジアの音楽、②東南アジアの音楽)</p> <p>第14週 世界の音楽4 ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアの音楽</p> <p>第15週 まとめ 授業で取り上げた音楽を「聴いて」、その音楽と特徴を判断する小テストを含む。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は用いず、授業内にプリントを配布する。参考書と教材についても授業内に紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(70%)、まとめでの小テスト(30%) 授業中の迷惑行為者(私語など)は、上記に関わらず、大幅減点ないし単位不授与。		
学習上の助言/Learning Advice	授業で取り扱う範囲が幅広いため、授業時間内に視聴覚資料を全曲通して鑑賞することは難しい。視聴覚資料の情報を提供するので、受講者は日頃から積極的にこれらの作品に関心を持ち、鑑賞するよう努めること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	作曲Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	木下 大輔(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S410020
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
授業の内容/Course Description	作曲実技(その2)。		
授業の達成目標/Course Goals	〈学校教育教員養成課程〉中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)の修得。 〈総合人間形成課程〉音楽家・音楽教養人たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)のより高度な修得。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	上記到達目標に達するための作曲実技を行う。		
前提とする知識/Prerequisites	「作曲Ⅰ」を履修・修得済みであること。		
関連科目/Related Courses	「作曲Ⅰ」を履修・修得済みであること。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	個人レッスン、演習、相互批判、討論、諸問題と方法論に関する講義。なお、演奏会形式の作品発表会を随時設け、研究の公開および相互批判の場とする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回歌曲構想 第3回歌曲着手 第4回歌曲途上 第5回歌曲推敲 第6回歌曲浄書 第7回歌曲完成 第8回歌曲試演 第9回ピアノ・ソナタまたは変奏曲構想 第10回ピアノ・ソナタまたは変奏曲着手 第11回ピアノ・ソナタまたは変奏曲途上 第12回ピアノ・ソナタまたは変奏曲推敲 第13回ピアノ・ソナタまたは変奏曲浄書 第14回ピアノ・ソナタまたは変奏曲完成 第15回ピアノ・ソナタまたは変奏曲試演 ただし、実技作業のため、各項目の時数・順序は受講生の進捗状況により変化する。		
教科書・参考書等/Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> 『こどもたちへ メッセージ2015どうぶつ編』1・2 カワイ出版 『こどもたちへ メッセージ2016世界のごちそう編』1・2 カワイ出版 木下大輔『こだま号で行こうーこどものためのピアノ曲集ー』カワイ出版 木下大輔『追分ー無伴奏チェロのためのー』日本作曲家協議会(JFC-1503) 島岡譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ』音楽之友社 池内友次郎、島岡譲、ほか『和声ー理論と実習ーⅢ』音楽之友社 ギャロン、ピッチュ(矢代秋雄訳)『対位法』音楽之友社 『新総合音楽講座』1~9ヤマハ音楽振興会 柳田孝義『名曲で学ぶ対位法』音楽之友社 山口博史『厳格対位法』音楽之友社 山口博史『フーガ書法:パリ音楽院の方式による』音楽之友社 		
成績評価の方法/Evaluation	作曲内容と取り組みが優れているか否か(100%)。ただし、本学部規定の出席日数に達しない者には、単位を与えられない。また、授業中の迷惑行為者(私語など)は、大幅減点ないし単位不授与。		
学習上の助言/Learning Advice	作曲は実技である。声楽やピアノの練習と同様、日々の鍛錬を怠らないこと。		
キーワード/Keywords	作曲		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	環境創造領域入門演習		
担当教員(所属)/Instructor	松居 誠一郎(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950020
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松居 誠一郎(matsui@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松居 誠一郎(火曜日午後5時から5時半 事前にメールで問い合わせてください)		
授業の内容/Course Description	環境、環境問題、およびそれに関連する諸分野について演習形式で学ぶ		
授業の達成目標/Course Goals	環境などについての自主的な学習方法の習得および、その分野についての理解を深めること		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は、「」学部専門教育科目の自己開発科目の選択科目である。環境創造領域での学習内容に理解をふかめ、自主的な学習態度を養成する		
前提とする知識/Prerequisites	環境創造領域に所属する2年生が対象です		
関連科目/Related Courses	環境創造領域に所属する2年生が対象です		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	演習		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	図書や論文を事前に指定し、毎回1から3名程度の発表者が内容の紹介をおこなう。		
教科書・参考書等/Textbooks	テーマ毎に指定します		
成績評価の方法/Evaluation	レポートなどを総合して評価します		
学習上の助言/Learning Advice	なし		
キーワード/Keywords	環境創造領域		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スポーツ健康領域入門演習		
担当教員(所属)/Instructor	黒後 洋(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S950030
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	スポーツ健康領域での学習内容について概説するとともに、領域の特性を生かしたフィールドワークなどの演習を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	スポーツ健康領域での学び方、領域の説明を行い、専門領域での学修をより深く理解すること。また、スポーツ健康領域、及び保健体育の教員の授業と接点を持ち、専門領域での学びの広さや深さを感じることを。これらを通して、3年次以降の自らの履修計画を立てることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	必修の専門教育科目		
前提とする知識/Prerequisites	総合人間形成課程の初期セミナーB及びカリキュラム設計演習を受講していること。		
関連科目/Related Courses	総合人間形成課程の初期セミナーB及びカリキュラム設計演習を受講していること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	領域内の教員が交代で担当します。授業形式については、少人数による履修計画、及び専門領域でのフィールドワーク等を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 スポーツ健康領域のカリキュラムについて 第2回 スポーツ健康領域で自律的に学ぶことについて 第3回 スポーツ健康領域の紹介 ① 第4回 スポーツ健康領域の紹介 ② 第5回 スポーツ健康領域の紹介 ③ 第6回 フィールドワーク計画作成 第7回 フィールドワーク① 第8回 フィールドワーク② 第9回 フィールドワーク③ 第10回 フィールドワーク④ 第11回 フィールドワーク⑤ 第12回 活動報告① 第13回 活動報告② 第14回 活動報告③ 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	「自信力が学生を変える」(河地和子 著 平凡社新書 ISBN 4-582-85276-9)		
成績評価の方法/Evaluation	(1) 授業への出席50%、(2) 授業の聴き方、授業への取り組み方25%、(3) 与えられた課題や活動への取り組み方25%、の3点を合わせて評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	本演習はフィールドワークを含むため、一部集中授業形式で行います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	国語 (平成23年度以降入学者用)		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 啓子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S101000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鈴木 啓子(suzukike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鈴木 啓子(金曜日10時~10時半、16時~17時。できれば、事前にメール等で予約しておこしてください。6号館3階、鈴木啓子研究室、芥川龍之介のイラストがウィックしている扉です。)		
授業の内容/Course Description	本授業は、平成23年度以降の入学生を対象とする。「国語」の特色と意義について、総論及び書写3回、国文学4回、国語学4回、国語国文学4回の計15回のオムニバス形式で開設する。それぞれの学問分野の専門性に基づいて、教育現場に即した事例・教材の提示・解説を行い、小学校で国語を教える際に必要な、日本語・日本文学・書写に関する基礎的知識、文学的教材を扱う際の基礎的技能を具体的に講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語」の特色と意義について深く理解する。 ・小学校の教員として必要な「書写」の指導法に関する基礎的な知識を修得する。 ・小学校「国語」で「文学的教材」を扱う際に必要となる態度・知識・技能を修得する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	小学校教員免許を取得するための免許法指定科目「国語(書写を含む)」に対応する授業科目として開設する。「国語」という教科の特色・意義を、「書写」「国語学」「国文学」の3分野を通して学び、小学校で国語を教える際に必要な態度・知識・技能を修得する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。「教職入門」など小学校教員免許関連必修科目の取得希望者であること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	総論及び書写(中島宗皓(望))・国文学(守安敏久)・国語学(澤崎文)・国語国文学(鈴木啓子)の4教員体制で行う。国語国文学(鈴木啓子)のうち1回は、実施指導講師を招聘し、小学校の国語教材に即した授業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 総論ーガイダンス:国語科の指導と目的 第2回 書写①ー国語のなかの書写 第3回 書写②ー書写の指導と目的 第4回 国文学①ー夏目漱石の人と文学 第5回 国文学②ー夏目漱石の思想 第6回 国文学③ー正岡子規の短歌 第7回 国文学④ー高浜虚子の俳句 第8回 国語学①ーことばの働きと特徴 第9回 国語学②ー古典文学のことば 第10回 国語学③ー辞書のことば 第11回 国語学④ーことばの表記 第12回 国語国文学①ー文学的教材の特質と意義 第13回 国語国文学②ー小説・童話の読解方法 第14回 国語国文学③ー小学校高学年の教材 第15回 国語国文学④ー小学校中学年の教材・まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:プリントを配布 参考書:「漱石とその時代」第1~5部、江藤淳、新潮社(図書館所蔵) 「新しい国語表記ハンドブック」(第7版)、三省堂編修所編、三省堂		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業に対する積極的な取り組み、出席状況を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	第1回の授業(ガイダンス)には必ず出席してください。欠席の場合は原則として受講を認めません。 The class is not designed for studying Japanese as foreign and second language. 不是学日。這節課不是學習日語課。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	初等社会科教育法		
担当教員(所属)/Instructor	溜池 善裕(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S102212
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	溜池 善裕(tameike @cc.utsunomiya-u.ac.jp (送信する際には, tameikeの後のスペースを取って下さい))		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	溜池 善裕(水3・4)		
授業の内容/Course Description	初等社会科教育を手がかりとして教育に関わる基本的な問題について考究する。		
授業の達成目標/Course Goals	小学校における社会科授業が、どのような教授・学習過程であるべきかについて説明することが出来る。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	授業論に関係する基本的な科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	子どもへの興味。人間理解への関心。自分を取り巻く社会への関心。		
関連科目/Related Courses	子どもへの興味。人間理解への関心。自分を取り巻く社会への関心。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	小学校社会科における諸問題を受講者とともに考えることを通して、教育に関する基本的な視座を得ることが出来るようにする。考えるべき諸問題は抽象的でありながら、目の前の子どもをどうするかという具体的で実践的な問題である。講義で扱われた問題については、各自が事典や概説書等によって学習することがのぞましい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 授業について考える (1) 教える・学ぶ 2 授業について考える (2) 集団的思考 3 授業で子どもは変えられるか (1) 単元・指導計画 4 授業で子どもは変えられるか (2) 板書・発問 5 授業で子どもは変えられるか (3) 個性的思考 6 授業で学級を育てる (1) よい授業 7 授業で学級を育てる (2) 子ども相互の関わり 8 授業で学級を育てる (3) 一人学習・相互学習 9 小学校社会科の現状 (1) 指導要領 10 小学校社会科の現状 (2) 教科書 11 小学校社会科の現状 (3) 教材 12 小学校社会科の成立と変遷 (1) 社会科と綴方教育 13 小学校社会科の成立と変遷 (2) 問題解決の学習 14 どんな社会科授業をしたいのか 15 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	第1回目に指示する。第1回目は必ず出席のこと。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業の振り返りカード20%、授業でのグループ討論等への取り組み20%、レポート20%、定期試験40%		
学習上の助言/Learning Advice	日頃、当たり前だと思っていることについて考えます。講義をするだけでなく、学生による議論や、グループでの作業・発表等を予定しています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育相談		
担当教員(所属)/Instructor	白石 智子(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S103910
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教育相談の領域、対象、方法に関する基礎的な知識を学んだ上で、それらをどのように活用するかという実践的な課題について検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	教育相談の位置づけおよび理論と実践について最低限の知識を身につけること、また、受講生各々が自分なりの「教育相談の視点」をもち実生活に役立てることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は、学校教育教員養成課程の課程共通科目、総合人間形成課程の人間発達領域専門科目に含まれるものであり、各課程・領域における専門性を高めるという目標に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	前提として要求する知識・経験はないが、強い意欲と明確な目標をもって受講すること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	パワーポイントを用いた講義に加え、資料・文献の読み込み、ディスカッション、ロールプレイ等を実施する。毎回授業終了時にリアクションペーパーを配布し、その内のいくつかについて次回に回答もしくはディスカッションを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回：ガイダンスー教育相談とはー 第2回～4回：教育相談に活かす発達の視点 第5回：不応と問題行動 第6回：メンタルヘルス 第7回～8回：発達障害と特別支援教育 第9回：教育相談に活かす対象理解の方法論ー観察・検査・面接ー 第10回～11回：教育相談に活かすカウンセリング技法1ー人間関係を築くコミュニケーションー 第12回：教育相談に活かすカウンセリング技法2ー学習理論と行動療法ー 第13回：教育相談の組織と連携 第14回：教育相談の実際問題 第15回：まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。必要な資料は配布する。参考書については、授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	リアクションペーパー20%、小レポート30%、試験50%		
学習上の助言/Learning Advice	板書やパワーポイントを写すことに気をとられ、肝心の内容がほとんど理解できていない、何も感じないといった事態にならないようにしてください。話をきくこと、またその態度は、教育相談の基本です。内容理解に活きるノートテイキングのスキルを磨いてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育相談 (カウンセリングを含む)		
担当教員(所属)/Instructor	白石 智子(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S103915
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教育相談の領域、対象、方法に関する基礎的な知識を学んだ上で、それらをどのように活用するかという実践的な課題について検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	教育相談の位置づけおよび理論と実践について最低限の知識を身につけること、また、受講生各々が自分なりの「教育相談の視点」をもち実生活に役立てることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は、学校教育教員養成課程の課程共通科目、総合人間形成課程の人間発達領域専門科目に含まれるものであり、各課程・領域における専門性を高めるという目標に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	前提として要求する知識・経験はないが、強い意欲と明確な目標をもって受講すること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	パワーポイントを用いた講義に加え、資料・文献の読み込み、ディスカッション、ロールプレイ等を実施する。毎回授業終了時にリアクションペーパーを配布し、その内のいくつかについて次回に回答もしくはディスカッションを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回: ガイダンスー教育相談とはー 第2回～4回: 教育相談に活かす発達の視点 第5回: 不応と問題行動 第6回: メンタルヘルス 第7回～8回: 発達障害と特別支援教育 第9回: 教育相談に活かす対象理解の方法論ー観察・検査・面接ー 第10回～11回: 教育相談に活かすカウンセリング技法1ー人間関係を築くコミュニケーションー 第12回: 教育相談に活かすカウンセリング技法2ー学習理論と行動療法ー 第13回: 教育相談の組織と連携 第14回: 教育相談の実際問題 第15回: まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。必要な資料は配布する。参考書については、授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	リアクションペーパー20%, 小レポート30%, 試験50%		
学習上の助言/Learning Advice	板書やパワーポイントを写すことに気をとられ、肝心の内容がほとんど理解できていない、何も感じないといった事態にならないようにしてください。話をきくこと、またその態度は、教育相談の基本です。内容理解に活きるノートテイキングのスキルを磨いてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育臨床学演習 II		
担当教員(所属)/ Instructor	川原 誠司(教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース 学校教育専攻)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	S107656
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 前期/ First semester 金 / Fri 1, 金/ Fri 2	単位数/ Credits	2単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/ Contact	川原 誠司(メールアドレス: kawahara★cc.utsumiya-u.ac.jp (★を@に変えてください) 電話: 028-649-5340 ※迷惑電話が多いので、できるだけメールでの予約・質問をお願いいたします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/ Office Hours	川原 誠司(月曜日12:10~12:40 / 木曜日14:30~16:00 (相談等はできるだけ予約願います。急用で対応できない場合もあります。上記以外でも、短い時間で終わるもの等は、在室中は極力対応します))		
授業の内容/ Course Description	・教育における臨症的な問題について演習形式で学んでいく。IIでは「教師のストレスとその対応」について考える。授業では”教師”のストレスに主に焦点を当てるが、これは教師に留まらず、対人関係に関する様々な職業における問題と関連づけることができる。		
授業の達成目標/ Course Goals	・対人現場における「職業的対応の難しさ」「自らが成長することの意義」といったものを学ぶ。 ・支える者のあり方の心理的な側面について学ぶ。 ・教え育て、支える者になるということについての意味を考え、自分自身に必要な視点や意識、態度を修得する。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本授業は、学校教育教員養成課程の「教科又は教職」(2014年度履修表まで)、総合人間形成課程人間発達領域の「領域専門科目」であり、領域における専門性を高めるという目標に対応している。		
前提とする知識/ Prerequisites	・自分自身についてしっかりと考え、表現してみようとする事。 ・他者とのコミュニケーションと取る事、取ろうとする事。 ・専門的な文献や資料をしっかりと読んだり、調べたりする意欲があること。		
関連科目/ Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	・ストレスに関するトピックを4つ選び、それぞれを「実状」と「改善への視点」の2部構成で行う。さらに改善への視点をせる要因を3つの面から考える。 ・視聴覚教材や文献なども活用して行う。 ・e-Learningを利用した課題提出等があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 ガイダンス、調査の実施 第2回 調査の実施、対人印象(続き) 第3回 多忙化や多忙感(1) その実状 第4回 多忙化や多忙感(2) 改善への視点 第5回 子どもとの関係(1) その実状 第6回 子どもとの関係(2) 改善への視点 第7回 保護者との関係(1) その実状 第8回 保護者との関係(2) 改善への視点 第9回 同僚との関係(1) その実状 第10回 同僚との関係(2) 改善への視点 第11回 ストレス対応への力量形成(1) -事例から感じ取る- 第12回 ストレス対応への力量形成(2) -自分の性格と価値観- 第13回 ストレス対応への力量形成(3) -これまでの教師体験からの影響(その1)- 第14回 ストレス対応への力量形成(4) -これまでの教師体験からの影響(その2)- 第15回 ストレス対応への力量形成(5) -言動に関する具体的能力-		
教科書・参考書等/ Textbooks	・特に教科書として使用するものではありません。しかし、教師のストレスに関しては近年よく出版されているので、教師を目指す人はぜひ読んでみてください。		
成績評価の方法/ Evaluation	・「受講状況」ならびに「個々の課題の出来(提出状況や内容)」などを合わせて評価します。		
学習上の助言/ Learning Advice	・対人関係にまつわる職業は美辞麗句で表現されることが多いですが、実際は非常に大変な状況を抱えています。それを理解した上で職務にあたる”しなやかな”人になってもらいたいと考えています。		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	基礎の化学		
担当教員(所属)/Instructor	山田 洋一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S851606
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	山田 洋一(yamadayo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	山田 洋一(前期 木11:30-12:00 後期 金11:30-12:00)		
授業の内容/Course Description	理科教員免許取得用に開講する「化学」。広く化学分野全体を見渡します。		
授業の達成目標/Course Goals	物質の構造と性質, 酸と塩基, 中和反応, 酸化還元反応, 電気分解と電池, 無機化学, 有機化学, 高分子化学, 環境化学, 生活と化学, 生命と化学に関わる基礎基本を理解します。中学校理科1分野, 及び高校化学の教員として必要な化学分野の理論及びその指導法を習得することをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	中学校理科1分野及び高校化学についての指導内容・方法と密接に関連します。		
前提とする知識/Prerequisites	高校化学の授業内容を修得していることが望ましい。 未履修者は, 基盤教育「リメディアル化学」をあわせて履修することを勧めます。		
関連科目/Related Courses	高校化学の授業内容を修得していることが望ましい。 未履修者は, 基盤教育「リメディアル化学」をあわせて履修することを勧めます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義を中心とします。中間に1回, 期末に1回, 試験を行い, 理解度を確認しながら進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質をつくるおおもと 2. 原子と原子の結びつき 3. 物質の状態 4. 化学変化のしくみといろいろな反応 (1) 化学変化と熱の出入り 5. " (2) 酸と塩基の反応 6. " (3) 酸化還元反応 7. 無機物質 (1) 非金属元素の単体と化合物 8. 試験1回目 9. 無機物質 (2) 金属元素の単体と化合物 10. 有機化合物 (1) 脂肪族化合物 11. " (2) 芳香族化合物 12. 高分子化合物 (1) 天然高分子化合物 13. " (2) 合成高分子化合物 14. 人間と化学のかかわり (1) 生活と化学, 環境と化学 15. " (2) 生命と化学 16. 試験 (2回目) 		
教科書・参考書等/Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書: 基礎化学12講(化学同人) ISBN978-4-7598-1152-0 ・教科書: 新しい高校化学の教科書(講談社ブルーバックス) 4-06-257508-6 ・参考書: 高校で使った化学の教科書 		
成績評価の方法/Evaluation	2回の試験の成績と, 出席状況を総合して評価します。なお, 答えは採点后, 返却します。		
学習上の助言/Learning Advice	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校・高等学校理科教員免許取得用 2. 受講生の主体的な取組を期待します。 		
キーワード/Keywords	理科第1分野 高校化学 教科専門		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	情報技術演習 I		
担当教員(所属)/Instructor	川島 芳昭(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	S921205
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業は、高等学校の普通教科「情報」の学習指導に必要なコンピュータプログラミングの基本的な知識・技能の習得を演習を通して行います。		
授業の達成目標/Course Goals	本授業は、高等学校における教科「情報」の学習指導に必要なコンピュータプログラミングの知識・技能を習得するため次の3つを到達目標とします。 (1) コンピュータの基本的な情報処理の仕組みを説明できる。 (2) コンピュータの基礎的なプログラミングの知識・技能を習得し、プログラムの構造を説明できる。 (3) 情報処理の手順を考え、基礎的なプログラムを作成できる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	高等学校の普通教科「情報」の免許を取得するための必修科目です。普通教科「情報」を指導する教員に必要な基礎的な知識・技能や指導方法の修得を目指します。		
前提とする知識/Prerequisites	BASIC等によるプログラミング入門に関する授業や、「情報教育」を受講済みであることが望ましい		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本授業は、プログラミング言語(Pascal)を用いて授業計画に示した手順で授業を進めますが、授業の進行状況に応じて、順序や内容の一部を変更することもあります。授業では、教科書の課題を用いて、情報処理の基礎的な内容について解説します。演習では、解説した内容に関連した課題のプログラムの作成と実行を行います。演習結果は、レポートとして提出する。授業の演習課題等については、e-Learningシステムを併用して情報提供します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. Pascal入門、実習用システムとプログラミングの基礎 2. コンピュータの構成と仕組み 3. データの型と式、算術関数、数値計算の基礎 4. 条件判断とアルゴリズム 5. 多方向分岐、論理演算 6. 配列、ソーティング 7. 関数と手続き、再帰のアルゴリズム 8. 繰り返し処理とアルゴリズム 9. 文字、文字列の扱い 10. ファイルの扱い、書き込み、読み出し 11. コンピュータの計算のしくみの学習指導 12. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関連 13. 学習指導への応用、学習指導要領との関連 14. 課題解決の支援 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 「Pascalプログラミング」長野・他 東大出版会(貸出) 教材: USBタイプのフラッシュメモリ 1個 教科書は貸し出します、教材は生協等で入手してください。		
成績評価の方法/Evaluation	プログラミング等の課題レポート(9回程度、約50%)、試験(約50%)を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講の前に、BASIC等によるプログラミングの入門に関する授業や、情報教育を受講しておくことを勧めます。 2. この授業は、Pascal言語を用いた演習を中心とした授業です。授業内容は段階的に進み、積み重ねが多いため、毎回欠かさず出席することを勧めます。 3. 授業内容に関連したプログラミング等の課題が出題されます。 		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	版画 A		
担当教員(所属)/Instructor	株田 昌彦(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	S470005
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 2, 金/Fri 3, 金 /Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	株田 昌彦(【株田 昌彦】mkabuta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	株田 昌彦(水曜13時~14時20分)		
授業の内容/Course Description	銅版画の制作手順および作品(レンブラント、駒井哲朗等)を紹介し、技法のメカニズムを講義する。それを踏まえエッチング、ソフトグランドエッチング、アクアチントによる作品制作の実技指導を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	銅版画の特性を理解し、凹版特有の表現法について関心を高めると共に、銅版画制作を実践し、彫り、腐食、刷りといった技術を修得し、間接法(腐蝕によって溝をつくる)による銅版画のメカニズムを理解する。間接法による銅版画は特に専門的な技能が必要とされるため、学校教育の題材としては一般的ないが、美術館で展示される銅版画の作品を鑑賞する際に、制作経験の有無は大きく作品の読み取りに影響する。そのため、美術の教員の専門的な技能の向上を視野に入れている。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、銅版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。		
前提とする知識/Prerequisites	描写力の基礎が必要である。デッサンⅠ、Ⅱを受講していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	描写力の基礎が必要である。デッサンⅠ、Ⅱを受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	主に間接法による銅版画制作を行う。具体的には、エッチングによる線の効果(ハッチング)、ソフトグランドによるプリンティング、アクアチントによる柔らかいトーンといった、それぞれの技法を実践し凹版特有の表現効果について学ぶ。最終週には講評会を行い、作品についての客観的な見方を養う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション版画についての概説、授業内容の提示 第2週材料、道具の使用法 第3週エッチング(風景)①下絵の制作 第4週エッチング(風景)②版の下準備、下絵の転写 第5週エッチング(風景)③彫り、腐食1回目 第6週エッチング(風景)④彫り、腐食2回目 第7週エッチング(風景)⑤彫り、腐食3回目 第8週ソフトグランドエッチング①素材の収集、版の下準備 第9週ソフトグランドエッチング②プレス機による転写、腐食 第10週ソフトグランドエッチング③ニードルによる加筆 第11週アクアチント①下絵の制作 第12週アクアチント②版の準備(松ヤニの噴霧) 第13週アクアチント③彫り(大まかな構成) 第14週アクアチント④彫り(細部の描写) 第15週講評会		
教科書・参考書等/Textbooks	絵画技法体系版画Ⅰ、Ⅱ ニードル等の各種版画素材、スケッチブック(授業の中で指示する。)		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度(40%)と提出作品(60%)を合計して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	間接法による銅版画特有の表現効果を学ぶこと。腐蝕銅版画はグラウンドの塗布、腐蝕、松ヤニの焼き付け、刷り、といった複雑な工程を経て作成される。また一つの工程にも注意すべき点が多くあるので、集中して授業に臨むこと。使用教室の都合上受講人数は10人を上限とする。美術教育専攻および総合人間形成課程芸術文化領域以外の学生は要相談。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	算数 (平成23年度以降入学者用)		
担当教員(所属)/ Instructor	牧野 智彦(教育学部)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	S101100
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 前期/ First semester 金 / Fri 3, 金/ Fri 4	単位数/ Credits	1単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容/ Course Description	本授業では、教科の中で我々が慣れ親しんでいる「数」や「図形」について、その性質を数学の立場から考察し、数や図形のもつ面白さや奥深さについて講義する。また、それら数学的背景を踏まえ、具体例をもとに教科内容の必要性・重要性を探る。		
授業の達成目標/ Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の内容である「数」と「図形」に関して、数学的背景が分かる。 ・教科内容としての重要性の理解を深める。 		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	小学校教員免許取得に必須の科目である。本授業では、教科内容の数学的背景を探り、それらの学校数学における重要性について、専門的理解を深める。		
前提とする知識/ Prerequisites	特になし		
関連科目/ Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	3名の教員によるオムニバス形式で授業を進める。担当教員ごとに試験を行う。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 授業の目標と方法、評価 第2回 自然数 第3回 整数 第4回 有理数 第5回 実数 第6回 中間試験 第7回 規則の繰り返し (フラクタル図形) 第8回 自然の中の規則 (黄金比) 第9回 円周率と連分数 第10回 素数の規則性・不規則性 第11回 中間試験 第12回 算数教育について 第13回 数について 第14回 計算について 第15回 図形の計量について 第16回 試験 *時間などの都合により内容を多少変更することがあります。		
教科書・参考書等/ Textbooks	資料は授業中に適宜配布する。		
成績評価の方法/ Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当教員の試験 (計3回) 90% ・授業の参加態度 10% 		
学習上の助言/ Learning Advice	本授業は3名のオムニバス形式ということもあり、担当教員ごとに試験を実施する。各担当の教員の授業の内容について、しっかり学習して下さい。また、わからないところ等は質問するなどして対応してください。 ※「算数」の受講は「算数科教育法」の履修条件である。		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			